The essentials of imaging

www.minolta.com

DiMAGE Xt

使用説明書

基本撮影

撮影モード

再生モード

パソコンで画像を見る

その他

MINOLTA DiMAGE Xt 使用説明書

目次

お買い上げありがとうございます。

ミノルタディマージュXtは、軽量・コンパクトなボディに光学3倍ズーム機能を搭載したデジタルカメラです。屈曲光学系の採用により超薄型ボディを達成、メインスイッチを入れるとすぐに撮影ができる快適さに加え、音声付き動画や音声記録も可能です。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

動画撮影/ボイスレコード............. 80

動画の撮影方法とボイスレコード(音声記録)の方法について説明しています。動画撮影/ボイスレコードの前に一通りお読みください。

再生モード 87

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

(右上に続く)

再生モード

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

(左下からの続き)

(次ページへ続く →)

目次

セットアップモード 125

液晶モニターの明るさやメニュー表示言語、操作音・シャッター音などカメラの細かな設定を変更できます。必要に応じてお読みください。

パソコンで画像を見る 145

このカメラで撮影した画像をお持ちのパソコンに取り込む方法や、カメラを画像入力装置として使用する方法（PCカメラ）について説明しています。

その他 168

一般的な注意事項や、トラブル時の処置等を記載しています。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

リチウムイオン電池 NP-200 について

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用のチャージスタンドをご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

⚠ 危険

電池のプラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時・充電時温度：0℃～40℃
火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：－20℃～30℃
湿度：45%～85%

⚠ 警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・チャージスタンド・電池について

⚠ 警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

チャージスタンド BC-300 のACコードは、100-120ボルト、50/60ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダ、台湾で使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（チャージスタンドやACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 警告

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（チャージスタンドやACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

カメラ・チャージスタンド・電池について（続き）

⚠警告

チャージスタンドやACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。

コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（チャージスタンドやACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。

使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。

電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

⚠ 注意

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

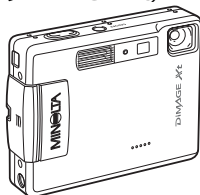
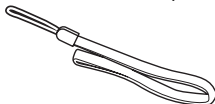
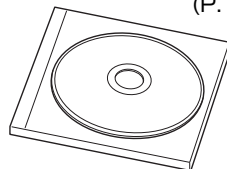
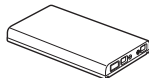
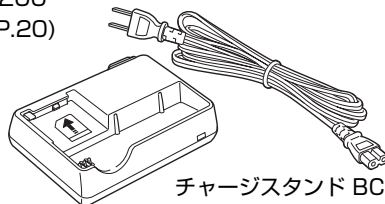
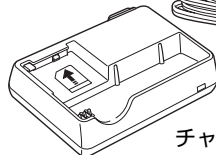
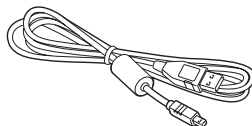
チャージスタンドやACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

チャージスタンドやACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、チャージスタンドやACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

チャージスタンドやACアダプターを、電子式変圧器(海外旅行用の携帯型変圧器など)を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

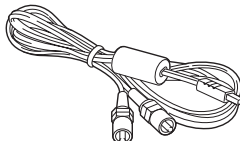
内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

本使用説明書

DiMAGE Viewer使用説明書
(ディマージュビューアー)

アフターサービスのご案内

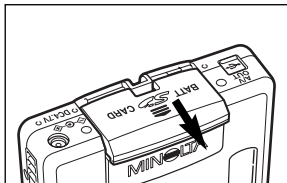
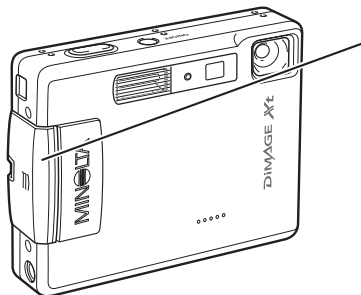
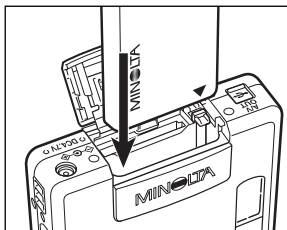
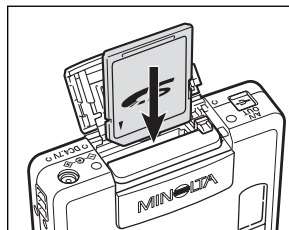
保証書

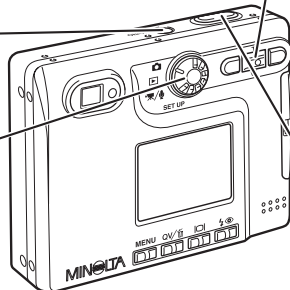
ミノルタからのお知らせ

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されている「ミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページからオンライン登録を行っていただけます。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

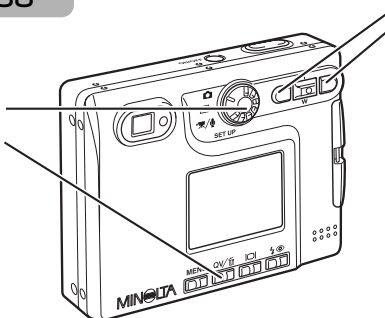
準備をする

1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。→P.22

2. 充電済みの電池を入れます。→P.22

3. カードを入れます。→P.26

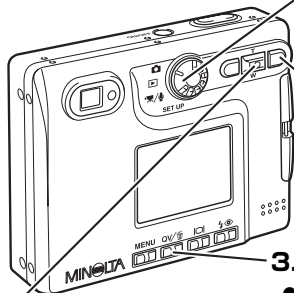
撮影する →P.32

1. メインスイッチを押して電源を入れます。
2. モード切り替えダイヤルを📷に合わせます。
3. 上下レバーで撮りたいものの大きさを決めます。
4. シャッターボタンを押して撮影します。

再生する →P.38、88

1. モード切り替えダイヤルを📷に合わせ、クイックビュー/消去ボタンを押します。

または、

1. モード切り替えダイヤルを▶に合わせます。

2. 左右キーで見たい画像を選びます。

消去する →P.39、99

1. モード切り替えダイヤルを📷に合わせ、クイックビュー/消去ボタンを押します。または、モード切り替えダイヤルを▶に合わせます。

- 撮影された最新の画像が表示されます。

2. 左右キーで消去したい画像を選びます。

3. クイックビュー/消去ボタンを押します。

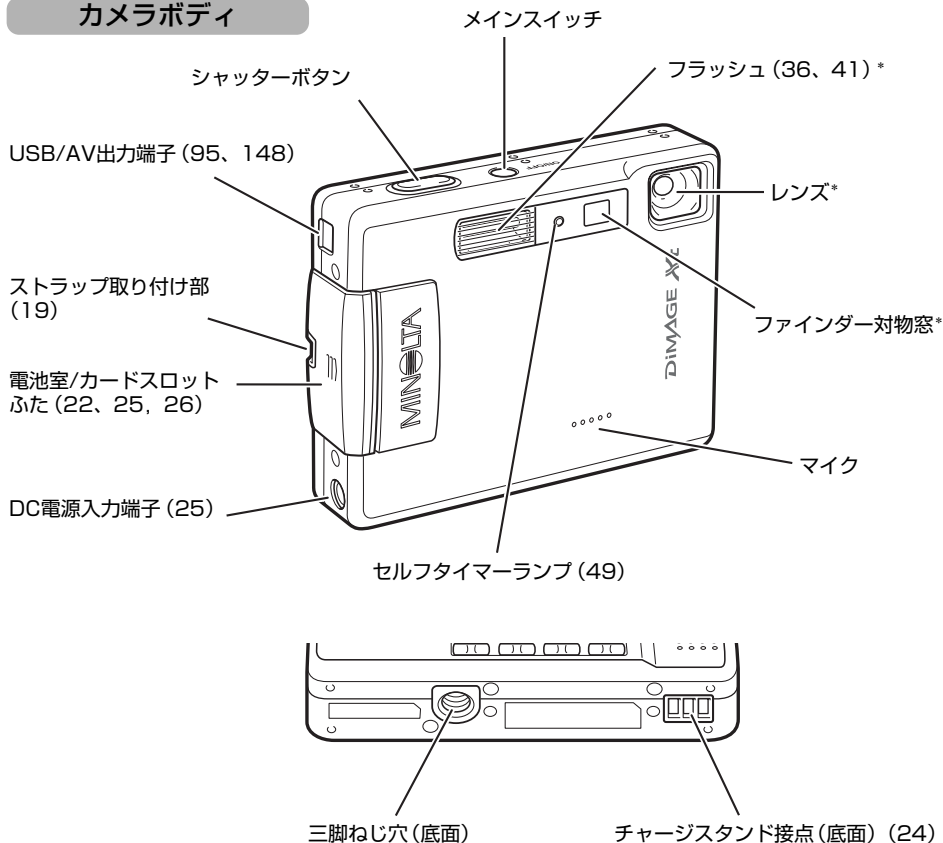
- 下の画面が現れます。
- 消去しない場合は、もう一度クイックビュー/消去ボタンを押すか、左右キーで「いいえ」を選択してください。

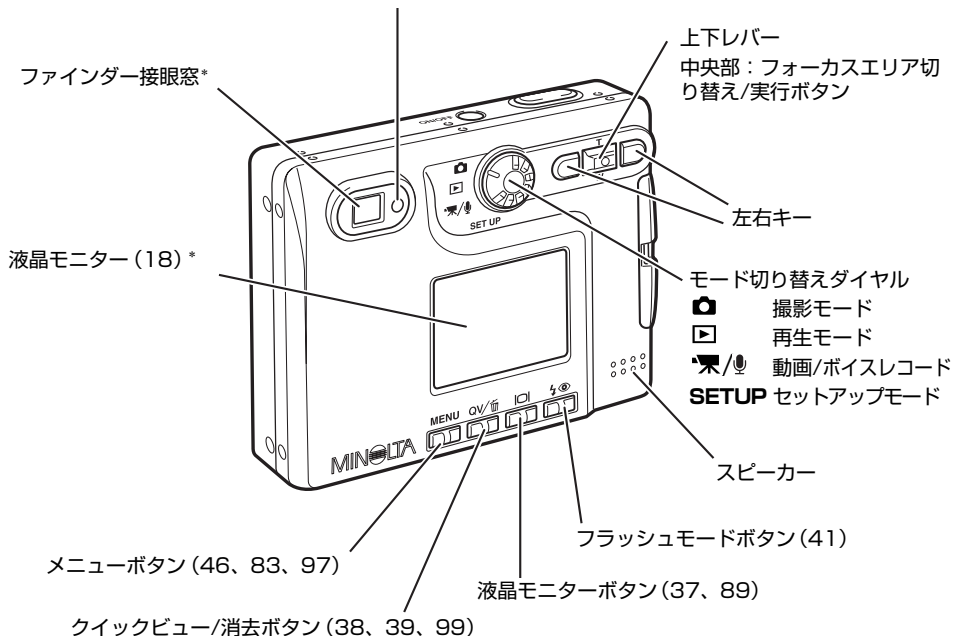
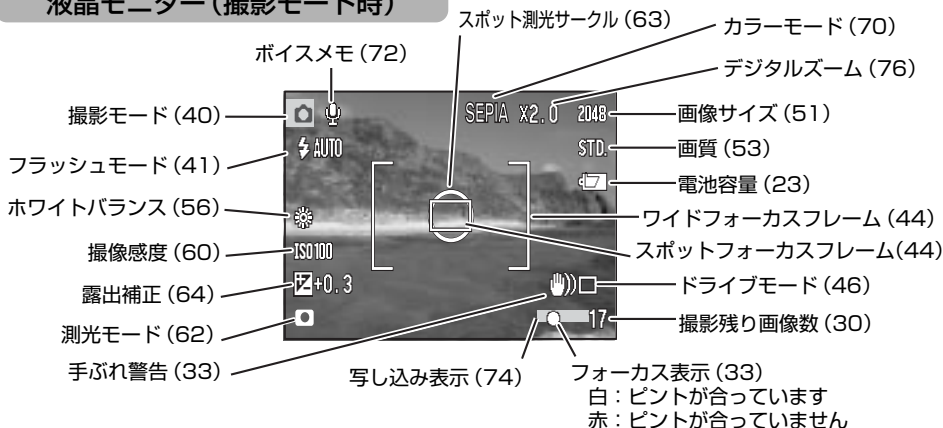
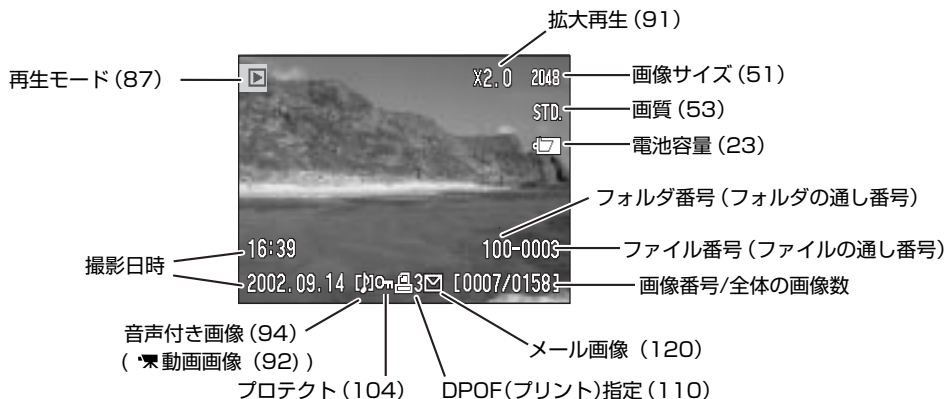
4. 上下レバー中央の、フォーカスエリア切り替え/実行ボタンを押します。

- 画像が消去されます。

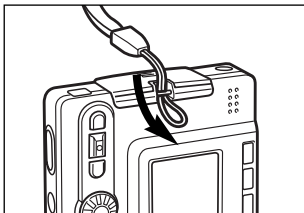
各部の名称

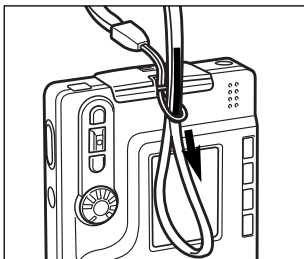
*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

カメラボディ

撮影/アクセスランプ

緑色点灯	：撮影できます。
緑色すばやく点滅	：ピントが合いません（P.33、34）。
緑色ゆっくり点滅	：手ぶれに注意してください。
赤色点灯	：カメラが起動中です。
赤色すばやく点滅	：フラッシュ充電中（P.36）、または電池容量がありません（P.23）。
	：シャッターボタンを押した時に点滅すれば、カードに空きがない（P.30）
	：またはカードがロックされている（P.26）か認識できません。
ｵﾚﾝｼﾞ色すばやく点滅	：カードに記録中です。カードを取り出さないでください。

各部の名称（説明のためすべての表示を点灯させています。）

基本撮影

この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

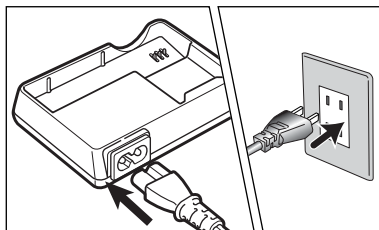
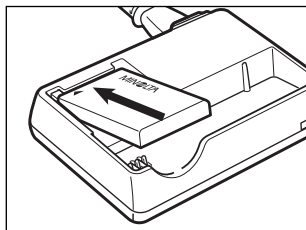
ストラップの取り付け方

1.ストラップ取り付け部に、ストラップの短い方を通します。

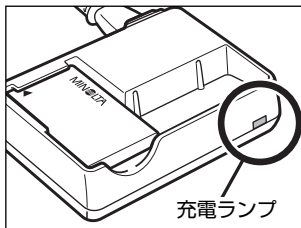
- 先端を細くして通してください。
- 取り付け部に対して垂直に押し込むようにすると通りやすくなります。通らない場合は、先の細い物で先端を引っ張り出してください。

2.通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

電池を入れる

このカメラでは、付属の専用電池（リチウムイオン電池NP-200）を使用します。お買い上げの際には電池の充電はされていません。付属のチャージスタンドBC-300で完全に充電してからお使いください。

● チャージスタンドBC-300に付属のACコードは、100-120ボルト、50/60ヘルツ用です。日本、アメリカ、カナダ、台湾ではそのままお使いになれます。それ以外の地域や国でのご使用については177ページをご覧ください。

電池（単体）を充電する

1. 電源コードを、チャージスタンドの電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2. 電池をチャージスタンドに取り付けます。

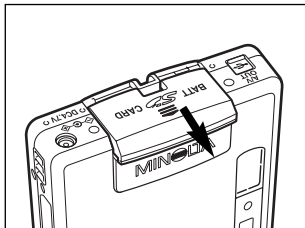
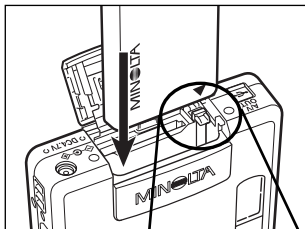
● 接点部分を先に、文字面を上にして入れてください。

● 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。

● 充電時間は約80分です。

3. 充電ランプが消えたら充電完了です。

● 電池を取り出して、コードをコンセントから抜いてください。

- 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
- 電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。
- 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。
- 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回、5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。
- 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
- 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

電池を入れる

1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2. 電池ロックレバーを図の方向に押しながら①、接点を先に、文字面をカメラ前面側にして電池を入れます。

- 電池ロックレバーは①の方向にのみ操作してください。反対方向に操作すると、レバーが折れることがあります。

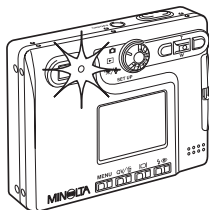
3. 電池室を元通り閉めます。

- 最後まで確実に閉めてください。

日付/時刻を設定してください

- 長時間電池を抜いたままにしておくと、日時の設定が失われます。液晶モニターに左のメッセージが現れたら、日時を再設定してください（→P.28）。

電池容量の確認

メインスイッチを押して電源を入れたり、撮影・再生モードを切り替えたりすると、電池の容量が液晶モニターに表示されます。

電池容量は十分です。（3秒間のみ表示）

電池容量が少なくなりました。（3秒間のみ表示）
これより電池容量が少なくなると節電のためフラッシュ充電中は液晶モニターが消灯します。

（赤色になった場合）電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできます。

赤ランプが3秒間すばやく点滅（左図）、または「電池がなくなりました」というメッセージが現れるときは、電池を充電するか、新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

- 何も表示されないときは、電池が充電されているかどうか確認してください。
- 長時間の撮影、再生、パソコンとの接続時、PCカメラとして使用時には、別売りのACアダプターAC-4の使用をおすすめします。

オートパワーオフ（操作しないでいると自動的に電源が切れます）

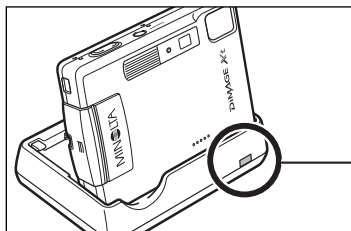
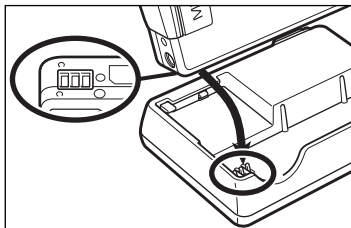
約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的にカメラの電源が切れます（オートパワーオフ）。撮影を再開する場合は、もう一度メインスイッチを押して電源を入れてください。

- オートパワーオフまでの時間（初期設定は3分）を変更することもできます。→ P.139

電池をカメラに入れたまま充電する

カメラに電池を入れたままでも、付属のチャージスタンドで電池を充電できます。

1. カメラに電池を入れます。詳しくは → 22ページ

2. 電源コードを、チャージスタンドの電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

3. カメラの電源が切れていることを確認して、チャージスタンドに取り付けます。

- お互いの接点部分を合わせ、スタンドに立ててください。
- 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。充電時間は約120分です。
- **カメラの電源が入っていると充電されません。**
- カメラを取り付けても充電ランプが点灯しない場合は、カメラをいったん取り外して再度取り付け直してください。
- カメラを取り付けると充電ランプが点滅する場合は、カメラに電池が入っているか確認してください。電池が入っているのに充電ランプが点滅する場合は、裏表紙記載のフォトサポートセンターにお問い合わせください。

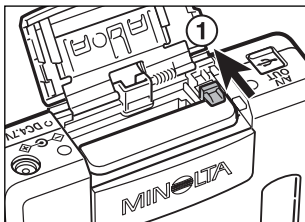
4. 充電ランプが消えたら充電完了です。

- カメラを取り外して、コードをコンセントから抜いてください。

※ チャージスタンドは、USB接続の際（→ P.146）やPCカメラとして使用時（→ P.162）のカメラスタンドとしてお使いいただけます（カメラの電源が入っているときは電池の充電は行われません）。

※ カメラ底面のチャージスタンド接点にほこり等がついていると充電されない場合があります。乾いた先の細い綿棒などで、ときどきチャージスタンド接点を拭いてください。

電池を取り出す

電池を取り出すときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから取り出してください。

1. 電池室/カードスロットふたを開けます。

- ふたの開け方は → P.22

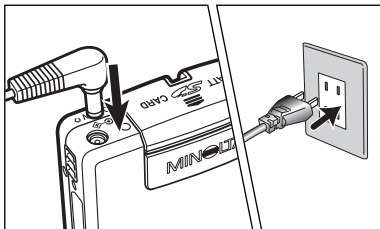
2. 電池ロックレバーを図の方向に押して①、電池を取り出します。

- 電池ロックレバーは①の方向にのみ操作してください。反対方向に操作すると、レバーが折れることがあります。

電池の追加購入

このカメラの専用電池（リチウムイオン電池 NP-200）を追加で購入される場合は、お買い求めの販売店、もしくは、「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口、または、ホームページにてご購入ください。

ACアダプター（別売り）

屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプター AC-4 を使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。

接続のしかた

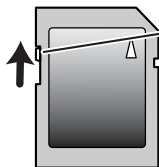
1. カメラの電源が入っていないのを確認してから、DC電源入力端子にACアダプターのプラグを差し込みます。
2. ACアダプターをコンセントに差し込みます。

取り外し方

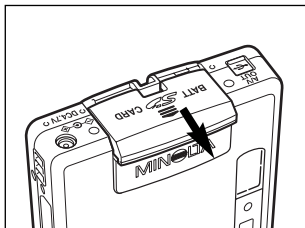
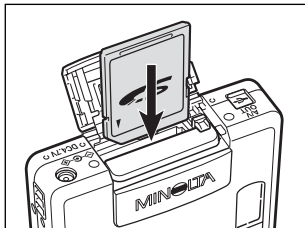
1. カメラのメインスイッチを押して電源を切ります。
2. コードをコンセントから抜いて、ACアダプターのプラグをカメラから取り外します。

カードを入れる/取り出す

入れ方

画像を記録するには、SDメモリーカードまたはマルチメディアカード（以下、カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いになれます。

ライトプロテクトスイッチ

- SDメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、カードへのデータ書き込みが禁止され、カード内の画像等を保護することができます。書き込みする際には、スイッチを上に上げてください。

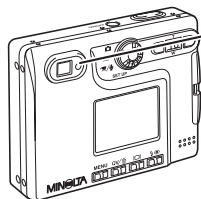
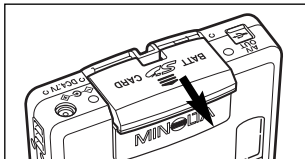
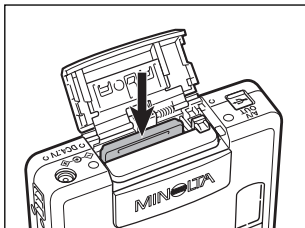
カードを入れるときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから入れてください。

1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2. カードのラベルをカメラの前面側、接点を背面側に向け、ラベル上の▼マークを挿入口に向けて、カチッと音がするまで押し込みます。

- まっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
- 奥まで入ると、カードはロックされます。

3. ふたを閉めます。

- 閉まらない場合は、下の要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

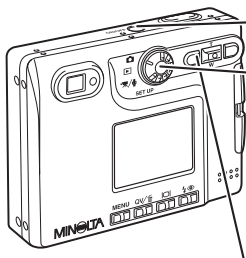
- カードが入ってないときは、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。また、撮影モードでは撮影残り画像数が、動画・ボイスレコードモードでは時間表示が、赤色の − − − になります。
- マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。

取り出し方

オレンジ色のアクセスランプが点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

1. カメラがOFFになっているのを確認後、カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2. カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。
- ロックが外れ、カードが出てきます。

3. カードを取り出し、ふたを閉めます。

日時を設定する

カメラをご購入後初めて使用されるとき、長時間電池を抜いたままにしたときなど、「日付/時刻を設定してください」というメッセージが現れたら、日時の設定を行なってください。また日時の変更が必要な場合も、以下の手順に従ってください。

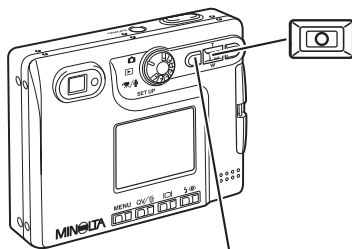
日付/時刻を設定してください

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

2. モード切り替えダイヤルを回して SETUP に合わせます。

基本 応用1 応用2
モニター明るさ –
フォーマット –
ファイルNo.メモリー なし
ファイル形式 標準形式
言語/Lang. 日本語

3. 左右キーで「応用2」を選びます。

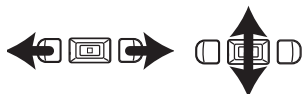
4. 上下レバーで「日時設定」を選びます。

5. 右キーを押します。

6. フォーカスエリア切り替え/実行ボタンを押します。

● 日時修正画面になります。

7. 左右キーで修正したい項目を選びます。

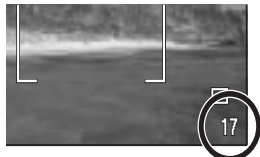
8. 上下レバーで希望の数値を選びます。

2003.03.01 00:00

9. 必要なだけ7、8の操作を繰り返します。

10. 修正が終了すると、フォーカスエリア切り替え/実行ボタンを押します。

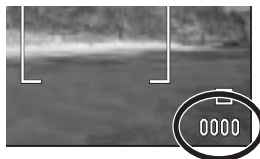
● 日付設定が完了し、時計がスタートします。

● 途中でメニューボタンを押すと、日時設定を行なわずに元の画面にもどります。

撮影の準備

撮影残り画像数

カードを入れて、カメラの電源を入れ撮影モードにすると、液晶モニター右下に撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。付属のカード（16MB）で初期設定（画像サイズ2048×1536、画質スタンダード）で撮影する場合、記録できる画像数は約17枚です。

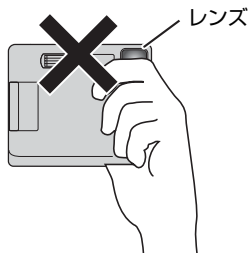
● 異なる容量のカードを使用した場合や、画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影を行なった場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は → P.55

● 「0000」が赤字で表示され、「カードに空きがありません」というメッセージが出たときは、カードがいっぱいです（シャッターボタンを半押しすると、ファインダー横の赤ランプがすばやく点滅します）。画像サイズまたは画質を変更する、カード内の画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。
画像サイズの変更 → P.51
画質の変更 → P.53
画像の消去 → P.39、99、100

● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。

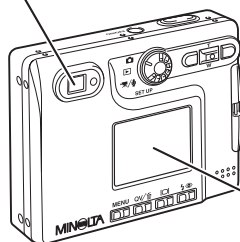
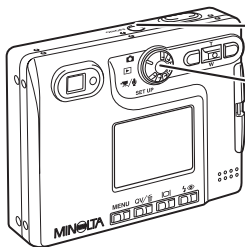
カメラの構え方

ファインダーで撮影する場合

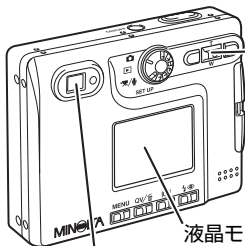
手ぶれが起こらないよう、脇を締め、両手でしっかりとカメラを構えて撮影してください。ファインダーをのぞいて撮影すると、手ぶれが起こりにくくなります。

- 縦位置で撮影するときは、フラッシュをレンズより上にしてください。
- ファインダーを使って撮影するときは、液晶モニターをOFFにすると電池の消耗を軽減することができます。→ P.37
- レンズやフラッシュなど、カメラの前面に指や髪、ストラップがかからないようにしてください。
- 動画撮影時（→ P.82）やボイスレコード（→ P.85）で録音中は、カメラ前面にあるマイクを指などでふさがないようにしてください。

レンズに指をかけないように！
ファインダーを使って撮影すると、レンズに指がかかっていても見えません。失敗の原因となるので注意してください。

正確に構図を決めるときは

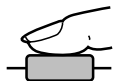
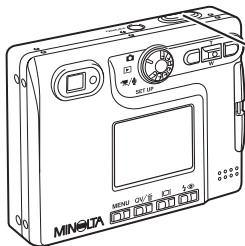
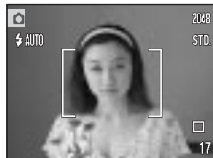
正確な構図を決めるときは、ファインダーではなく液晶モニターのご使用をおすすめします。
詳しくは36ページをお読みください。

撮影する

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

2. モード切り替えダイヤルを📷に合わせます。

● 撮影モードになります。

3. 液晶モニターまたはファインダーをのぞいて構図を決め、上下レバーでズームして大きさを決めます。

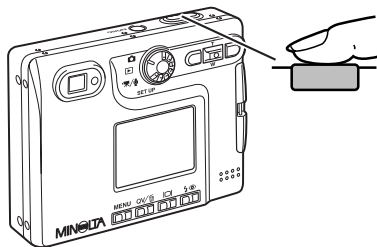
● レバーを上に押すと望遠に、下に押すと広角になります。

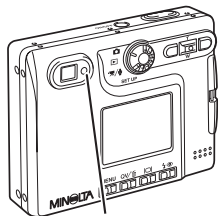
● 液晶モニター内の［　］中のものにピントが合います。
　※ピントが合わないときは → P.34

● 撮りたいものから15㎝以上離れてください。

4. シャッターボタンを半押しします。

● シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。

● シャッターボタンを半押しするとピントが合います。ピントが合うと、液晶モニター右下には白い○が、ファインダー横では緑ランプが点灯します。

※半押ししたときのその他の表示については →次ページ

5. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

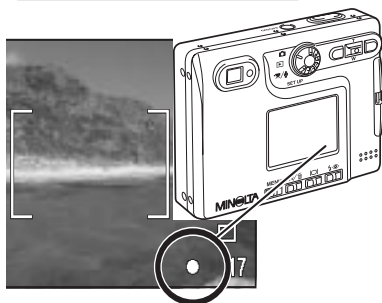
- 液晶モニターがONの状態で、撮影後シャッターボタンを押し込んだままにしていると、撮影した画像が液晶モニターに表示され確認することができます。シャッターボタンを押し続けなくても、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます。（アフタービュー、P.78）

撮影/アクセスランプ

- 撮影された画像は自動的にカードに記録（書き込み）されます。書き込み中はオレンジ色のアクセスランプが点滅します。**その間はカードを取り出さないでください。**

- シャッターボタンを半押しした時に現れる表示の意味は以下の通りです。

ファインダー横 撮影/アクセスランプ	液晶モニター 右下の表示	状況
緑色で点灯	白色の○点灯	ピントが合っています。撮影できます。
緑色ですばやく点滅	赤色の○点灯	ピントが合わない、または撮りたいものに近づき過ぎています（→ P.34）。
緑色でゆっくり点滅		シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。
赤色ですばやく点滅	赤色の0000	カードに空きがありません（→ P.30）。

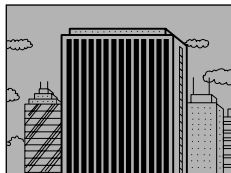
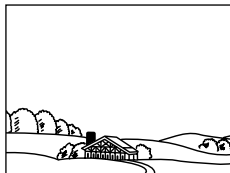
- 撮影終了後は、メインスイッチを押して電源を切ってください。

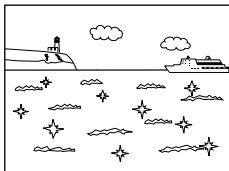
ピント合わせ

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、[　]の中のものにピントが合います。ピントが合うと、ファインダー横の緑ランプと、液晶モニターの白色のフォーカス表示○が点灯します。

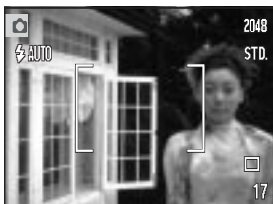
緑ランプがすばやく点滅し、赤い●が点灯したときは、ピントが合っていません。以下を確認してください。
・撮りたいものから15cm以上離れていますか？
・オートフォーカスの苦手な被写体（以下参照）を撮影しようとしていませんか？

● ピントが合わない場合にそのまま撮影すると、フラッシュが光るときはカメラから2m離れた場所に、フラッシュが光らないときはカメラから約20m離れた場所にピントが合います。
● 自分の意図する部分に、より厳密にピントを合わせたい場合は、スポットAFをお使いいただけます。(→ P.44)

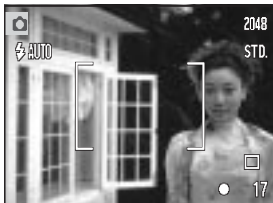
オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト(明暗差)を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、次ページのフォーカスロック撮影で、被写体と同じ距離にあるものにピントを固定して撮影してください。

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

[　]の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように明るいものや、
車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

ピントを合わせたいものが画面中央にないとき

ピントを合わせたいものが画面中央にないときに、そのまま撮影すると、中心部の背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

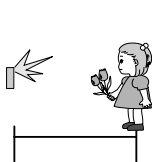
● ピントが合っていること（液晶モニター右下の白い○と、ファインダー横の緑ランプ点灯）を確認します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

フラッシュ撮影

フラッシュが自動発光 ⚡AUTO の場合、必要時には自動的に発光します。

※フラッシュモードを変更するには →P.41

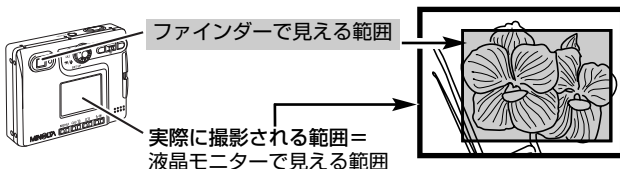
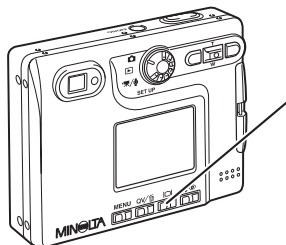
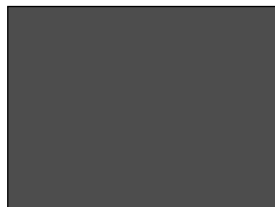
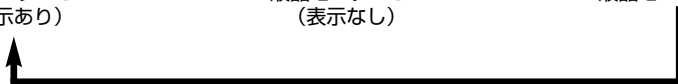
- ファインダー横の赤ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。赤ランプ点滅が終わると充電が完了しシャッターボタンを操作することができます。充電が完了している場合は、半押ししたときに緑ランプが点灯し撮影できます。
- オートリセットが「あり」の場合は、電源を入れるたびに、フラッシュは自動発光 ⚡AUTO (ただし赤目軽減自動発光を設定していた場合のみ赤目軽減自動発光 ◎AUTO)になります。(→P.69)

広角側：0.15～3.2m
望遠側：0.15～2.5m

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.2m、最望遠側では2.5mを目安に撮影してください。(撮像感度AUTO時)

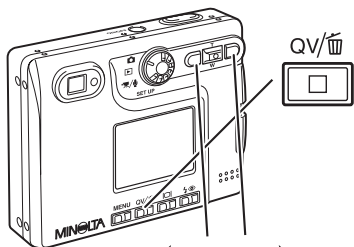
近くのものを撮影するとき

広角側で1m、望遠側で3m以内のものを撮影するときは、液晶モニターを使って撮影してください。

- 近くのものを撮影する場合、レンズを通って実際に記録される画像とファインダーを通して見える画像にずれが生じます。右図のようにファインダーで覗いたときは、左側が広く写る傾向があります。

画面表示の切り替え（撮影モード）

撮影モード（モードダイヤル 📷 位置）で液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

液晶モニターON（表示あり）　液晶モニターON（表示なし）　液晶モニターOFF

- 液晶モニターをOFFにすると電池の消耗を減らすことができます。このときはファインダーを使って撮影してください。
- 近くのものを撮影するときは、液晶モニターを使って撮影してください。→ 前ページ
- この使用説明書では、液晶モニターON・表示あり（左端）の状態で説明しています。

※各表示については → P.18

- 液晶モニターON・（表示なし）のときも、電池容量（P.23）と写し込み表示（P.75）は表示されます。
- オートリセットを「あり」にしている場合は、電源を入れ直すと液晶モニターON・表示あり（左端）の状態になります。　それ以外の設定を保持したいときは→ P.68、69

撮影した画像を見る（クイックビュー）

1.クイックビュー/消去ボタンを押します。

●撮影された最新の画像が表示されます。

2.左右キーで見たい画像を選びます。

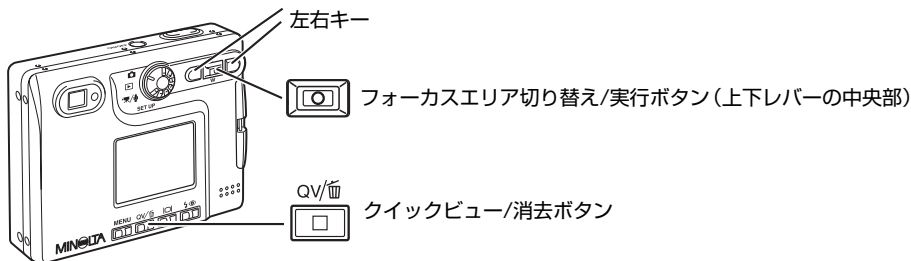
●シャッターボタンを半押しするかメニューボタンを押すと、撮影モードにもどります。

●画像が記録されていない場合は、「画像がありません」と表示されます。

※再生モードの詳細については → P.87

画像を手早く消去する

画像を1コマずつ簡単に消去することができます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. クイックビュー/消去ボタンを押します。

2. 左右キーで消去したい画像を選びます。

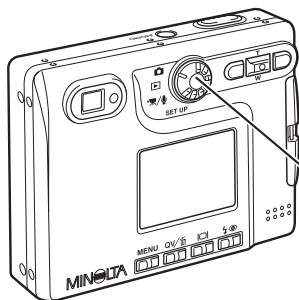
3. もう一度クイックビュー/消去ボタンを押します。

● 右の画面が現れます。
● 消去しない場合は、左右キーで「いいえ」を選んでください。
● 画像がプロテクト（→ P.104）されていて、消去できない場合は右の画面が現れます。

4. フォーカスエリア切り替え/実行ボタンを押します。

● 画像が消去されます。
● 消去後は次の画像が表示（再生）されます。他に消去したい画像があるときは、**2.**～**4.**の操作を繰り返します。
● シャッターボタンを半押しするかメニューボタンを押すと、撮影モードにもどります。

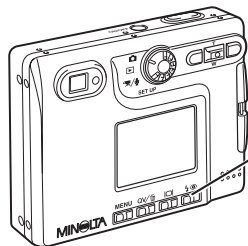
※複数の画像をまとめて消去するときは → P.100

撮影モード

カメラのモード切り替えダイヤルを📷位置にすると、撮影モードになります。この章では、この撮影モードについて説明しています。

フラッシュモードを設定する

フラッシュモードを、自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、発光禁止、夜景ポートレートのうちから選んで設定することができます。

- ファインダー横の赤ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。赤ランプ点滅が終わると充電が完了しシャッターボタンを操作することができます。充電が完了している場合は、半押ししたときに緑ランプが点灯し撮影できます。
- オートリセットが「あり」の場合は、電源を入れるたびに、フラッシュは自動発光 (ただし赤目軽減自動発光を設定していた場合は赤目軽減自動発光)になります。お買い上げ時には「あり」に設定されています。

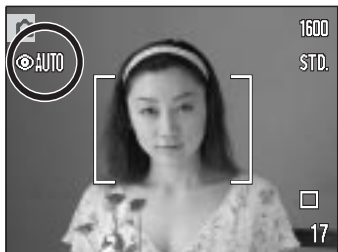
それ以外の設定を保持したいときは → P.68、69

フラッシュモードボタンを押すたびに、下の順序でフラッシュモードが切り替わります。

- 設定されるフラッシュモードが液晶モニター中央に大きく表示されます。ボタン操作をやめてしばらくすると、そのフラッシュモードに設定されて撮影画面にもどります。

自動発光	必要時にはフラッシュが自動的に発光します。→P.42
↓ 赤目軽減自動発光	フラッシュで人物の目が赤く写るのをやわらげます。 フラッシュは必要時には自動的に発光します。→P.42
↓ 強制発光	フラッシュは必ず発光します。→P.42
↓ 発光禁止	フラッシュは発光しません。→P.43
↓ 夜景ポートレート	夜景を背景に人物を撮影するときに使います。→P.43

フラッシュ自動発光

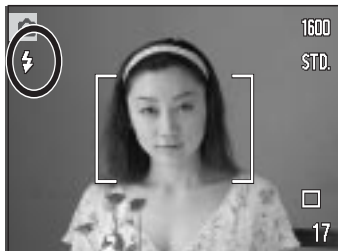
暗い場所や逆光など必要時には自動的にフラッシュが発光します。

フラッシュ赤目軽減自動発光

フラッシュモードボタン

暗いところで人物を撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。このモードでは撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのをやわらげることができます。フラッシュは必要時には自動的に発光します。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに AUTO を表示させます。

- シャッターボタンを押すと、数回小光量のフラッシュが発光し、その後本発光とともに撮影されます。
- シャッターボタンを押してから撮影までの間、カメラを動かしたり写される人が動いたりしないよう注意してください。

フラッシュ強制発光

フラッシュは必ず発光します。屋外の人物撮影で顔の影をやわらげたい時などにお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに を表示させます。

フラッシュ発光禁止

フラッシュモードボタン

フラッシュは発光しません。美術館などフラッシュの使用が禁止されている場所や、風景・夜景などフラッシュ光が届かない被写体を撮影するときにお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに を表示させます。

- 暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（液晶モニター右下に が現れ、ファインダー横の緑ランプがゆっくり点滅してお知らせします）。

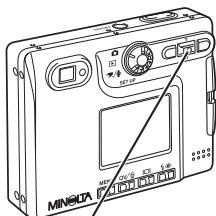
夜景ポートレート

夜景を背景に記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこのモードを使うと、人物も背景もきれいに撮ることができます。目が赤く写るのをやわらげるため、撮影の直前に小光量のフラッシュが発光します。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに を表示させます。

- 暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（液晶モニター右下に が現れ、ファインダー横の緑ランプがゆっくり点滅してお知らせします）。

ねらいの部分にピントを合わせる（スポットAF）

通常はワイドフォーカスフレームでカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。自分の意図する部分により厳密にピントを合わせたいときは、画面中心部のスポットフォーカスフレームでピントを合わせることもできます。

フォーカスエリア切り替え/実行ボタン

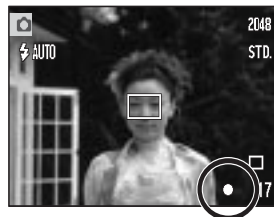
1. 撮影モード位置（📷）で、フォーカスエリア切り替え/実行ボタンを 約1秒間 押し続けます。

- 液晶モニターON（表示あり）の状態で、液晶モニターにスポットフォーカスフレームが現われます。
- もう一度フォーカスエリア切り替え/実行ボタンを約1秒間押し続けるとワイドフォーカスフレームにもどります。

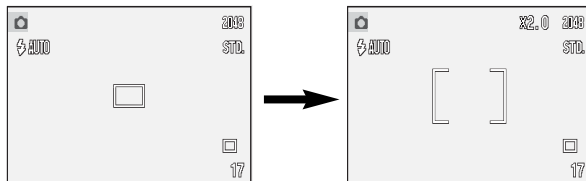
スポットフォーカスフレーム

- フォーカスフレームの切り替えは液晶モニターを使って行なってください。液晶モニターOFFのときは切り替えできません。
- 液晶モニターON（表示なし）で切り替え操作した場合は、液晶モニターON（表示あり）に画面が変わり、スポットフォーカスフレームが表示されます。その後、液晶モニターボタンを押して液晶モニターON（表示なし）にもどすと、スポットフォーカスフレームの表示は消えますが、実際のピント合わせはスポットフォーカスフレームで行われます。
- 液晶モニターON（表示あり）でスポットフォーカスフレームを表示させても、その後、液晶モニターボタンを押して液晶モニターOFFにすると、実際のピント合わせはワイドフォーカスフレームで行われます。

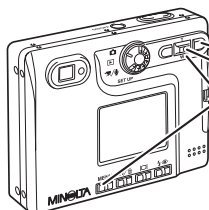
2. ピントを合わせたいものにスポットフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● ピントが合うと、液晶モニターの右下の白い○と、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ワイドフォーカスフレームになります。スポットフォーカスフレームの設定を保持したいときは → P.68、69
● 動画撮影時（→ P.82）もこの機能はお使いいただけます。動画撮影前にスポットAFでピントを合わせてから撮影することができます。

● デジタルズーム時（→ P.76）のスポットフォーカスフレームは下図のように変わります。

デジタルズーム時

撮影モード時のメニュー設定

モード切り替えダイヤルが撮影モード位置（📷）にあるときは、以下のメニュー設定が可能です。

1. メニューボタンを押す
2. 左右キーでタブを選択
3. 上下レバーでメニューを選択
4. 右キーで移動
5. 上下レバーで設定を選択
6. 実行ボタンを押して決定

タブ	メニュー	設定	ページ
基本	ドライブモード	◎1コマ撮影	P.48
		セルフタイマー	
		連続撮影	
	画像サイズ	◎2048×1536	P.51
		1600×1200	
		1280×960	
		640×480	
	画質	TIFF	P.53
		ファイン	
		◎スタンダード	
		エコノミー	
	ホワイトバランス	◎AUTO	P.56
		昼光	
		曇天	
		白熱灯	
		蛍光灯	
	◀▶キーカスタマイズ	◎露出補正	P.58
		ホワイトバランス	
		ドライブモード	
		撮像感度	
		カラーモード	

◎は初期設定値です。

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	あり	
オートリセット	あり	

メニューボタンで元に戻る

◎は初期設定値です。

タブ	メニュー	設定	ページ
応用1	撮像感度	◎AUTO	P.60
		ISO 400	
		ISO 200	
		ISO 100	
		ISO 50	
	測光モード	◎多分割	P.62
		スポット	
	露出補正	±2.0（1/3ステップ）	P.64
	ノイズリダクション	◎あり	P.66
		なし	
	オートリセット	◎あり	P.68
		なし	

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

メニューボタンで元に戻る

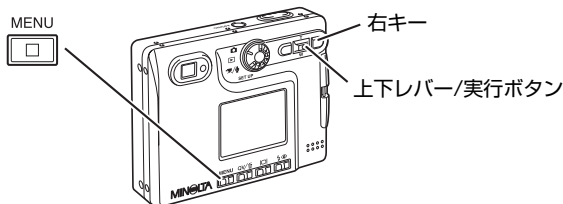
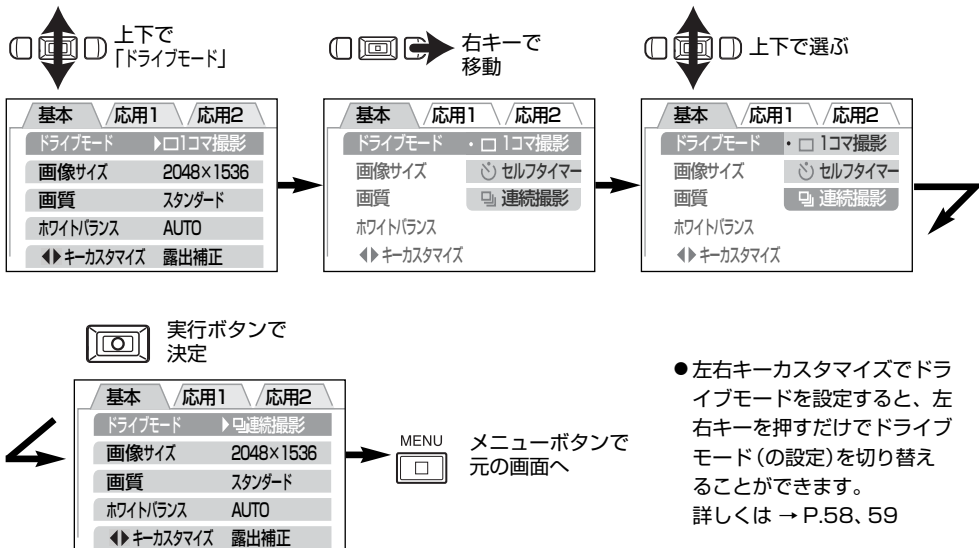
◎は初期設定値です。

タブ	メニュー	設定	ページ
応用2	カラーモード	◎カラー	P.70
		モノクロ	
		セピア	
	ボイスメモ	あり	P.72
		◎なし	
	日付写し込み	年月日	P.74
		月日時刻	
		◎なし	
	デジタルズーム	あり	P.76
		◎なし	
	アフタービュー	あり	P.78
		◎なし	

ドライブモード

連続撮影やセルフタイマーなど、いろいろな撮影ができます。

● オートリセットが「あり」に設定されている場合は、電源を入れ直すと、ドライブモードの設定は1コマ撮影になります。　それ以外の設定を保持したいときは → P.69

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと右キーで、ドライブモードを選びます。

● 左右キーカスタマイズでドライブモードを設定すると、左右キーを押すだけでドライブモード（の設定）を切り替えることができます。
詳しくは → P.58、59

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

1. ドライブモードで セルフタイマー を選びます。

2. シャッターボタンを半押しし、被写体にピントが合っていることを確認します。

3. シャッターボタンを押し込みます。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中はランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます（→ P.136）。

- セルフタイマー設定時は液晶モニター右下に が表示されます。

- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンを押すか、上下レバーを動かしてください。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。最高毎秒約1.3コマの連続撮影ができます（画像サイズ 2048×1536、画質 TIFF以外、日付写し込み「なし」設定時）。

1. ドライブモードで 連続撮影 を選びます。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● 連続撮影設定時は液晶モニター右下に が表示されます。

● 画質で TIFF を選んでいるとき（→ P.54）は、連続撮影はできません（1コマ撮影になります）。
● フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
● 日付写し込みを「あり」に設定している場合は、連続撮影の速度は遅くなります。
● 連続撮影できる枚数には、カメラのメモリ容量による上限があります（以下参照）。これらの値は、画像サイズや画質、被写体によって異なりますので、あくまで目安とお考えください。

		画像サイズ			
		2048x1536	1600x1200	1280x960	640x480
画質	エコノミー	約20枚	約30枚	約43枚	約95枚
	スタンダード	約10枚	約16枚	約24枚	約68枚
	ファイン	約5枚	約8枚	約13枚	約43枚

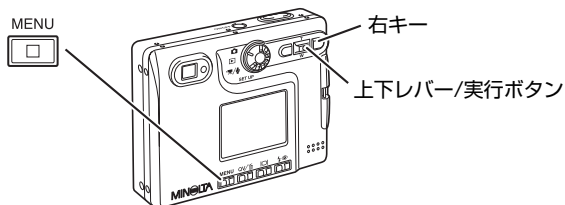
画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

MENU

右キー

上下レバー/実行ボタン

2. 上下レバーと右キーで、画像サイズを選びます。

上下で「画像サイズ」

基本	応用1 / 応用2
ドライブモード	□1コマ撮影
画像サイズ	▶2048×1536
画質	スタンダード
ホワイトバランス	AUTO
◀▶キーカスタマイズ	露出補正

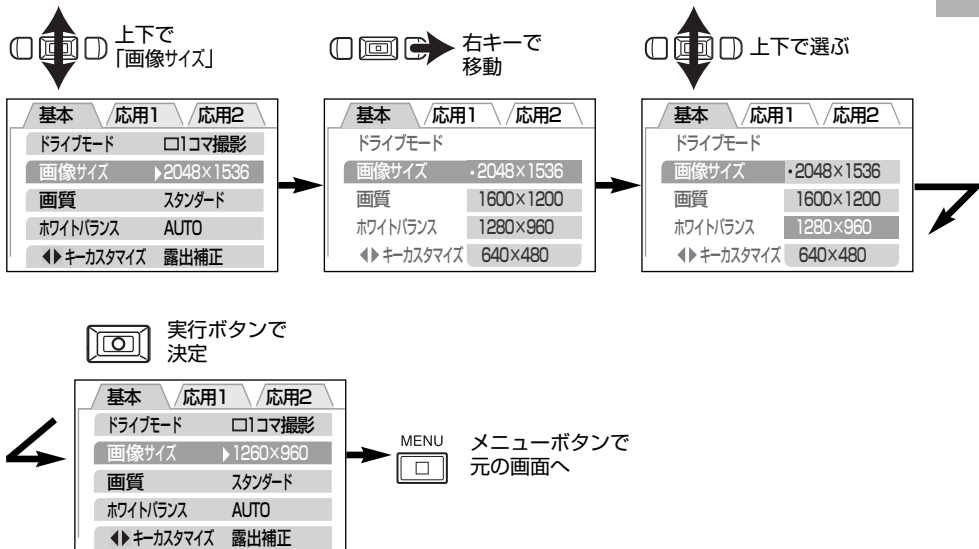
右キーで移動

基本	応用1 / 応用2
ドライブモード	
画像サイズ	•2048×1536
画質	1600×1200
ホワイトバランス	1280×960
◀▶キーカスタマイズ	640×480

上下で選ぶ

基本	応用1 / 応用2
ドライブモード	
画像サイズ	•2048×1536
画質	1600×1200
ホワイトバランス	1280×960
◀▶キーカスタマイズ	640×480

実行ボタンで決定

メニューボタンで元の画面へ

（次ページへ続く →）

画像サイズ

●液晶モニター右上に、現在設定している画像サイズが表示されます。

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ2048×1536画素の場合、画像は横に2048、縦に1536に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数(記録画素数)を表し、画素 または ピクセル 、ドットといった単位で表されます。

画像をプリント（印刷）する場合は、大きなサイズで撮影しておくほどきれいにプリント（印刷）できますが、1枚当たりのファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。ご使用のカード容量や用途に合わせてお選びください。

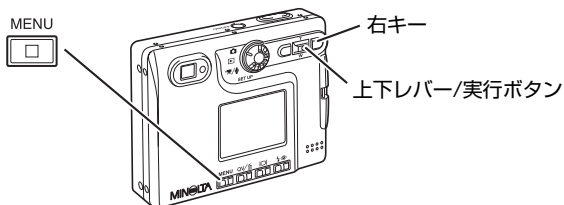
このカメラでは、画像サイズを以下の4通りから選ぶことができます。

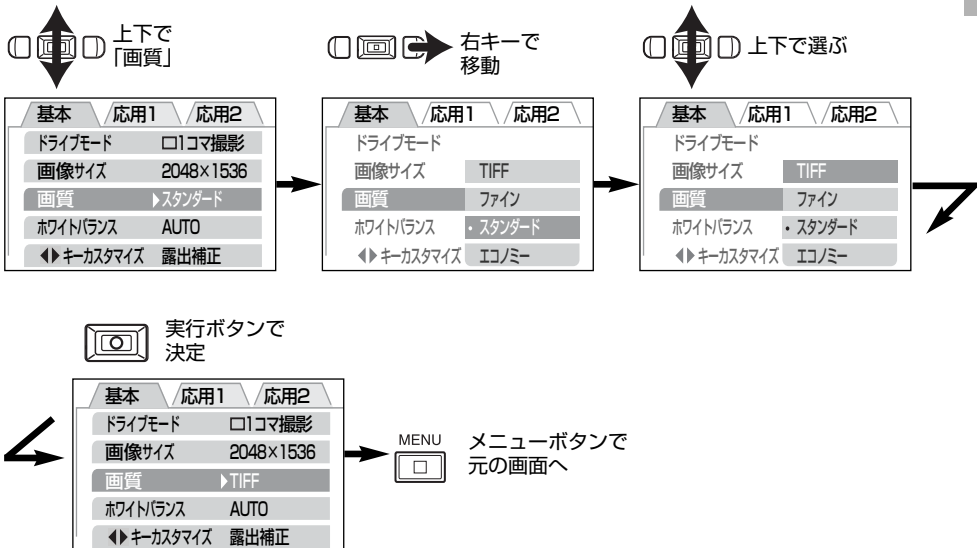
画像サイズ	説明
2048 × 1536 (FULL)	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする (*1) 場合におすすめします。約310万画素の画像が撮影できます。 (*1）2L版（178㎜×127㎜）～ A4（297㎜×210㎜）程度
1600 × 1200 (UXGA)	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする (*2) 場合におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 (*2）L版（127㎜×89㎜）～ A5（210㎜×148㎜）程度
1280 × 960 (SXGA)	枚数を多く撮るときに便利です。約120万画素の画像が撮影されます。
640 × 480 (VGA)	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi～300dpi の場合を指しています。

画質

画像の圧縮率を指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

1.撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと右キーで、画質を選びます。

画像サイズ
画質

（次ページへ続く →）

画質

●液晶モニター右上に、現在設定している画質が表示されます。

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（次ページ）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。
エコノミー → スタンダード → ファイン → TIFF の順に高画質になりますが、高画質になるほど1枚当たりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。

<table>
<tr><th>表示</th><th>ファイル形式</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>TIFF</td><td>TIFF
（非圧縮）</td><td>画像が圧縮されずに、TIFF（ティフ）形式のファイルとして記録されます。パソコンに取り込んで編集する場合におすすめです。
画質は最高ですがファイルサイズは大きくなるため、記録できる枚数（撮影枚数）が少なくなります。また、カードへの記録/再生に要する時間が長くなります。</td></tr>
<tr><td>ファイン
（FINE）</td><td>JPEG
（圧縮率 小）</td><td rowspan="3">画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。
JPEG形式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画像を撮影後にパソコン等で復元することはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行う場合、画質の設定は慎重に行ってください。一般的な目安は以下のとおりです。
プリント（印刷）する場合 → スタンダード、ファイン
画像を加工する場合 → ファイン
Eメールに添付する場合など → エコノミー</td></tr>
<tr><td>スタンダード
（STD.）</td><td>JPEG
（圧縮率 中）</td></tr>
<tr><td>エコノミー
（ECON.）</td><td>JPEG
（圧縮率 大）</td></tr>
</table>

● 画質でTIFFを選んでいるときは連続撮影はできません。また、TIFF画質で撮影された画像はUSBダイレクトプリント（→ P.115）はできません。
● TIFF画質で撮影された画像は、カードへの記録に10秒以上かかることがあります。記録中は「カードに保存中」のメッセージが表示されます。

● TIFF画質で撮影された画像は、拡大再生（→ P.91）時のカードからの読み込みに時間がかかります。その間は「読み込み中」のメッセージが表示されます。

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属のSDメモリーカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。
● 下記の値は被写体やカードによって異なるため、あくまで目安とお考えください。

ファイルサイズ

	2048x1536	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	約440KB	約290KB	約210KB	約90KB
スタンダード	約820KB	約520KB	約360KB	約130KB
ファイン	約1.6MB	約990KB	約660KB	約210KB
TIFF	約9.1MB	約5.5MB	約3.6MB	約950KB
動画	約340KB/秒（320×240）、約85KB/秒（160×120）			
音声*	約8KB/秒			

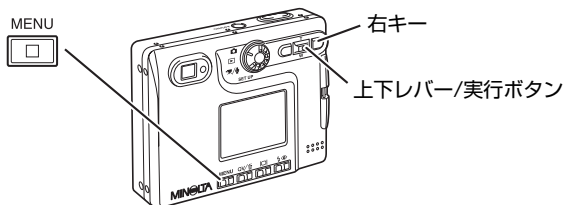
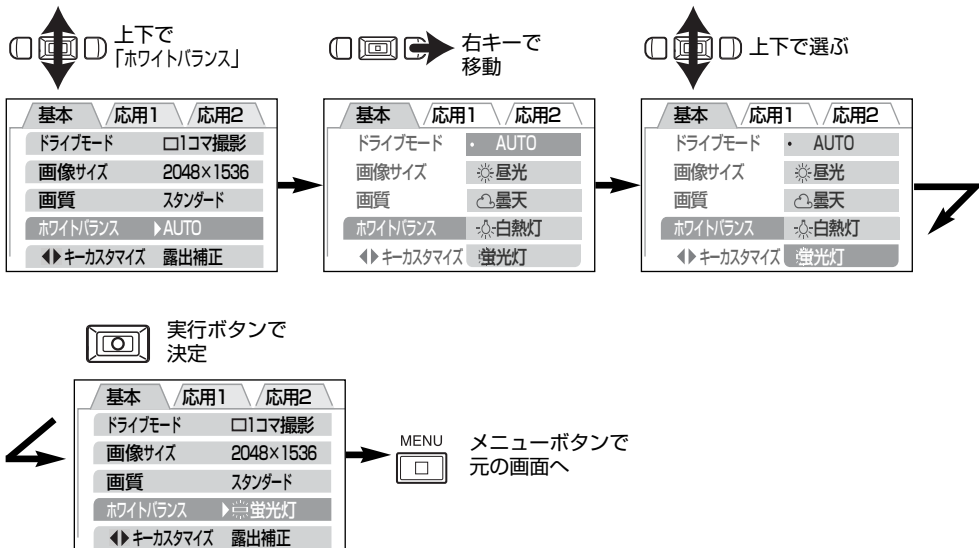
* ボイスレコード、ボイスメモ、アフレコ

16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

	2048x1536	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	約32コマ	約47コマ	約69コマ	約150コマ
スタンダード	約17コマ	約27コマ	約39コマ	約100コマ
ファイン	約9コマ	約14コマ	約22コマ	約69コマ
TIFF	約1コマ	約2コマ	約3コマ	約14コマ
動画	約41秒（320×240）、約2分30秒（160×120）			
ボイスレコード	約30分51秒			

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。AUTO（オート）にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと右キーで、撮りたいものを照らしている光源を選びます。

● AUTO（オート）以外を選択すると、液晶モニターに該当するマークが以下の通り表示されます。

- 昼光（晴れた明るい屋外）
- 曇天（曇った屋外）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯

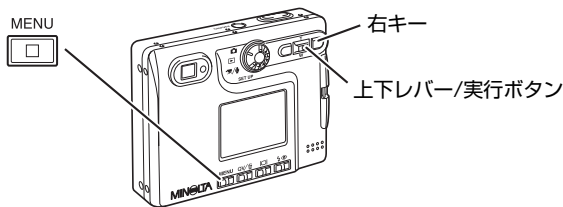
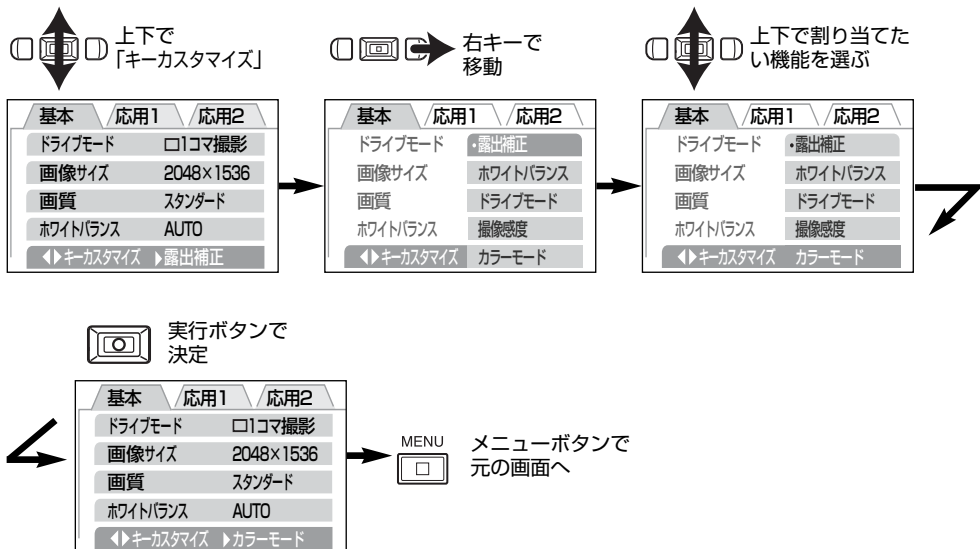
● 複数の光源がある場合や、水銀灯など特殊な光源下では、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。フラッシュの使用をおすすめします。
● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ホワイトバランスの設定はAUTOになります。

● 左右キーカスタマイズでホワイトバランスを設定すると、左右キーを押すだけでホワイトバランスの設定を切り替えることができます。詳しくは → P.58、59

AUTO以外の設定を保持したいときは → P.69

左右キーカスタマイズ

撮影時によく使う5つの機能の内の1つを左右のキーに割り当てることができます。左右のキーを押すだけで設定を変更できますので、メニュー画面で設定する手間が省けます。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと右キーで、左右キーに割り当てたい機能を選びます。

項目		参照ページ
露出補正	右キーを押すたびに「＋」側に補正され、左キーを押すたびに「ー」側に補正されます（±2.0、1/3ステップ）。	64
ホワイトバランス	左右キーを押すたびにホワイトバランスの設定が切り替わります。 WB AUTO ⟷ ☼ ⟷ ☁ ⟷ 💡 ⟷ 蛍光灯	56
ドライブモード	左右キーを押すたびにドライブモードが切り替わります。 □ ⟷ セルフタイマー ⟷ 連写	48
撮像感度	左右キーを押すたびに撮像感度が切り替わります。 ISO AUTO ⟷ 400 ⟷ 200 ⟷ 100 ⟷ 50	60
カラーモード	左右キーを押すたびにカラーモードが切り替わります。 Color（画面表示なし）⟷ BW ⟷ SEPIA	70

● 左右キーで各項目の設定を行うと、設定される状態が液晶モニター中央にしばらく表示された後、撮影画面にもどります。シャッターボタンを半押しするか、または、上下レバー中央の実行ボタンを押すと、すぐに撮影画面にもどります。

● オートリセットを「あり」に設定している場合は、左右キーカスタマイズで設定した項目は、電源を入れ直すと以下の状態にリセットされます。

露出補正　：0
ホワイトバランス：AUTO
ドライブモード：□（1コマ撮影）
撮像感度：AUTO
カラーモード：Color（カラー（画面表示なし））

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。AUTO（オート）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには感度を上げる（＝数値を大きくする）と有効ですが、その分画像は粗くなります。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 応用1タブ画面で、撮像感度を選びます。

左右で「応用1」

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	なし	
オートリセット	あり	

上下で「撮像感度」

基本	応用1	応用2
撮像感度	▶AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	なし	
オートリセット	あり	

右キーで移動

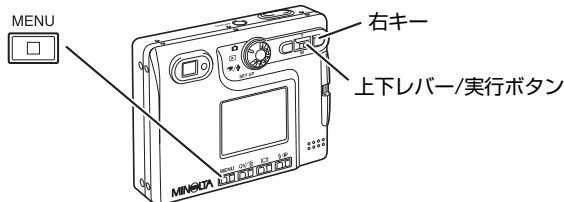
基本	応用1	応用2
撮像感度	ISO 400	
測光モード	ISO 200	
露出補正	ISO 100	
ノイズリダクション	ISO 50	
オートリセット	• AUTO	

上下で選ぶ

基本	応用1	応用2
撮像感度	ISO 400	
測光モード	ISO 200	
露出補正	ISO 100	
ノイズリダクション	ISO 50	
オートリセット	• AUTO	

実行ボタンで決定

基本	応用1	応用2
撮像感度	▶ISO 200	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	なし	
オートリセット	あり	

MENU
メニューボタンで元の画面へ

- 感度は以下の範囲から選ぶことができます。初期設定はオート（AUTO）です。
  オート（AUTO）、ISO 50、ISO 100、ISO 200、ISO 400
- オート（AUTO）の場合、感度はISO50〜160の範囲で自動設定されます。撮影中の表示はありません。
- オート（AUTO）以外の撮像感度を設定すると、液晶モニターの画面左側にISOと選んだ値が表示されます。

- オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、撮像感度の設定はAUTOになります。AUTO以外の設定を保持したいときは → P.69
- 左右キーカスタマイズで撮像感度を設定すると、左右キーを押すだけで撮像感度の設定を切り替えることができます。詳しくは → P.58、59

撮像感度変更時のフラッシュ調光距離

撮像感度を変更すると、フラッシュ調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。
感度をあげるとフラッシュ調光距離は長くなりますが、画像が粗くなります。

撮像感度	フラッシュ調光距離	
	広角側	望遠側
オート（AUTO）	0.15〜3.2m	0.15〜2.5m
ISO 50	0.15〜1.8m	0.15〜1.4m
ISO 100	0.15〜2.5m	0.15〜2.0m
ISO 200	0.15〜3.6m	0.15〜2.8m
ISO 400	0.15〜5.1m	0.15〜4.0m

測光モード

測光モード（画面のどの部分の明るさを測るか）を、多分割測光とスポット測光とで切り替えることができます。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 応用1タブ画面で、測光モードを選びます。

左右で「応用1」

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	なし	
オートリセット	あり	

上下で「測光モード」

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	▶多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	なし	
オートリセット	あり	

右キーで移動

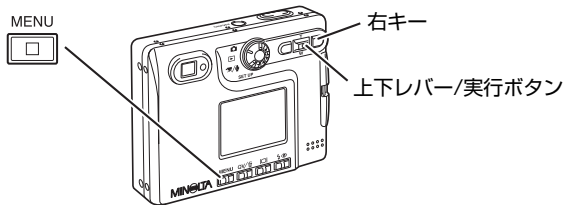
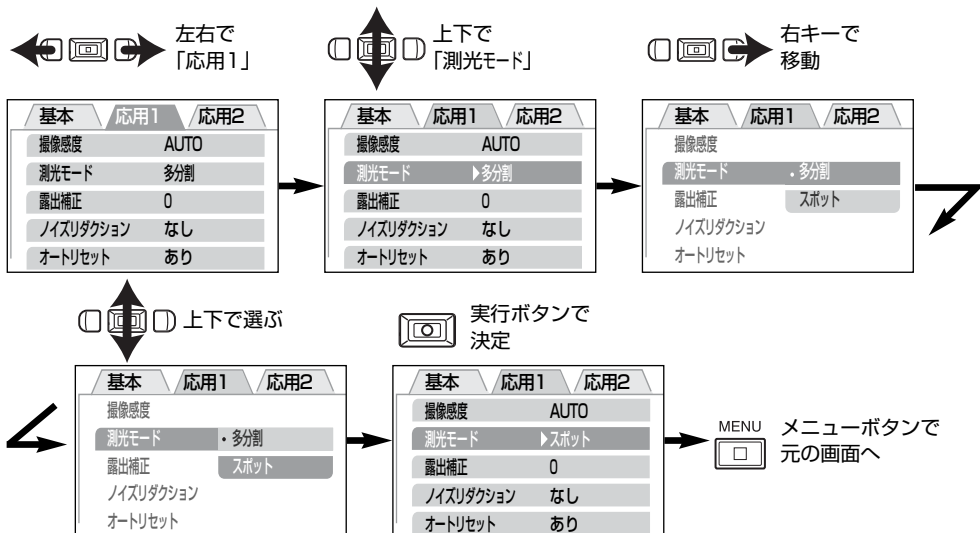
基本	応用1	応用2
撮像感度		
測光モード	• 多分割	
露出補正	スポット	
ノイズリダクション		
オートリセット		

上下で選ぶ

基本	応用1	応用2
撮像感度		
測光モード	• 多分割	
露出補正	スポット	
ノイズリダクション		
オートリセット		

実行ボタンで決定

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	▶スポット	
露出補正	0	
ノイズリダクション	なし	
オートリセット	あり	

MENU メニューボタンで元の画面へ

多分割測光

画面を細かく分割して測光します。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確にとらえます。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

スポット測光

画面中央にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみの明るさを測ります。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や、画面のある特定部分だけを測光するのに適しています。

スポット測光サークル

● スポット測光を選んだときは、液晶モニターの画面左下に ■ が表示されます。

● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、測光モードは多分割になります。設定を保持したいときは → P.69

画像を明るくする/暗くする（露出補正）

画像全体を明るくしたり暗くしたりします。±2.0段の範囲内で1/3段刻みで補正することができます。

＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。

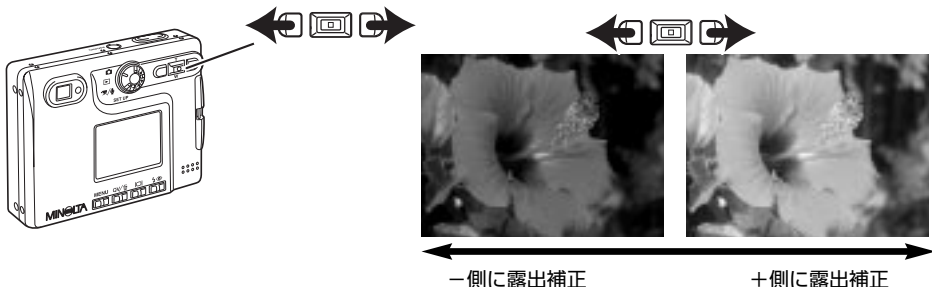
−側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

左右のキーで設定する

1.左右キーカスタマイズで、左右のキーに露出補正の機能を割り当てます（→ P.58）。

- お買い上げ時はすでに露出補正の機能が割り当てられています。

2.撮影モード位置（📷）で、右キー または 左キーを押します。

- 設定される露出補正値が液晶モニター中央に大きく表示されます。右キーを押すと画面は明るくなります（＋側に露出補正）。左キーを押せば暗くなります（−側に露出補正）。
- 希望の値を設定後、しばらくすると元の撮影画面にもどります。シャッターボタンを半押しするか、または、上下レバー中央の実行ボタンを押すと、すぐに元の撮影画面にもどります。

メニュー画面で設定する

1.撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2.応用1タブ画面で、露出補正(の値)を選びます。

左右で「応用1」

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	なし	
オートリセット	あり	

上下で「露出補正」

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	▶0	
ノイズリダクション	なし	
オートリセット	あり	

右キーで移動

基本	応用1	応用2
撮像感度	-2～+2	
測光モード	▲	
露出補正	0	
ノイズリダクション	▼	
オートリセット		

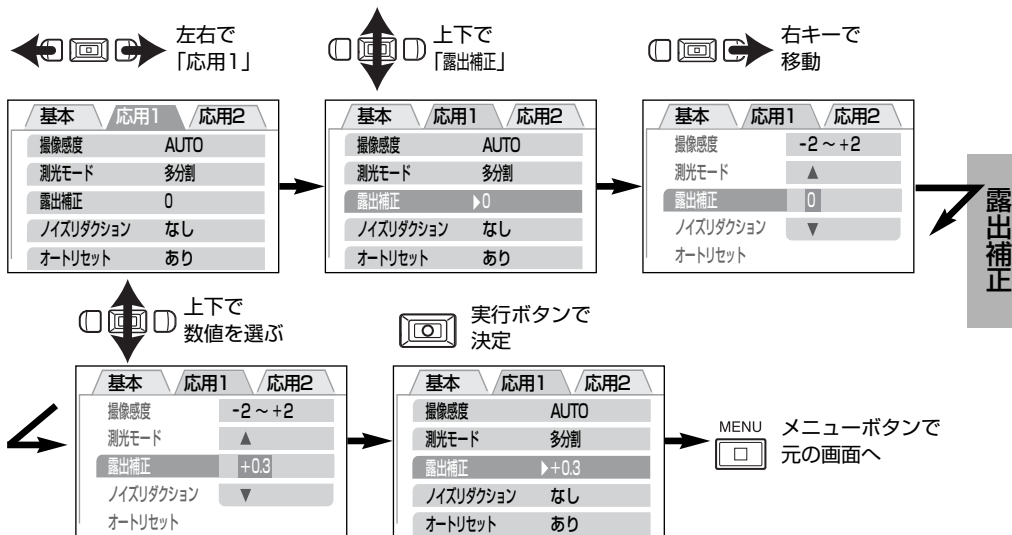
上下で数値を選ぶ

基本	応用1	応用2
撮像感度	-2～+2	
測光モード	▲	
露出補正	+0.3	
ノイズリダクション	▼	
オートリセット		

実行ボタンで決定

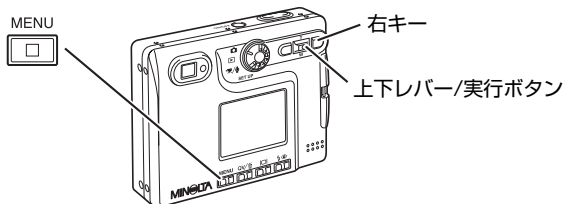
基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	▶+0.3	
ノイズリダクション	なし	
オートリセット	あり	

MENU

メニューボタンで元の画面へ

- 液晶モニター左側に、設定した露出補正値が表示されます。
- 露出補正を解除するときは、上記の要領で±0を選んでください。
- 液晶モニターOFF時は、メニューボタンを押すと上記メニュー画面が現れます。実行ボタンで補正値決定後メニューボタンを押すと、液晶モニターは再びOFFになります。
- オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すと、露出補正値は0になります。

ノイズリダクション（ノイズ軽減処理）

このカメラでは、シャッター速度が1秒以上となるような長時間露光の場合は、スローシャッターノイズ軽減機能が働いて、長時間露光時に目立ちやすい粒状ノイズを軽減します。
この機能の あり←→なし を切り替えることができます。初期設定は「あり」です。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 応用1タブ画面で、ノイズリダクション機能の あり←→なし を選びます。

左右で「応用1」

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	あり	
オートリセット	あり	

上下で「ノイズリダクション」

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	▶あり	
オートリセット	あり	

右キーで移動

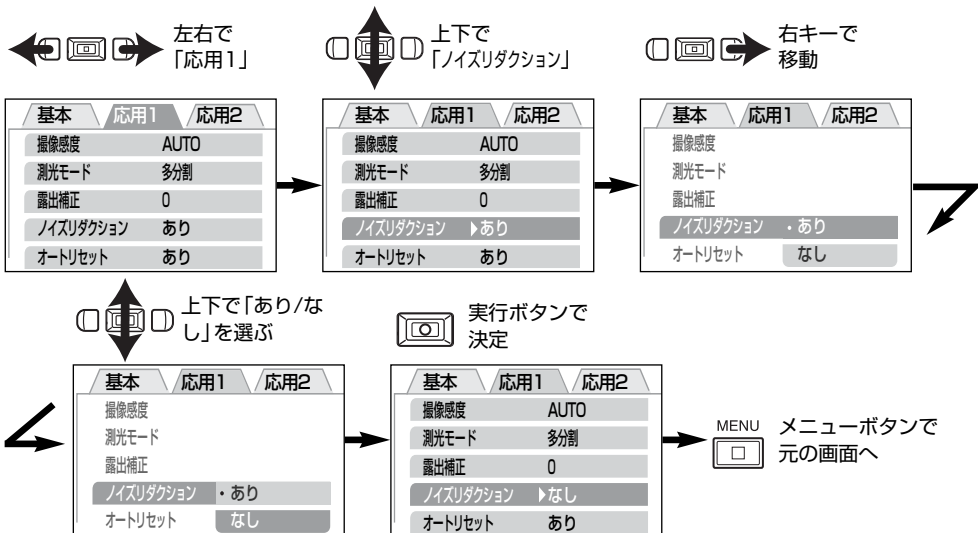
基本	応用1	応用2
撮像感度		
測光モード		
露出補正		
ノイズリダクション	・あり	
オートリセット	なし	

上下で「あり/なし」を選ぶ

基本	応用1	応用2
撮像感度		
測光モード		
露出補正		
ノイズリダクション	・あり	
オートリセット	なし	

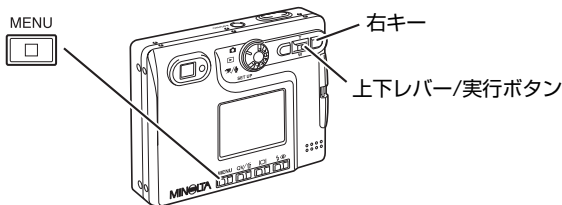
実行ボタンで決定

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	▶なし	
オートリセット	あり	

MENU メニューボタンで元の画面へ

- ノイズリダクションが「あり」の状態でシャッター速度が1秒以上となるような(長時間露光の)撮影を行うと、撮影終了に続けてノイズ軽減処理(ノイズリダクション)が行われます。処理中(約10〜25秒程度、シャッター速度によって異なります)は、液晶モニターが消灯して**「ノイズリダクション実行中」**のメッセージが現れます。**この間は次の撮影はできません**。
- ノイズリダクションを「なし」にすると、ノイズ軽減処理は行われません。撮影後、すぐに次の撮影を行えます。

オートリセット

オートリセットを「あり」にすると、メインスイッチを入れ直すたびに右ページの設定項目が初期設定に自動的にもどります。「なし」にすると、メインスイッチを入れ直しても前回に使用した設定が保持されます。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 応用1タブ画面で、オートリセットの あり←→なし を選びます。

左右で「応用1」

上下で「オートリセット」

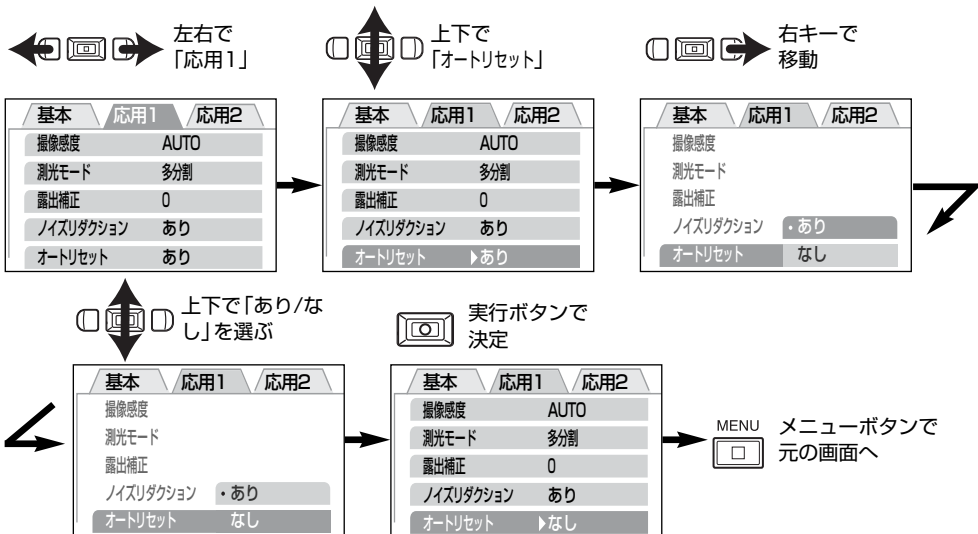
右キーで移動

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	あり	
オートリセット	あり	

上下で「あり/なし」を選ぶ

実行ボタンで決定

基本	応用1	応用2
撮像感度	AUTO	
測光モード	多分割	
露出補正	0	
ノイズリダクション	あり	
オートリセット	▶なし	

MENU メニューボタンで元の画面へ

状態の変わる項目	初期設定（この状態にもどります）
画面表示の切り替え（P.37）	液晶モニターON（表示あり）
フラッシュモード[*1]（P.41）	自動発光または赤目軽減自動発光
フォーカスフレーム（P.45）	ワイドフォーカスフレーム
ドライブモード（P.48）	1コマ撮影
ホワイトバランス（P.57）	AUTO
撮像感度（P.61）	AUTO
測光モード（P.63）	多分割
露出補正[*2]（P.65）	±0.0
カラーモード（P.71）	カラー

*1 フラッシュモードを前回 赤目軽減自動発光 に設定していた場合は、オートリセット「あり」で電源を入れ直すと、自動発光ではなく赤目軽減自動発光になります。その他のフラッシュモードの場合は自動発光になります。

*2 オートリセット「あり」に設定すると、「なし」のときに設定した露出補正値は解除されます。

● お買い上げ時は、オートリセット「あり」に設定されています。電源を入れ直したときに前回設定した状態でそのまま撮影したい場合は、オートリセットを「なし」にしてください。

カラーモード

モノクロ（白黒）やセピア調の画像を撮影することができます。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 応用2タブ画面で、カラーモードを選びます。

左右で「応用2」

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

上下で「カラーモード」

基本	応用1	応用2
カラーモード	▶カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

右キーで移動

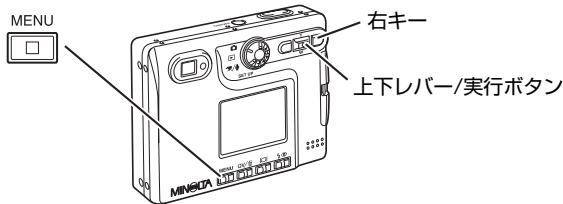
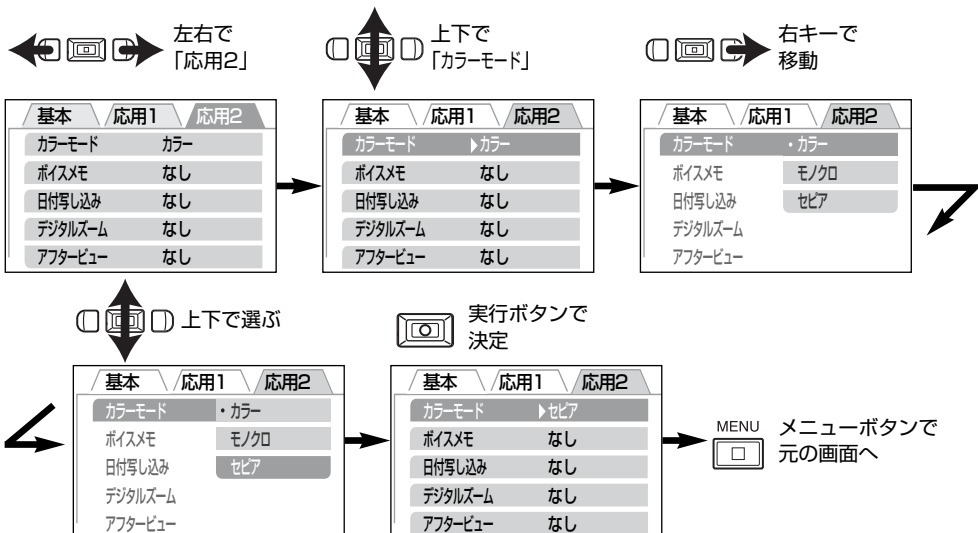
基本	応用1	応用2
カラーモード	・カラー	
ボイスメモ	モノクロ	
日付写し込み	セピア	
デジタルズーム		
アフタービュー		

上下で選ぶ

基本	応用1	応用2
カラーモード	・カラー	
ボイスメモ	モノクロ	
日付写し込み	セピア	
デジタルズーム		
アフタービュー		

実行ボタンで決定

基本	応用1	応用2
カラーモード	▶セピア	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

MENU メニューボタンで元の画面へ

カラー 〜 通常の標準カラー画像が撮影されます。

モノクロ BW 〜 白黒画像が撮影されます。

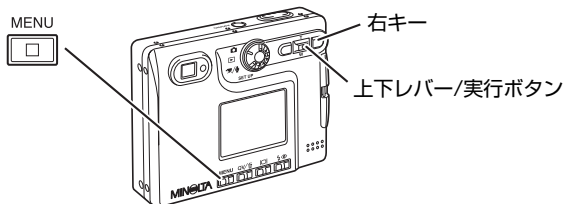
セピア SEPIA 〜 やや色あせた全体に黒茶色（セピア調）の画像が撮影されます。

● [カラー] は、メニュー画面には表示されますが、撮影中の表示はありません。
● [モノクロ] [セピア] を選んだときは、液晶モニターの画面上部にそれぞれの絵記号が表示されます。

● モノクロを選ぶと背景の画像も白黒で表示され、セピアを選ぶと背景の画像はセピア調の黒茶色で表示されます。
● モノクロやセピアを選んでも、画像ファイルサイズはカラーと同じです。
● 左右キーカスタマイズでカラーモードを設定すると、左右キーを押すだけでカラーモードの設定を切り替えることができます。詳しくは → P.58、59
● オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すとカラーモードは [カラー] になります。

ボイスメモ

撮影直後に、最大15秒間、撮影した画像のコメント等を音声で入れることができます(ボイスメモ)。

1. 撮影モード位置(📷)で、メニューボタンを押します。

2. 応用2タブ画面で、ボイスメモの「あり」「なし」を選びます。

左右で「応用2」

上下で「ボイスメモ」

右キーで移動

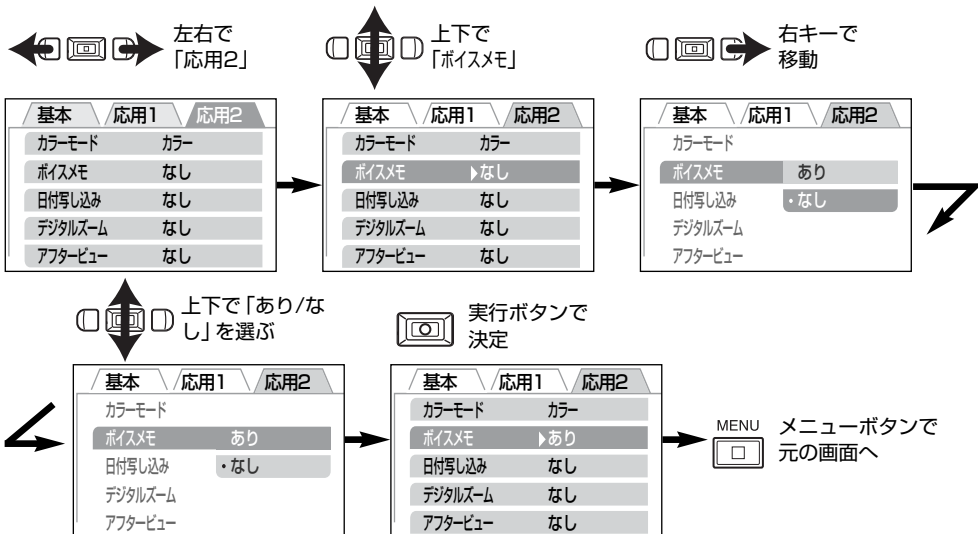
基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

上下で「あり/なし」を選ぶ

基本	応用1	応用2
カラーモード		
ボイスメモ	あり	
日付写し込み	・なし	
デジタルズーム		
アフタービュー		

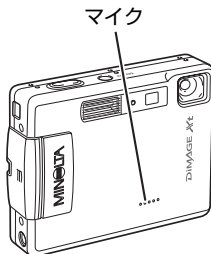
実行ボタンで決定

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	▶あり	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

MENU メニューボタンで元の画面へ

● ボイスメモを「あり」に設定すると、液晶モニター左上に音声録音を表す 🎙 が表示されます。

操作方法

1. 撮影します。

● 直後に右の画面が現れます。撮影2秒後から録音は始まります。（アフタービュー（→P.78）が「あり」の場合は、2秒間のアフタービューの後すぐ録音が始まります。）

2. マイクに向かって話します。

● 残りの秒数を画面右下に表示します。

● マイクの部分を指などでふさがないようにしてください。

3. 録音を終了するときは実行ボタンを押します。

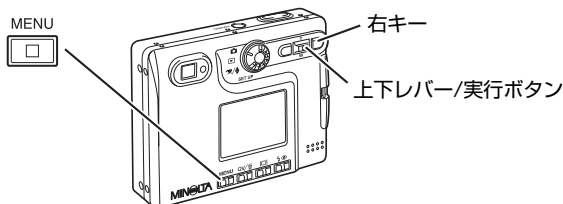
● ボイスメモは最大15秒間可能です。15秒経過すると、自動的に録音は終了します。

● 録音するときは、マイクから20㎝くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

● 連続撮影の場合は、最後のコマにだけボイスメモを付けることができます。

日付写し込み

撮影の「年月日」または「月日時刻」を、画像の右下に入れることができます。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 応用2タブ画面で、写し込みたい日付の種類を選びます。

左右で「応用2」

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

上下で「日付写し込み」

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	▶なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

右キーで移動

基本	応用1	応用2
カラーモード		
ボイスメモ		
日付写し込み	年月日	
デジタルズーム	月日時刻	
アフタービュー	・なし	

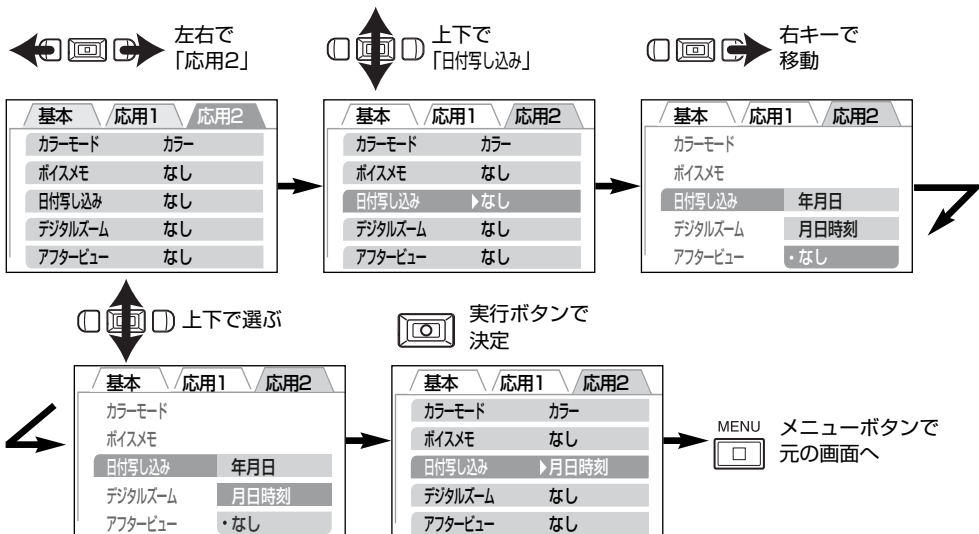
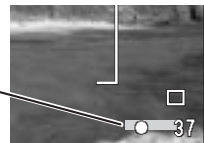
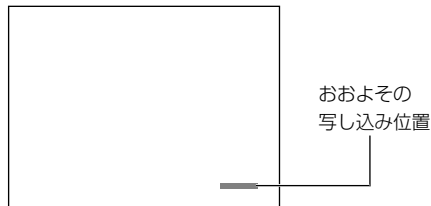
上下で選ぶ

基本	応用1	応用2
カラーモード		
ボイスメモ		
日付写し込み	年月日	
デジタルズーム	月日時刻	
アフタービュー	・なし	

実行ボタンで決定

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	▶月日時刻	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

MENU

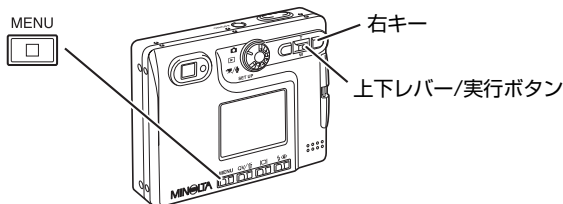
メニューボタンで元の画面へ

日付写し込みを「年月日」または「月日時刻」に設定したときは、液晶モニター画面右下に黄色のバーが表示されます。

- 実際の写し込み位置は右のようになります。

- 日付写し込みを「なし」に設定していても、撮影時の年月日・時刻は記録され、再生時には液晶モニター画面左下に表示されます。

※年月日の並びを変更するときは → P. 142

デジタルズーム

通常のズーム（光学ズーム）で最望遠側にした後、デジタルズームにより、さらに4倍まで画像を拡大することができます。

●デジタルズームは拡大すればするほど、画質は劣化します。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 応用2タブ画面で、デジタルズームの「あり」「なし」を選びます。

左右で「応用2」

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

上下で「デジタルズーム」

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	▶なし	
アフタービュー	なし	

右キーで移動

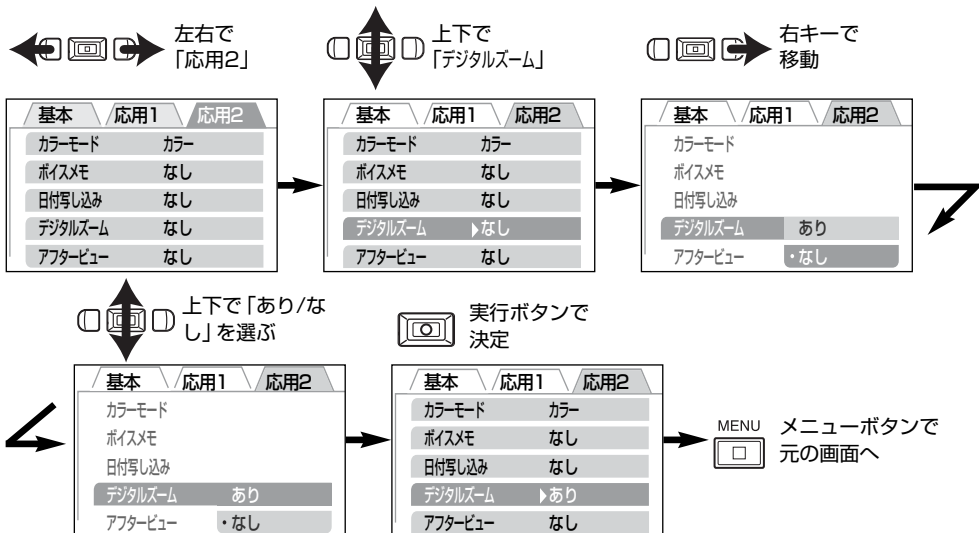
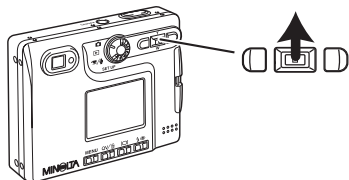
基本	応用1	応用2
カラーモード		
ボイスメモ		
日付写し込み		
デジタルズーム	あり	
アフタービュー	・なし	

上下で「あり/なし」を選ぶ

基本	応用1	応用2
カラーモード		
ボイスメモ		
日付写し込み		
デジタルズーム	あり	
アフタービュー	・なし	

実行ボタンで決定

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	▶あり	
アフタービュー	なし	

MENU メニューボタンで元の画面へ

操作方法

1. 撮影モード位置（📷）で、上下レバーの上側で望遠側にズームさせます。

2. そのままズームを続けると自動的にデジタルズームになり、画像がさらに4倍まで拡大されます。

● 液晶モニター右上に、現在のデジタルズームでの倍率が表示されます。0.1倍ごとに4.0倍まで拡大することができます。

● デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。

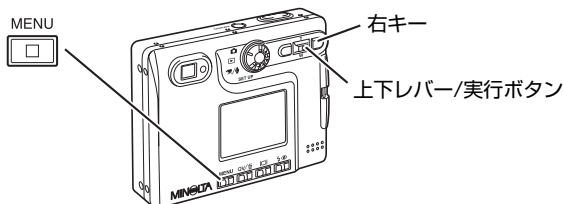
● 液晶モニターはONにしてください。OFFだとデジタルズームはできません。デジタルズームの拡大はファインダーで確認することはできませんので、液晶モニターで撮影してください。

● デジタルズーム後に液晶モニターをOFFにすると、デジタルズームなしの光学ズームの最望遠位置で撮影されます。

● 動画撮影（→ P.82）の場合も、同様のデジタルズームが可能です。

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます（アフタービュー）。

1. 撮影モード位置（📷）で、メニューボタンを押します。

2. 応用2タブ画面で、アフタービューの「あり」「なし」を選びます。

左右で「応用2」

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	

上下で「アフタービュー」

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	▶なし	

右キーで移動

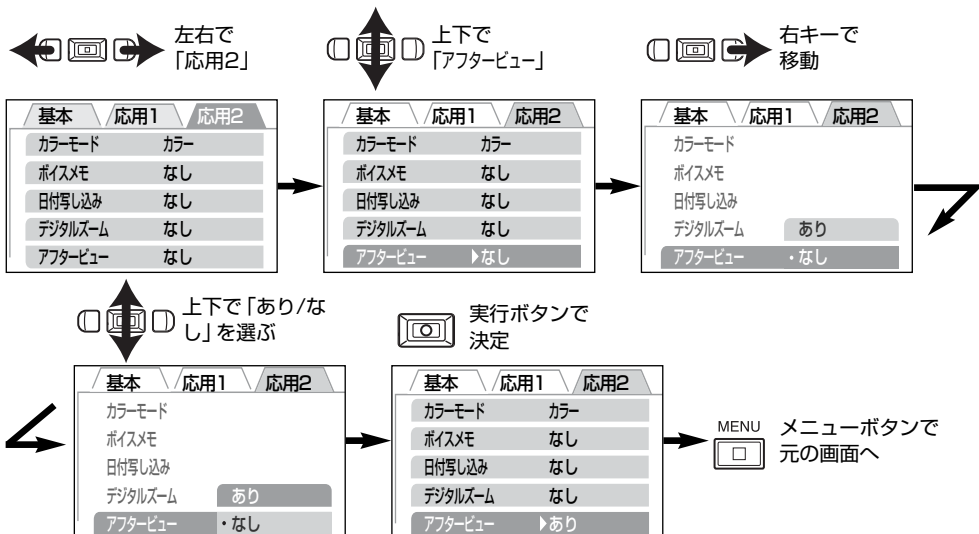
基本	応用1	応用2
カラーモード		
ボイスメモ		
日付写し込み		
デジタルズーム	あり	
アフタービュー	・なし	

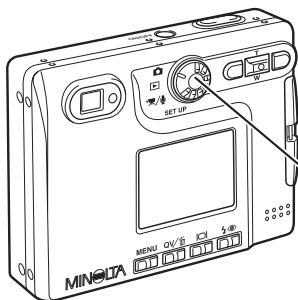
上下で「あり/なし」を選ぶ

基本	応用1	応用2
カラーモード		
ボイスメモ		
日付写し込み		
デジタルズーム	あり	
アフタービュー	・なし	

実行ボタンで決定

基本	応用1	応用2
カラーモード	カラー	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	▶あり	

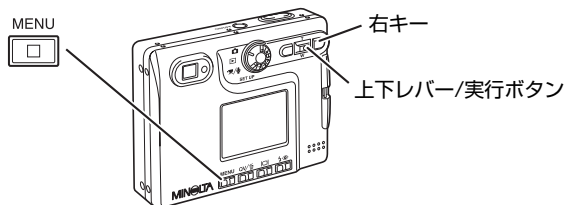
MENU メニューボタンで元の画面へ

- 連続撮影の場合は、最後のコマのみが表示されます。
- アフタービューで画像表示中にシャッターボタンを半押しすると、アフタービューはキャンセルされます。
- 液晶モニターOFFの状態でアフタービューを「あり」にすると、撮影画像を2秒間表示した後に液晶モニターが消灯します。
- アフタービュー「なし」でも、液晶モニターON状態ならば、撮影後シャッターボタンを押し込んだままにすると、押し込んでいる間 撮影した画像が表示されます。

動画撮影 / ボイスレコード

カメラのモード切り替えダイヤルを 動画/マイク 位置にすると、動画撮影/ボイスレコード（音声記録）モードになります。この章では、この動画撮影とボイスレコードについて説明しています。

このカメラは、動画はカードの容量がなくなるまで連続しての撮影が、ボイスレコード（音声記録）は最長連続180分の記録が可能です。長時間連続して動画撮影/音声記録される場合は、別売りのACアダプター AC-4のご使用をおすすめします。

動画/ボイスレコード

動画とボイスレコードの切り替え

1.動画撮影/ボイスレコードモード位置（動画/ボイスレコード）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと右キーで、「動画」か「ボイスレコード」かを選びます。

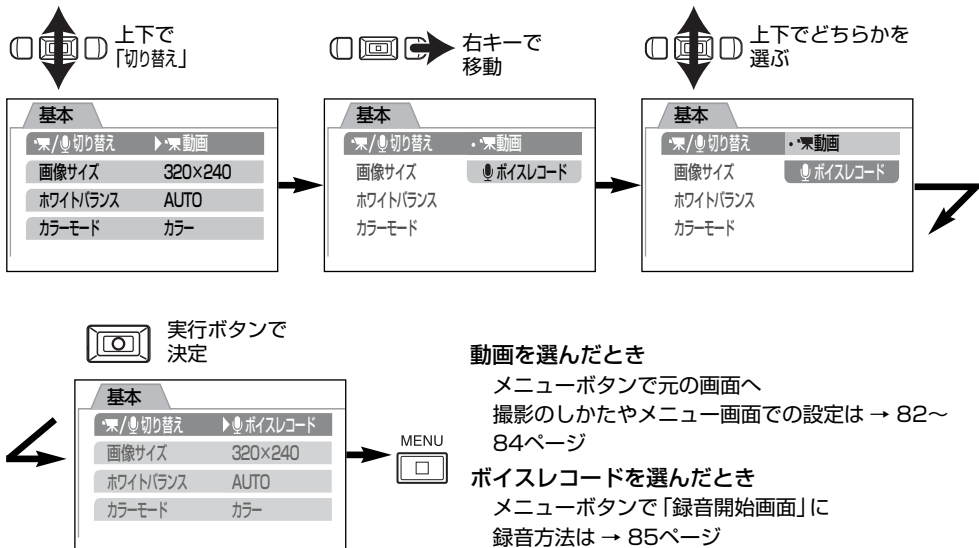
動画を選んだとき

メニューボタンで元の画面へ

撮影のしかたやメニュー画面での設定は → 82～84ページ

ボイスレコードを選んだとき

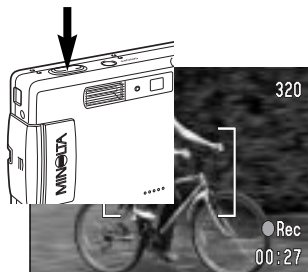
メニューボタンで「録音開始画面」に

録音方法は → 85ページ

動画/ボイスレコード

動画

カードの容量がなくなるまで、連続して動画撮影を行なうことができます。音声も同時に記録されます。

1. 前ページに記載の手順で、動画を選びます。

● メニューボタンを押してメニュー画面を消すと、液晶モニター左上には動画の、 右上には動画の画像サイズ、右下には動画の(撮影可能な)残り秒数が表示されます。

2. シャッターボタンを押して撮影を開始します。

● 撮影中は Rec が表示され、右下には撮影開始からの経過時間が表示されます。カードの容量が残り少なくなるなど撮影可能時間が10秒以下になると、赤色で残り秒数表示に変わります。

3. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● 残り秒数が 0 になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

● 録音された動画は、SDメモリーカード内にMotion JPEG(MOV)ファイルとして保存されます。
● 動画撮影時は液晶モニターをOFFにできません。
● 付属の16MBのカードには、合計約41秒間(画像サイズ320×240)、または、合計約2分30秒間(画像サイズ160×120)の動画を記録することができます。

※動画の再生について → P.92

● マイクの部分を指などでふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。

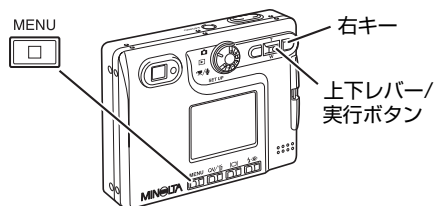
● 電池の容量表示が［電池マーク］（赤色）のときは、動画撮影できません。

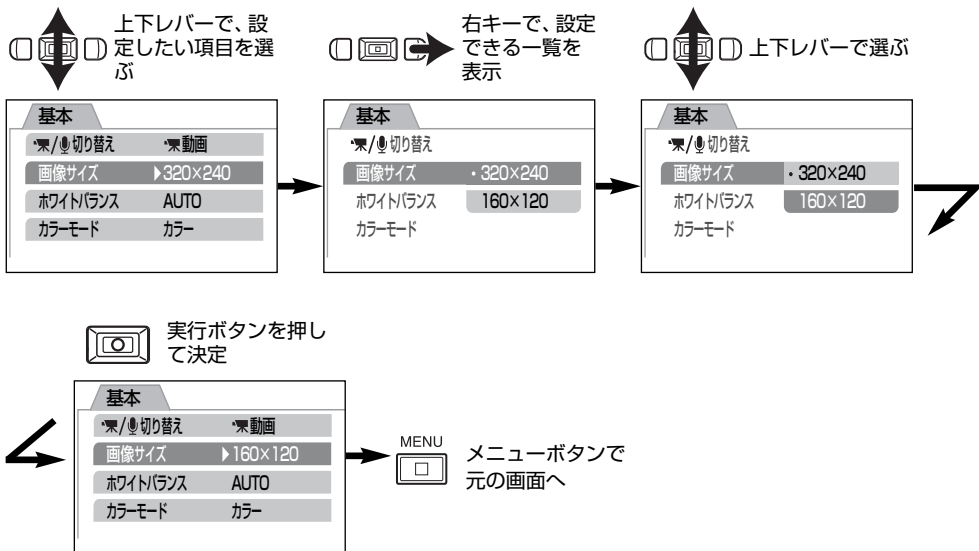
● 記録（書き込み）速度の遅いカードを使用されている場合、カメラの内部メモリがいっぱいになってしまい、カード容量がなくなる前に動画撮影が終了することがあります。

動画撮影時に設定/変更可能な機能は以下の通りです。

	動画撮影する前	動画撮影中
設定/変更可能なもの	・上下レバーによるレンズのズーム（光学ズーム、デジタルズーム） ・実行ボタン1秒以上押し続けによるフォーカスフレーム切り替え（ワイドフォーカスフレーム←→スポットフォーカスフレーム） ・左右キーによる露出補正値の設定 ・液晶モニターボタンによる液晶表示の切り替え（液晶モニターON・表示あり←→液晶モニターON・表示なし）	上下レバーによるデジタルズーム
メニューで設定/変更可能なもの	・画像サイズ切り替え（320×240←→160×120） ・ホワイトバランス ・カラーモード	——

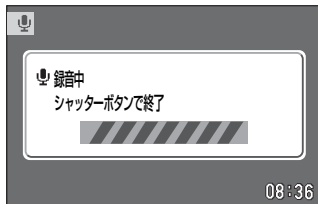
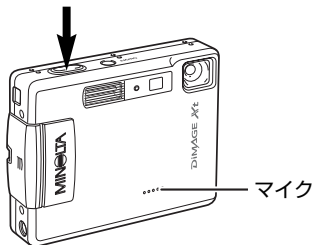
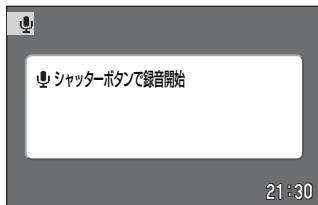
動画/ボイスレコードモード時のメニュー

1. 動画撮影/ボイスレコードモード位置（動画/マイク）で、メニューボタンを押します。

（次ページへ続く →）

2.上下レバーと右キーで設定します。

画像サイズ：　「320×240」と「160×120」のどちらかを選びます。
ホワイトバランス：「AUTO(自動)」「昼光」「曇天」「白熱灯」「蛍光灯」から1つ選びます。
詳細は → 57ページ
カラーモード：　「カラー」「モノクロ」「セピア」から1つ選びます。詳細は → 71ページ

- これらの設定は動画時にのみ可能です。ボイスレコード時は設定できません。
- ホワイトバランスとカラーモードの設定は、撮影モード( )のメニュー設定と共通です。どちらかのメニュー画面での設定と同じ設定が、もう一方のメニュー画面に現れます。

ボイスレコード

連続最長180分までの、音声のみの録音ができます。

1. 81ページに記載の手順で、ボイスレコードを選びます。

● メニューボタンを押してメニュー画面を消すと、液晶モニターには左の「録音開始画面」が表示されます。液晶モニター左上には 🎙 が、右下には録音可能な残り時間（“時：分：秒”、60分未満の場合は “分：秒”）が表示されます。

2. シャッターボタンを押して録音を開始します。

● 録音を開始すると、左図のようなバーグラフが表示され、画面右下には録音開始からの経過時間が表示されます。連続録音時間が180分に近づくなどで録音可能な残り時間時間が10秒以下になると、赤色で残り秒数表示に変わります。

● 声を録音するときは、マイクから20㎝くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

● マイクの部分を指などでふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。

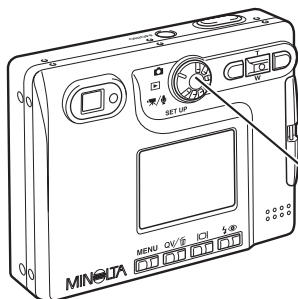
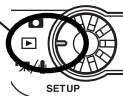
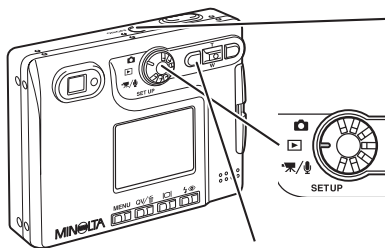
（次ページへ続く →）

3. 録音を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

- 付属の16MBのカードには、合計約30分51秒間の音声を記録することができます。

※音声の再生について → P.93

- 録音中に液晶モニターボタンを押すと液晶モニターをOFFにできます(再度押すと液晶モニターON)。録音前は液晶モニターをOFFにできません。
- ボイスレコードを終了して静止画の撮影にもどるには、モード切り替えダイヤルを📷位置に合わせてください。動画の撮影にもどるには、メニューボタンでメニュー画面を出し、🎥/🎙切り替えで🎥動画を選んでください(→ P.81)。
- 録音された音声は、SDメモリーカード内に WAVファイルとして保存されます。

再生モード

カメラのモード切り替えダイヤルを ▶ 位置にすると、再生モードになり、撮影した静止画や動画を見ることができます。この章では、この再生モードについて説明しています。

再生する

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

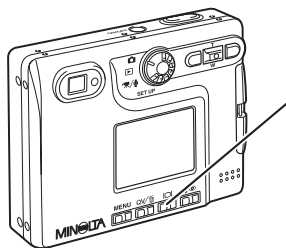
2. モード切り替えダイヤルを▶に合わせます。

● 撮影された最新の画像が表示されます。

3. 左右キーで見たい画像を選びます。

● 画像が記録されていない場合は、「画像がありません」というメッセージが現れます。

● 動画の場合は開始時の画像が、ボイスレコードの場合は青い画面が表示されます。

画面表示の切り替え

再生モード位置（▶）で液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

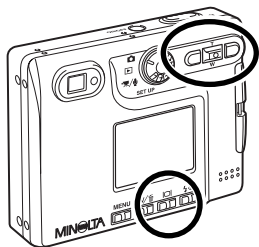
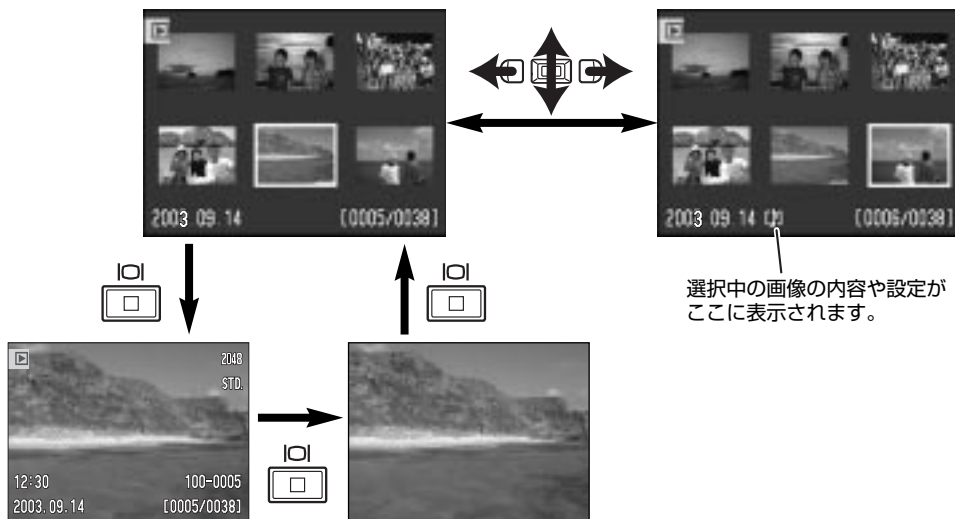
1コマ再生
（表示あり）

1コマ再生
（表示なし）

インデックス再生
→次ページ

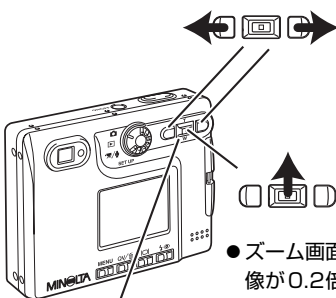
● この使用説明書では、1コマ再生・表示あり（左端）の状態で説明しています。

※各表示については → P.18

インデックス再生

インデックス再生時は、上下レバーと左右キーで、見たい画像を選択することができます。液晶モニターボタンで1コマ再生にすると、選択している画像が液晶モニターに表示されます。

選択中の画像の内容や設定がここに表示されます。

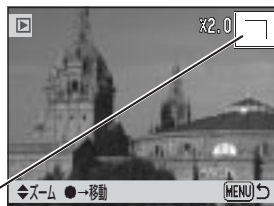
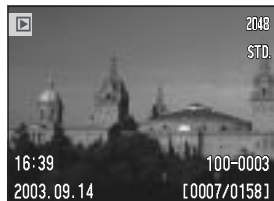
拡大再生

再生画像を、最大6倍にまで拡大することができます。

●動画の拡大再生はできません。

1. 再生モード位置（▶）で、左右キーで見たい画像を選びます。

2. 上下レバーを上に押します。

●ズーム画面が現れ、レバーを上に押すたびに画像が0.2倍ずつ、1.2倍から6倍まで拡大されます。下に押すと縮小されます。

●現在の拡大倍率が画面右上に表示されます。その右に、元画像のどの部分を拡大表示しているかを示すインジケータ(白枠は元画像全体、赤色の枠は拡大再生されている部分)が現れます。

●メニューボタンを押すと拡大前の画像に戻ります。

拡大再生中にフォーカスエリア切り替え/実行ボタンを押すと、「ズーム画面」と「移動画面」を切り替えることができます。

ズーム画面

実行ボタンを押すと移動画面になる

移動画面

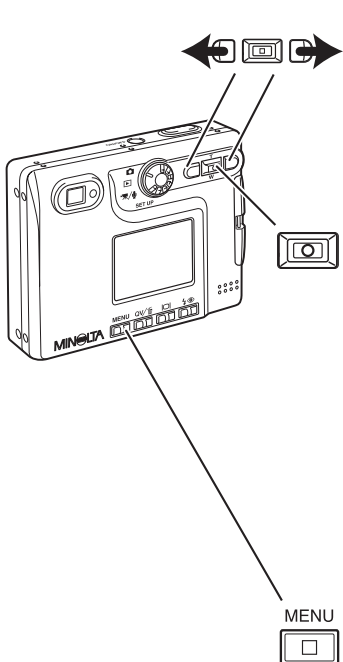
実行ボタンを押すとズーム画面になる

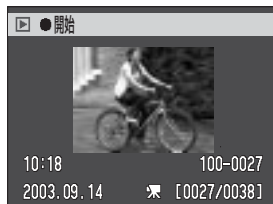
移動に合わせて白枠内の赤色の枠も移動します。

「移動」画面選択中は、上下レバーまたは左右キーで、見たい部分を移動させることができます。

動画や音声付き画像の再生

動画、ボイスメモやアフレコ（→ P.102）といった音声付き画像、ボイスレコードの再生方法は以下の通りです。1コマ再生またはインデックス再生で、該当する画像またはファイルを選択している状態にします。

動画の再生

1. 1コマ再生、または、インデックス再生で、動画を選択します。

● 動画開始時の画像が静止画として現れます。

2. フォーカスエリア切り替え/実行ボタンを押すと、動画の再生が開始されます。

● 右下の数値は経過秒数です。

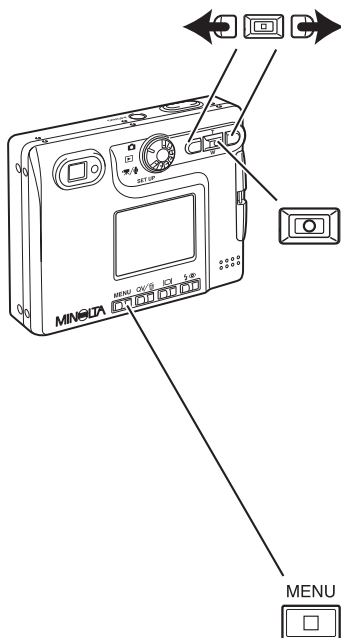
● 再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。左右キーで再生の巻戻し、早送りができます(右キーが早送り、左キーが巻戻し)。

● デジタルカメラのスピーカーから音声も同時に再生されます。再生中に上下レバーで音量の調節ができます。（上レバーで音量アップ、下レバーで音量ダウン。）

3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

● 最後まで再生が終了すると、自動的に再生開始前の画面に戻ります。

● 動画の拡大再生はできません。

ボイスレコードの再生

1. 1コマ再生、または、インデックス再生で、ボイスレコードを選択します。

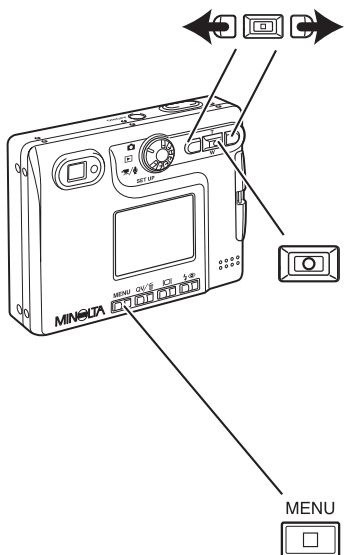
2. フォーカスエリア切り替え/実行ボタンを押すと、ボイスレコードの再生が開始されます。

●停止 ◀REW ▶FWD ◆音量 MENU
16:39

- 右下の数値は経過時間です。
- 再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。
- 再生中は、上下レバーで再生音量の調節ができます（上レバーで音量アップ、下で音量ダウン)。また左右キーで再生の巻戻し、早送りができます(右キーが早送り、左キーが巻戻し)。

3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

- 最後まで再生が終了すると、自動的に開始前の画面に戻ります。

音声（ボイスメモ・アフレコ）付き画像の再生

1. 1コマ再生、または、インデックス再生で、ボイスメモ、または、アフレコ付き画像を選択します。

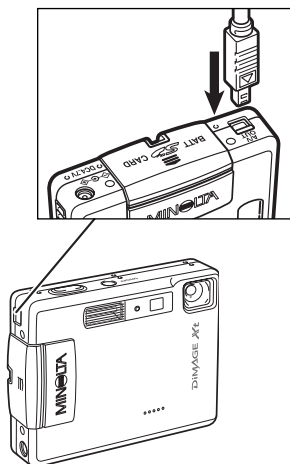
- 画面下に が表示されます。

2. フォーカスエリア切り替え/実行ボタンを押すと、音声が再生されます。

- 右上の数値は経過秒数です。
- 再生中は、上下レバーで再生音量の調節ができます（上レバーで音量アップ、下レバーで音量ダウン）。

- 途中で再生を終えるときは、メニューボタンを押してください。

画像をテレビに映して見る

付属のAVケーブル AVC-200 でカメラとテレビを接続して、撮影した画像や音声をテレビで見たり聞いたりすることができます。

1. カメラとテレビの電源を切ります。

2. AVケーブルのミニプラグ側を、カメラ側面のUSB/AV出力端子に差し込みます。

3. AVケーブルのもう一方の、黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

4. テレビの電源を入れ、テレビの [テレビ/ビデオ切替] などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

● 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

5. カメラのメインスイッチを押して電源を入れ、モード切り替えダイヤルを ▶ に合わせます。

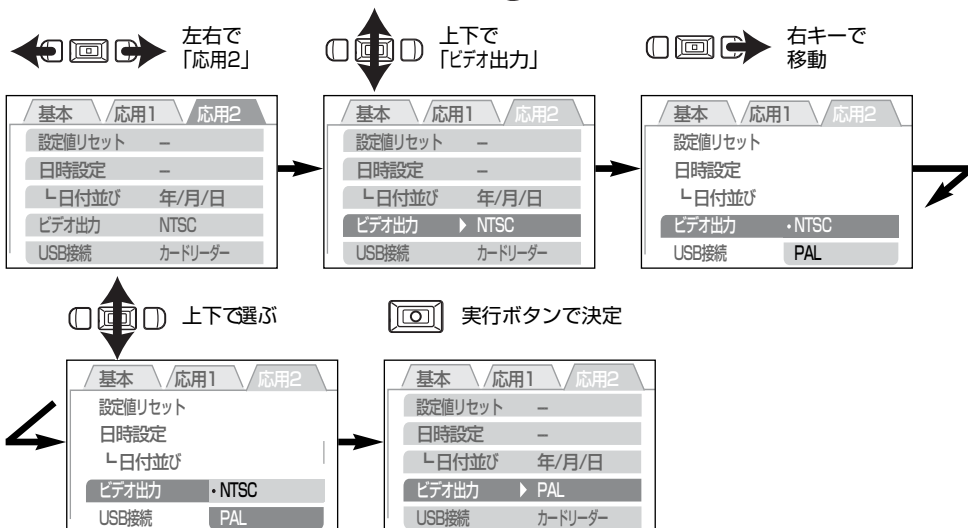
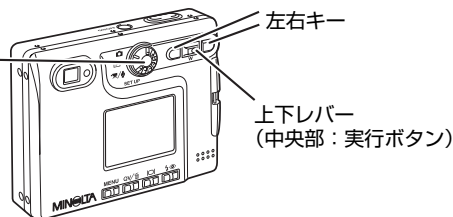
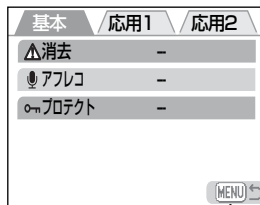
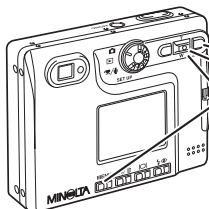
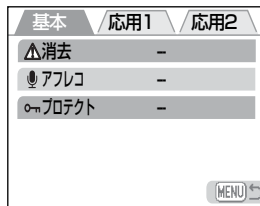
● 上記の操作で、カメラの液晶モニターに現れる画像や表示がそのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に、表示の切り替え等を行なうことができます。
● 音声はテレビ側から再生されます。
● カメラ背面の液晶モニターは点灯しません。
● 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→ 次ページ

次ページへ続く

ビデオ出力形式の切り替え

ビデオの信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ等ではNTSC、ヨーロッパの多くの国々ではPALが採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

1. モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

2. 上下レバーと左右キーで、ビデオ出力形式を選びます。

再生モード時のメニュー設定

モード切り替えレバーが再生モード位置（▶）にあるときは、以下のメニュー設定が可能です。

タブ	メニュー	設定	ページ
基本	消去	このコマ	P.100
		全コマ	
		コマを指定	
	アフレコ	実行する	P.102
	プロテクト	このコマ	P.104
		全コマ	
		コマを指定	
		全コマ取り消し	

再生モード時のメニュー設定

基本　応用1　応用2

スライドショー　–
└再生画像　–
└間隔　5秒
└繰り返し　なし

MENU

◎は初期設定値です。

タブ	メニュー	設定	ページ
応用1	スライドショー	実行する	P.106
	再生画像	全コマ	P.108
		コマを指定	
	間隔	1秒～60秒（◎5秒）	P.108
	繰り返し	あり	P.107
		◎なし	

基本　応用1　応用2

DPOF指定　–
└インデックスプリント　なし
メール画像作成　–
└画像サイズ　640×480

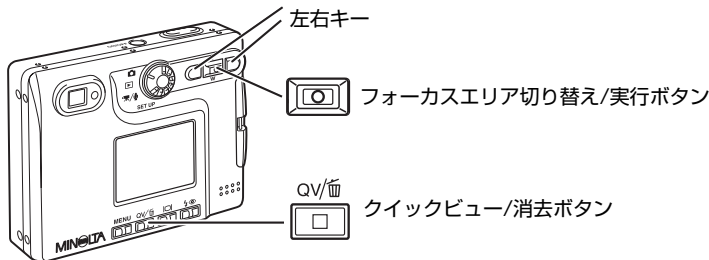
MENU

◎は初期設定値です。

タブ	メニュー	設定	ページ
応用2	DPOF指定	このコマ	P.110
		全コマ	
		コマを指定	
		全コマ取り消し	
	インデックスプリント	あり	P.114
		◎なし	
	メール画像作成	このコマ	P.121
		コマを指定	
	画像サイズ	◎640×480	P.120
		160×120	

画像を手早く消去する

再生モード位置で、画像を1コマずつ簡単に消去することができます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1.再生モード位置（▶）で、消去したい画像を表示させます。

QV/🗑

2.クイックビュー/消去ボタンを押します。

- 右の画面が現れます。
- 消去しない場合は、左右キーで「いいえ」を選んでください。
- 画像がプロテクト（→ P.104）されていて、消去できない場合は右の画面が現われます。

プロテクトされています

3.フォーカスエリア切り替え/実行ボタンを押します。

- 画像が消去されます。

※複数の画像をまとめて消去するときは → 次ページ

画像を消去する

画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。

このコマ（1コマ消去）：　再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ（全コマ消去）：　カード内の画像すべてを消去します。
コマを指定：　指定した画像だけを消去します。

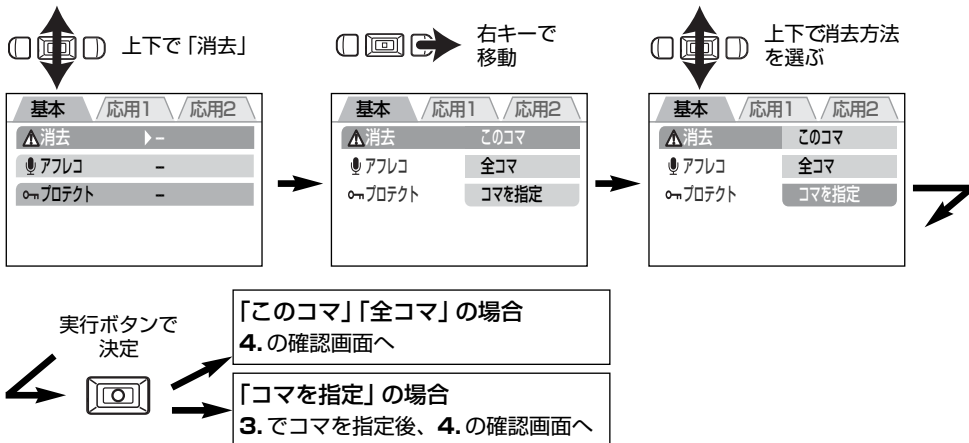
● ボイスレコードも同様に消去できます。また音声付き画像の場合、画像を消去すると音声も同時に消去されます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. 再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと左右キーで、希望の設定を選びます。

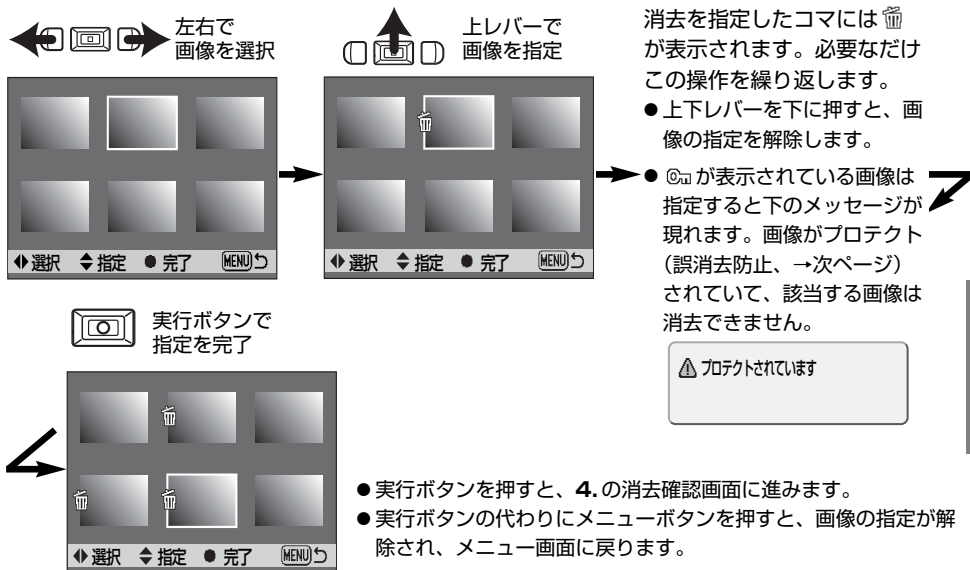
「このコマ」「全コマ」の場合
4. の確認画面へ

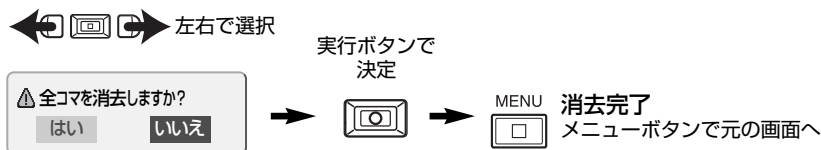
「コマを指定」の場合
3. でコマを指定後、**4.** の確認画面へ

3.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーで消去するコマを指定し、実行ボタンで実行します。

消去を指定したコマには 🗑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 上下レバーを下に押すと、画像の指定を解除します。
- 🔑 が表示されている画像は指定すると下のメッセージが現れます。画像がプロテクト（誤消去防止、→次ページ）されていて、該当する画像は消去できません。

プロテクトされています

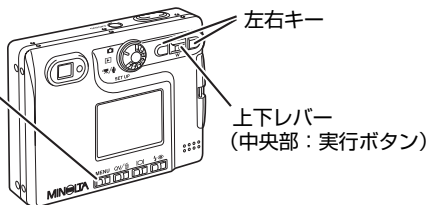
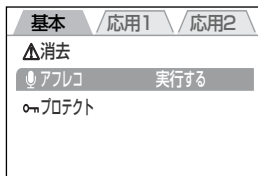
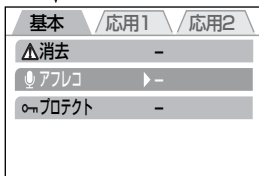
- 実行ボタンを押すと、**4.** の消去確認画面に進みます。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、メニュー画面に戻ります。

4.確認後、消去します。（下図は全コマ消去の場合）

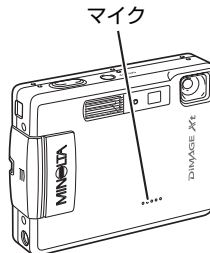
消去完了
メニューボタンで元の画面へ

アフレコ

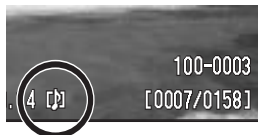
撮影後、画像に音声を付けることができます。最大15秒間の録音が可能です。
※アフレコ　＝　アフターレコーディング（After recording）の略

1.再生モード位置（▶）で、音声を付けたい画像を選びます。

2.メニューボタンを押します。

3.上下レバーと左右キーで、アフレコを実行します。

実行ボタンを押すと録音が開始されます。マイクに向かって話します。

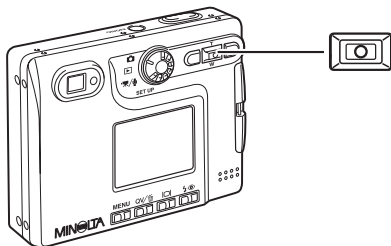
- 声を録音するときは、マイクから20㎝くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

4.録音を終了するときは実行ボタンを押します。

- アフレコは最大15秒間可能です。15秒経過すると、自動的に録音は終了します。
- メニューボタンを押すと元の画面にもどります。

- アフレコを付けた画像には、液晶モニターに ♪ が表示されます。

- すでに音声（ボイスメモまたはアフレコ）が付いている場合、左のメッセージが表示されます。上書きする場合は「はい」を選択し、実行ボタンを押すと、前の音声を上書きして新たな音声が録音されます。

- 動画とボイスレコード、およびプロテクト（→ P.104）をかけた画像にはアフレコを付けることはできません。

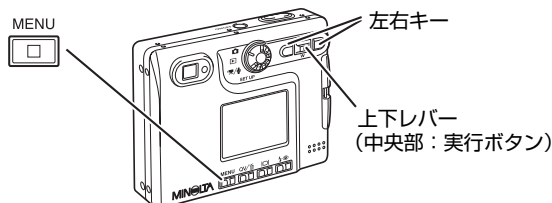
アフレコ

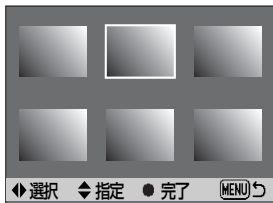
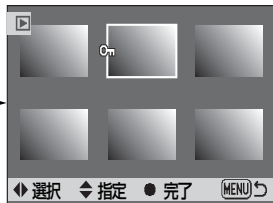
アフレコの再生

画像表示後、実行ボタンを押して音声を再生させてください。→ P.94

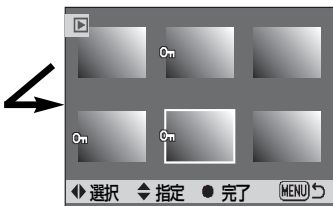
大事な画像を残す（プロテクト、誤消去防止）

撮影した画像（音声も含む）にプロテクトをかけ、間違って消去してしまわないようにすることができます。以下の4通りのプロテクト方法があります。

このコマ（1コマプロテクト）：	再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。 1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使えます。
全コマ（全コマプロテクト）：	カード内の画像すべてにプロテクトをかけます。
コマを指定：	指定した画像だけにプロテクトをかけます。
全コマ取り消し：	カード内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

1. 再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと左右キーで、希望の設定を選びます。

3.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーでプロテクトをかける(または解除する)コマを指定し、実行ボタンで実行します。

プロテクトを指定したコマには 🔑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

● 上下レバーを下に押すと、画像の指定を解除します。

● 実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面にもどります。

● 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、メニュー画面にもどります。

● 全コマ取り消しの場合は右の確認画面が現れます。左右キーで選択後、実行ボタンで実行してください。

● プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに 🔑 が表示されます。

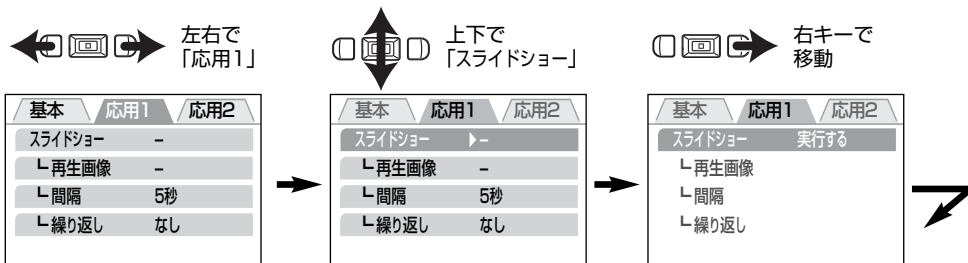
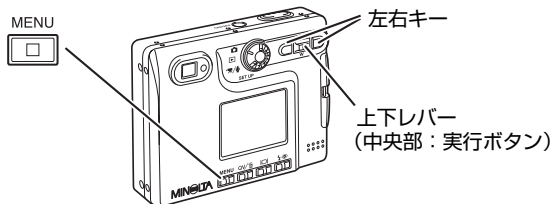
● カードをフォーマット(初期化、→ P.129)すると、プロテクトのかかった画像も消去されます。

スライドショー（画像の自動再生）

カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、カード内のすべての画像が最初から順に5秒間隔で表示されます。

● 動画、および、ボイスレコードはスライドショーでは再生されません。

1. 再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと左右キーで、スライドショーを開始させます。

実行ボタンで
決定

スライドショーが開始されます。

● スライドショー実行中に上下レバー中央部の実行ボタンを押すと、スライドショーの一時停止・再スタートが繰り返されます。

MENU

3. スライドショーを終えるときは、メニューボタンを押します。

● その後もう一度メニューボタンを押すと、元の再生画面にもどります。

スライドショーの設定変更

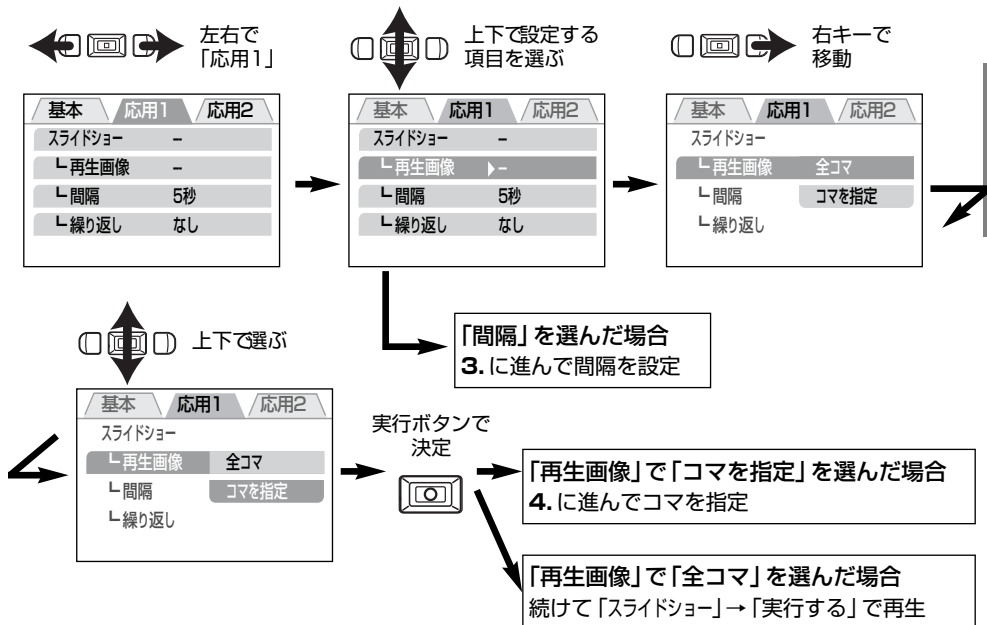
スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。

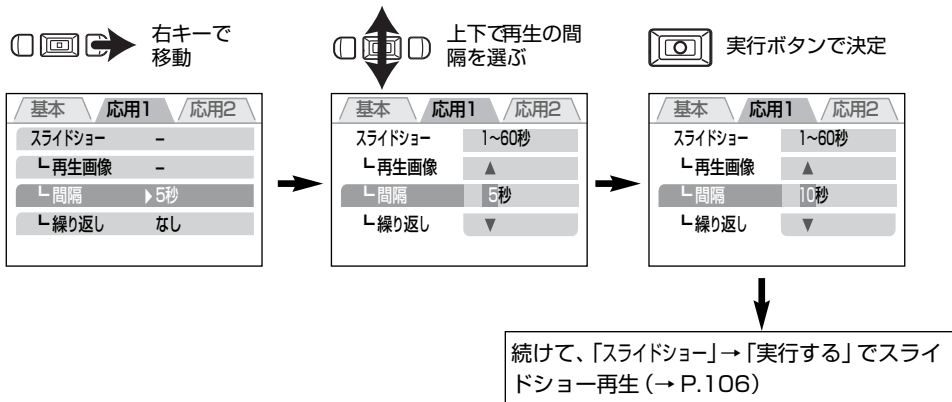
再生画像　：全コマ（全コマを再生する）／コマを指定（再生するコマを指定する）
間隔（画像表示時間）　：1秒～60秒の範囲で、1秒ごと
繰り返し　：なし／あり

1.再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

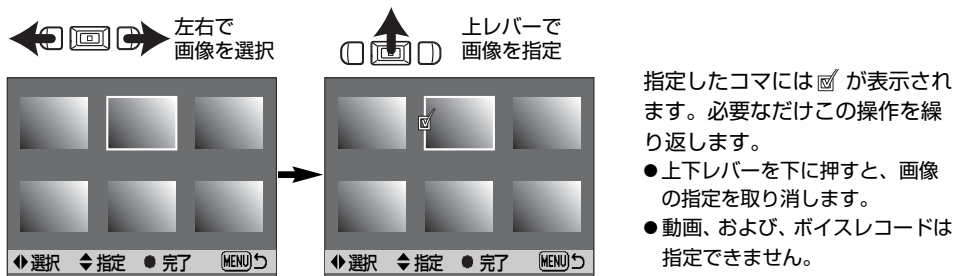
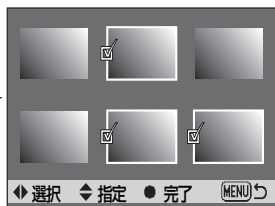
2.上下レバーと左右キーで、希望の設定を選びます。

スライドショー

次ページへ続く

3. 項目で「間隔」を選んだときは、上下レバーで再生の間隔を設定します。

続けて、「スライドショー」→「実行する」でスライドショー再生（→P.106）

4.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーでスライドショー再生するコマを指定し、実行ボタンで実行します。

指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 上下レバーを下に押すと、画像の指定を取り消します。
- 動画、および、ボイスレコードは指定できません。

実行ボタンで
指定を完了

●上下レバー中央部の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定は終了します。
●実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、メニュー画面にもどります。

続けて、「スライドショー」→「実行する」でスライドショー再生（→P.106）

●繰り返しを「あり」に設定した場合はスライドショー再生がずっと繰り返されます。再生を止めるにはメニューボタンを押してください。

DPOF(プリント)指定

このカメラでDPOF(プリント)指定したカードを、DPOF対応のプリント店に渡せば、画像のプリントをしてもらうことができます。DPOF対応のプリンタにカードをセットすれば、パソコンを介さずに直接画像をプリントすることができます。どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。　DPOF=Digital Print Order Formatの略

デジカメで撮影した画像をプリントする方法について

デジカメで撮影した画像をプリントする方法はいくつかあります。

1. ご自分のプリンタで印刷する。

画像をパソコンに取り込んでそこから印刷できます(パソコンとの接続に関してはP.145〜)。プリンタによっては、パソコンを介さずに直接カードから印刷したり、カメラとプリンタをUSBケーブルで接続するだけで印刷できるものもあります(USB DIRECT-PRINT → P.115)。

2. ご購入店やカメラ店などにプリントを依頼する

カードをお店にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントできます。

3. ネットプリントを利用する

インターネットを介してプリントの依頼をすることができます。Windows®パソコンをお持ちのかたは、付属のCD-ROMからアクセスすることができます(→ P.159)。また、ミノルタホームページ http://www.photo.minolta.co.jp のクラブ・フォトナビゲーションからも同様にプリント依頼ができます。

DPOF(プリント)指定する画像を選ぶ

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。

このコマ(1コマ指定)　：再生中の画像を1コマだけDPOF(プリント)指定します。
1コマだけDPOF(プリント)指定を取り消す場合にも使えます。

全コマ(全コマ指定)　：カード内の画像すべてをDPOF(プリント)指定します。

コマを指定　：指定した画像だけをDPOF(プリント)指定します。

全コマ取り消し　：カード内の画像すべてのプDPOF(プリント)指定を取り消します。

● 動画とボイスレコードのDPOF(プリント)指定はできません。

1. 再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと左右キーで、希望の設定を選びます。

「このコマ」「全コマ」の場合

3. に進んで枚数を指定 → 次ページ

「コマを指定」の場合

4. に進んでコマと枚数を指定 → 次ページ

「全コマ取り消し」の場合

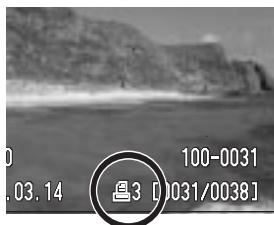
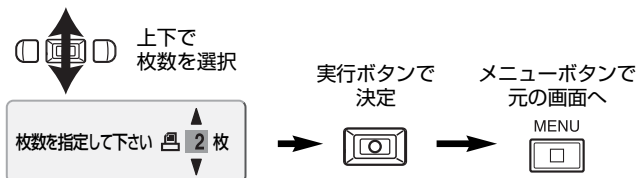
実行ボタンで
実行

メニューボタンで
元の画面へ

MENU

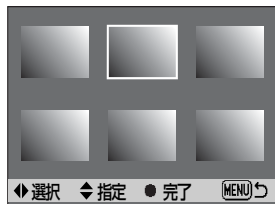
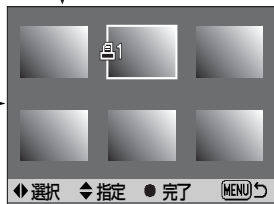
次ページへ続く

3.「このコマ」「全コマ」の場合、上下レバーで希望の枚数を選び、実行ボタンで実行します。

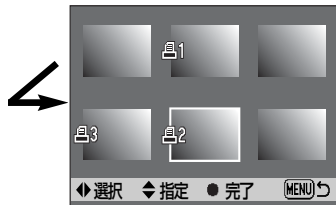
●このコマ(1コマ指定)の場合、現在表示中のコマのプリント枚数を選ぶことができます(0〜9枚)。
●全コマ(全コマ指定)の場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません(0〜9枚)。

●DPOF(プリント)指定された画像には、液晶モニターに🖶が表示されます。
🖶のみで数字がなければ、DPOF(プリント)指定枚数は1枚です。
🖶の横に数字があれば、その枚数分DPOF(プリント)指定されています(左図の例では3枚)。

●全コマ指定後に撮影した画像は、DPOF(プリント)指定されません。

4.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーでDPOF(プリント)指定するコマを選び、枚数を設定して、実行ボタンで実行します。

左右で
画像を選択

上下レバーで
枚数を選択

DPOF(プリント)指定したコマには 🖶 が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

● 表示がない場合はプリントされません。
● コマの右側に、動画 (P82)、ボイスレコード (P.85) のアイコンがある場合は、DPOF(プリント)指定できません。

実行ボタンで
指定を完了

● 実行ボタンを押すと、DPOF(プリント)指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面にもどります。
● 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、メニュー画面にもどります。

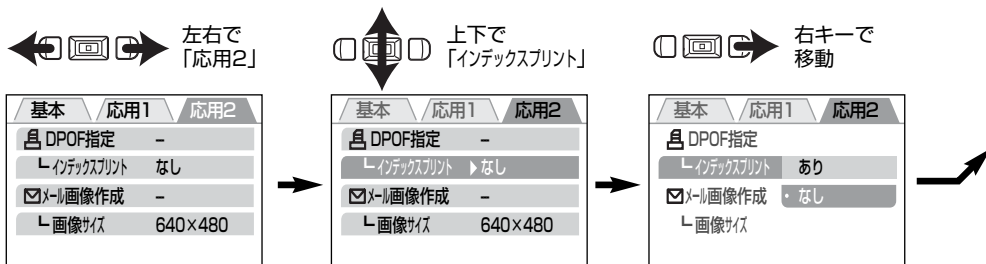
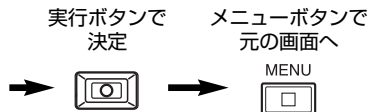
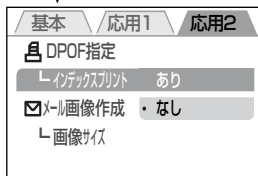
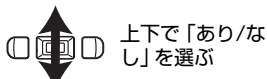
● DPOF(プリント)指定された画像には、液晶モニターに 🖶 が表示されます。
🖶 のみで数字がなければ、DPOF(プリント)指定枚数は1枚です。
🖶 の横に数字があれば、その枚数分DPOF(プリント)指定されています(左図の例では3枚)。

インデックスプリント

カードに記録されているすべての画像を一覧表示用としてまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。DPOF(プリント)指定では、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの有無を指定できます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。
- インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。改めて設定してください。

1.再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと左右キーで、希望の設定を選びます。

USB DIRECT-PRINT（USBダイレクトプリント）

USB DIRECT-PRINT（USBダイレクトプリント）対応のエプソンプリンタをお持ちの場合、カメラとプリンタを直接USBケーブルで接続してプリントを行うことができます。

- プリントの途中でカメラの電池が無くなると印刷は中断されます。フル充電した電池、または、別売りのACアダプタ AC-4の使用をおすすめします。
- USB DIRECT-PRINT（USBダイレクトプリント）を行う場合は、はじめにセットアップモードの［応用2］タブの［USB接続］の設定を「カードリーダー」にしてください。詳しくは → P.144

1. カメラとプリンタの電源を入れます。

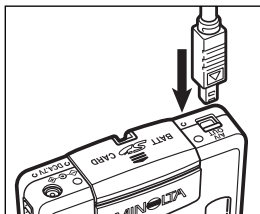
- カメラのモード切り替えダイヤルはどの位置でも構いません。

2. カメラとプリンタを接続する前に、用紙設定などのプリンタ側の設定を行います。

- 詳しい設定方法については、プリンタの取扱説明書をご覧ください。
- 日付写し込み（→ P.74）付きの画像をプリントする場合は、二重写し込みを防ぐため、プリンタ側での日付写し込み設定は行わないでください。
- 1枚の用紙に2種類以上の画像をプリントする場合は、DPOF（プリント）指定を利用してください。→ P.118

3. 付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

- プリンタ内蔵のポートに直接つないでください。USBハブを経由して接続すると正常に動作しない場合があります。

次ページへ続く

4.付属のUSBケーブルの小さいほうのコネクタを、カメラのUSB/AV出力端子に差し込みます。

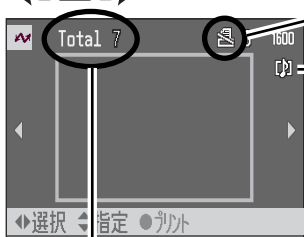
●「USB接続中」のメッセージが現れた後、USBダイレクトプリントの画面になります。

5.プリントするコマと枚数を指定します。

●USBダイレクトプリントの画面で指定する方法と、DPOF(プリント)指定を利用する方法(→ P.118)があります。

●1枚の用紙に2種類以上の画像をプリントする場合は、DPOF(プリント)指定を利用してください。→ P.118

USBダイレクトプリントの画面で指定する

USBダイレクトプリントの画面で、コマを選んで指定できます。またメニューの「基本」タブ画面では、一括で全コマを指定したり、全コマの指定を取り消すことができます。

●TIFFを除く静止画のみプリントできます。プリントできない場合は、ここに が表示されます。

●画像の情報が表示されます。

●プリントする画像の合計枚数です。999枚を超える場合は、999と表示されます。

液晶モニターボタンを押すと、インデックス表示に切り替わります。

MENU

メニューボタンを押すとメニュー画面が現れます。「基本」タブで一括指定(全コマ指定/全コマ取り消し)ができます(→ 次ページ)。

上下レバーで枚数を指定

メニューの一括指定を行わない場合

実行ボタンでプリント実行

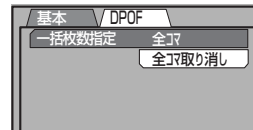
6. に進んでプリントを開始 → P.119

MENU

メニューの「基本」タブ画面で一括枚数指定ができます。カード内の全コマを指定した後、元の画面にもどって、そこから不必要なコマの指定を取り消したり、すでに行った指定を全コマ取り消すことができます。

全コマ指定

メニューボタンを押し、上下レバーと左右キーで「基本」→「一括枚数指定」から「全コマ」を選びます。

● TIFF以外の静止画全コマがプリント指定されます。

上下で枚数を指定

上下レバーで枚数を選び、実行ボタンで決定します。

● 全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0～9枚）。

実行ボタンで決定

DPOF指定

次ページへ続く

全コマ取り消し

メニューボタンを押し、上下レバーと左右キーで「基本」→「一括枚数指定」から「全コマ取り消し」を選びます。

●左の画面が現れます。左キーで「はい」を選んで、実行ボタンを押すと、全コマの指定が取り消されます。

6. に進んでプリントを開始 → P.119

DPOF(プリント)指定を利用する

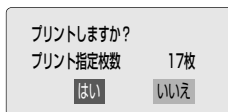
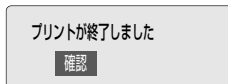
USBケーブルでカメラとプリンタを接続する前にDPOF指定(→ P.110)しておく必要があります。インデックスプリントを含む、TIFF以外のDPOF(プリント)指定した画像がプリントされます。

メニューボタンを押し、上下レバーと左右キーで「DPOF」→「DPOFプリント」→「実行する」を選びます。

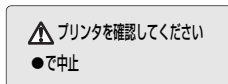
6. に進んでプリントを開始 → P.119

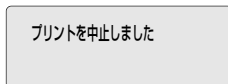
- DPOF（プリント）指定で、インデックスプリント（→P.114）を「あり」にしている場合は、プリント指定枚数は1枚多く表示されます。
- DPOF（プリント）指定があらかじめされていないときは、「コマ指定がありません」のメッセージが現れます。

6.以下の「プリントしますか？　プリント指定枚数　XX枚」の画面が現れたら、「はい」を選び、上下レバー中央の実行ボタンを押してプリントを開始します。

プリントしますか？
プリント指定枚数　17枚
はい　いいえ

- プリント中に実行ボタンを押すとプリントが中止されます。操作**5.**でのコマと枚数の設定は保持されていますので、上下レバー中央の実行ボタンを押すとプリントがもう一度はじめから始まります。

プリントが終了しました
確認

- プリントが終了したら左のメッセージが現れます。上下レバー中央の実行ボタンを押してプリントを終了してください。USBダイレクトプリントを終了するには、カメラとプリンタの電源を切ってUSBケーブルを外してください（プリンタ接続中はカメラの電源を切るのに約2秒ほどかかります）。

⚠ プリンタを確認してください
●で中止

- 左のメッセージが現れた場合は、プリンタ側の問題（用紙切れなど）によりプリントできません。プリンタ側の問題を解決するとプリントが再開されます。再開されない場合は、上下レバー中央の実行ボタンを押していったんプリントを中止してください。

プリントを中止しました

- プリント中や上記エラーメッセージ表示中に実行ボタンを押すと、プリントは途中で中止されます。USBケーブルを外すか、カメラの電源を切ってください。再度プリントする場合は、カメラ側でDPOF（プリント）指定、プリンタ側で用紙等の設定をし直してから、再度115ページからの手順にしたがってプリントを行ってください。

メール画像作成

カードに記録された画像から、Eメール添付に適したサイズの画像（画像サイズ640×480、または、160×120）を作成することができます。元の画像はそのまま残ります。

このコマ　：再生中の画像1コマをサイズ変更して作成します。
コマを指定　：指定した画像をサイズ変更して作成します。

画像サイズの設定

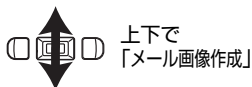
● 画像サイズは、メール画像作成する前にあらかじめ設定しておく必要があります。

1.再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと左右キーで、希望の画像サイズを選びます。

● 画像サイズ640×480の画像は、パソコンなどでのEメールに添付するのに適しています。160×120の画像は、携帯電話へのメールに添付するのに適しています。

メール画像の作成

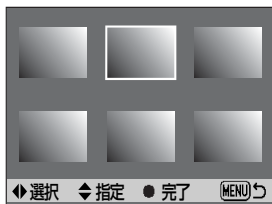
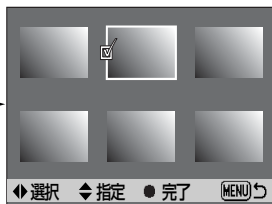
1. **再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。**
2. **上下レバーと左右キーで、希望の設定を選びます。**

「コマを指定」を選んだ場合
122ページの **3.** に進んでコマを指定

「このコマ」を選んだ場合
123ページの **3.** へ

メール画像作成

次ページへ続く

「コマを指定」の場合

3.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーでメールの画像を作成するコマを指定します。

指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

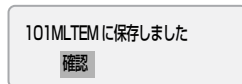
- 上下レバーを下に押すと、画像の指定を取り消します。
- コマの右側に、動画（P.82）、ボイスレコード（P.85）、メール画像（P.120）のアイコンがある場合は、作成できません。
- 指定した画像がカードの容量を超える場合は、作成できません。

4.実行ボタンを押してメール画像を作成します。

- TIFF画質の画像を選ぶなど、データ量が多くて処理に時間がかかるときは、右の画面が現われます。

5.作成完了すると、保存するフォルダ名と確認画面になります。

- 保存するフォルダ名については124、130ページをご覧ください。

101MLTEM に保存しました
確認

6.実行ボタンを押すとメニュー画面にもどります。

- メール画像として作成された画像には、再生時、液晶モニターに✉が表示されます。

● 右のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくてカードの容量を超えています。画像の数を減らして指定し直してください。

画像が多すぎます。
指定し直してください。

「このコマ」の場合

3. 実行ボタンを押してこのコマを選択すると、メール画像を作成します。

● TIFF画質の画像を選ぶなど、データ量が多くて処理に時間がかかるときは、右の画面が現われます。

4. 作成完了すると、保存するフォルダ名と確認画面になります。

● 保存するフォルダ名については124、130ページをご覧ください。

101MLTEM に保存しました
確認

5. 実行ボタンを押すとメニュー画面にもどります。

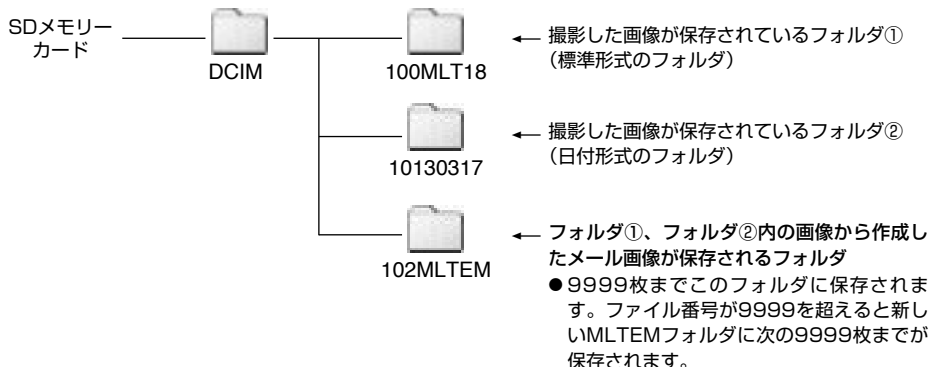
● メール画像として作成された画像には、再生時、液晶モニターに ✉ が表示されます。

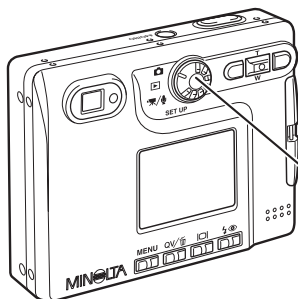
● 右のメッセージが現れた場合は、指定した画像がカードの容量を超えるか、動画、ボイスレコード、あるいはすでに作成済みのメール画像で、メール画像を作成することができません。

作成できません

次ページへ続く

メール用画像の保存されるフォルダ

- 作成されるメール画像は、元画像がTIFF・ファイン・スタンダードの場合はスタンダードに、エコノミーの場合はエコノミーになります。
- 作成されたメール画像は、カード内に作られる“MLTEM”という名前のフォルダにまとめて保存されます（MLT=Minolta、EM=E-mail の意味）。詳しくは → P.130

- ボイスメモやアフレコで音声を付けた画像から作成されたメール画像には、元画像と同じ音声が付けられています。
- すでに作成済のメール画像のファイル、動画や音声記録（ボイスレコード）からは、メール画像は作成できません。
- プロテクト（誤消去防止の設定）された画像からもメール画像を作成できます。ただし、作成されたメール画像にはプロテクトがかかっていません。
- 元画像とEメール用に作成された画像とはそれぞれ別のファイルとして扱われ、ファイル番号も変わります。たとえば、ある元画像を消去しても、それから作成されたメール画像は消去されずに残っています。

セットアップモード

カメラのモード切り替えダイヤルを**SETUP**位置にするとセットアップモードになり、カメラの細かな設定を変更することができます。この章では、このセットアップモードについて説明しています。

セットアップモードメニュー

セットアップモードでは以下の設定が可能です。上下レバーと左右キー、(上下レバー中央の)実行ボタンを使って設定します。

基本	
モニター明るさ(P.128)	実行する
フォーマット(P.129)	実行する
ファイルNo.メモリー(P.134)	あり
	◎なし
フォルダ形式(P.133)	◎標準形式
	日付形式
言語/Lang.(P.135) (*)日本語以外の言語に設定している場合は、日本語/JPNと表示される	◎日本語(*)
	English
	Deutsch
	Français
	Español

応用2	
設定値リセット(P.140)	実行する
日付設定(P.28)	実行する
日付並び(P.142)	◎年/月/日
	月/日/年
	日/月/年
ビデオ出力(P.96)	◎NTSC
	PAL
USB接続(P.144)	◎カードリーダー
	PCカメラ

応用1	
操作音(P.136)	◎あり
	なし
シャッター音(P.136)	◎音1
	音2
	音3
	なし
音3録音(P.137)	AF音
	シャッター音
音量(P.136)	3(大きい)
	◎2
	1(小さい)
オートパワーオフ(P.139)	30分
	10分
	5分
	◎3分
	1分

◎は初期設定値です。

- セットアップモードメニューでの設定は、カメラの電源を切ったりモード切り替えダイヤルでモードを切り替えても、保存されています。

1. 左右キーで、[基本] [応用1] [応用2] のいずれかを選びます。

2. 上下レバーで、設定したい項目を選びます。

3. 右キーを押して、設定できる内容(の一覧)を表示させます。

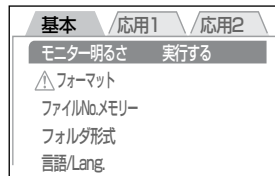
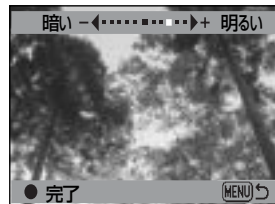
4. 上下レバーで、希望の設定を選びます。

5. 上下レバー中央の実行ボタンを押して決定します。

セットアップ

液晶モニターの明るさ調整

液晶モニターの明るさを調整できます。

1. 127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [基本] → [モニター明るさ] から [実行する] を選び、実行ボタンを押します。

2. 左右キーで明るさを調整します。

3. 上下レバー中央の実行ボタンを押します。

● 元の画面にもどります。

● 撮影モード( )や動画モード( )でも、液晶モニターボタンを約2秒間押し続けると、上記操作**2.** の調整画面が現れて液晶モニターの明るさを調整できます(この場合は、調整画面で約5秒間何も操作をしないでいると、自動的に元の画面にもどります)。

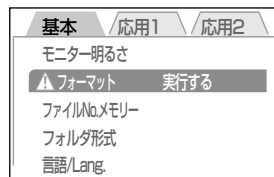
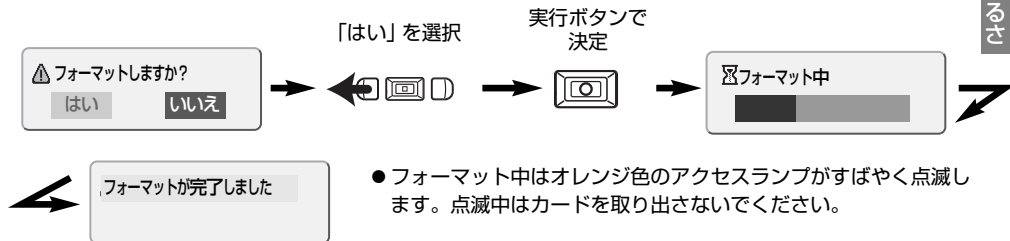
● 液晶モニターの明るさを変えても、撮影される画像の明るさは変わりません。画像そのものの明るさを変える場合は、露出補正をお使いください。→ P.64

カードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、SDメモリーカードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

1.フォーマットするカードをカメラに入れます。

2.127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [基本] → [フォーマット] から [実行する] を選び、実行ボタンを押します。

3.左右キーと上下レバーで、カードをフォーマットします。

- フォーマット中はオレンジ色のアクセスランプがすばやく点滅します。点滅中はカードを取り出さないでください。

- カードのフォーマットは、このページの要領でカメラ側で行ってください。**パソコンでカードのフォーマットを行うと、カメラでカードが認識できないことがあります。**カメラ以外でフォーマットした場合は、撮影する前にカメラで再フォーマットしてください。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、カード内のフォルダに入れられます。カード内のファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

● 以下は、カードの内容をパソコンで表示させたときのフォルダ構成です。

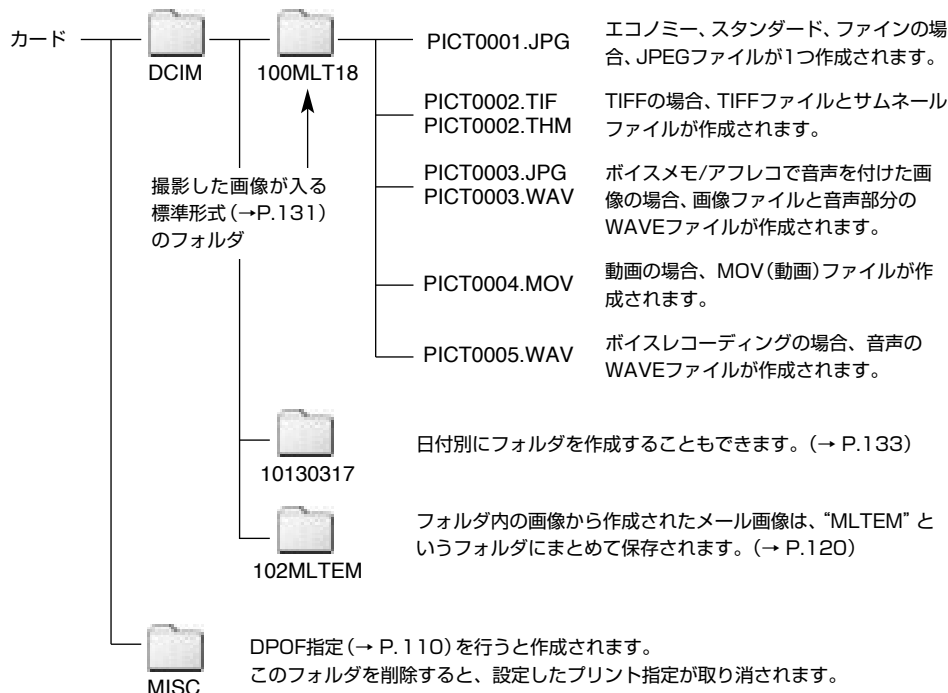
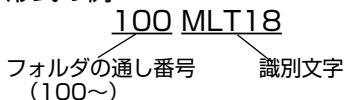
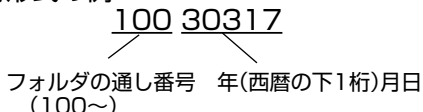
フォルダ名について

標準形式の例：

100 MLT18

フォルダの通し番号（100～）　識別文字

日付形式の例：

100 30317

フォルダの通し番号（100～）　年(西暦の下1桁)月日

フォルダ名は、**標準形式**の場合 “フォルダの通し番号3桁” ＋ “識別文字5文字”、
日付形式の場合 “フォルダの通し番号3桁” ＋ “年(西暦の下1桁)月日” となります。

通し番号は “100” から始まり、フォルダが作成されるたびに 1つずつ増えて行きます。
標準形式のフォルダの場合、識別文字は “MLT18” です。“MLT” はミノルタを、“18” はこのカメラ(DiMAGE Xt)を表します。
標準形式/日付形式いずれのフォルダの場合も、メール画像の入るフォルダの識別文字は “MLTEM” です。

- 標準形式フォルダの識別文字5文字、および、日付形式フォルダの年月日5文字は、カメラをパソコンに接続してカード(の内容)を表示させたときに確認できます。
- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか (→ P. 145～)、カメラ側でカードをフォーマットしてください (→ P. 129)。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

ファイル番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

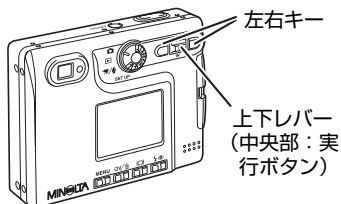
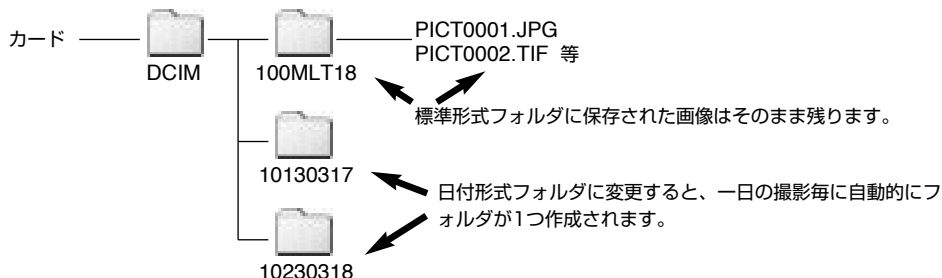
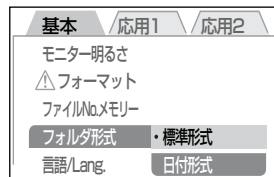
PICTの後の4桁の通し番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

- カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。フォルダ内の画像をすべて消去すると、ファイル番号は再び 0001 から始まります（ファイルNo.メモリーを「なし」に設定している場合。→ P. 134）。
- “PICT9999” まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（128ページの例だと “103MLT18”）、その中で再び “PICT0001” から画像の記録が開始されます。
- 各フォルダ内では、常にファイル名は “PICT0001” から（すでにファイルが存在する場合はその次の番号から）始まります（ファイルNo.メモリーを「なし」に設定している場合。→ P. 134）。

※続き番号にするには → ファイルNo.メモリーを「あり」にする、P.134

- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

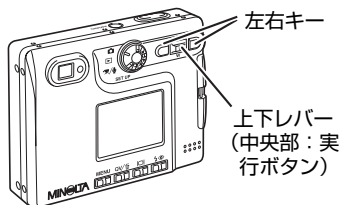
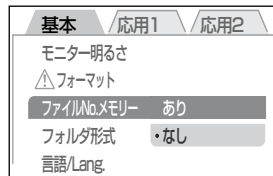
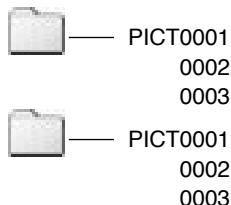
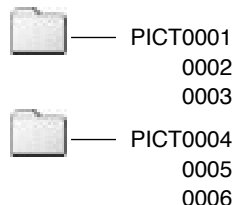
フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

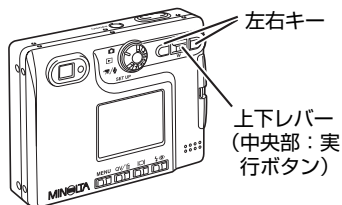
初期設定の標準形式フォルダ（100MLT18 など）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存することができます。

127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [基本] → [フォルダ形式] から [日付形式] を選び、実行ボタンを押します。

- 初期設定では、日付が変わってフォルダが変わるたびに、中のファイル番号は PICT0001 にもどります。
  ※続き番号にするには → ファイルNo.メモリーを「あり」にする、P.134
- 日付形式フォルダは、日付・時刻を正確に合わせた状態でお使いください。

ファイルNo.メモリー

フォルダが変わると、初期設定のファイルNo.メモリー「なし」では、ファイル名は再び“PICT0001”から始まります。これを続き番号にすることができます。

なし　：ファイルNo.メモリーは機能しません。日付形式フォルダで日付が変わる等でフォルダが変わると、ファイル番号は 0001 にもどります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その次の番号から始まります。

あり　：ファイルNo.メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行っても、ファイル番号はそのまま続きます。

127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [基本] → [ファイルNo.メモリー] から [なし] または [あり] を選び、実行ボタンを押します。

イメージ図

言語設定

メニューの表示言語を、5カ国語の中から選ぶことができます。

127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [基本] → [言語/Lang.] から希望の言語を選び、実行ボタンを押します。

● 選べる言語は以下の通りです。

・日本語(※)

・英語（**English**）

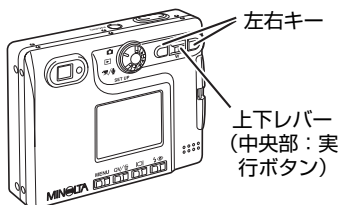
・ドイツ語（**Deutsch**）

・フランス語（**Français**）

・スペイン語（**Español**）

(※) 日本語以外の言語を選んだときは、日本語/JPN と表示されます。

操作音と音量の設定

カメラを操作すると操作音が出ます。その音量を変えたり音が出ないようにすることができます。シャッター音も4つの中から選べます。シャッター音やAF音（オートフォーカスでピントが合ったときの確認音）を自分で録音することもできます。

127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [応用1] から希望の項目とその設定を選び、実行ボタンを押します。

基本 | 応用1 | 応用2
操作音
シャッター音 ・音1
└ 音3録音 音2
音量 音3
オートパワーオフ なし

操作音	レバーを動かす、ボタンを押す、ダイヤルを回すなど、カメラを操作したときに出る音	あり（操作音が出ます）
		なし（操作音は出ません）

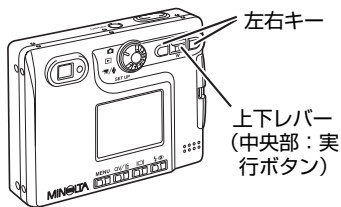
シャッター音	シャッターを切ったときに出る音	音1（ミノルタCLEのシャッター音）
		音2（電子的なシャッター音）
		音3（ご自分で録音されたシャッター音、AF音）
		なし（シャッター音は出ません）

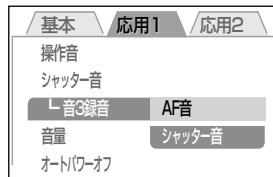
音3録音（→ P.137）	AF音とシャッター音、どちらを録音するか選びます	AF音（ピントが合ったときの確認音、上記の音3）
		シャッター音（上記の音3）

音量	3（大きい）
	2
	1（小さい）

- お買い上げ時は、「音3」のシャッター音には音1と同じ音が、AF音にはオリジナルの音が、それぞれ入っています。
- 音量の設定は、操作音、シャッター音、録音した音 のすべてに反映されます。

シャッター音、AF音を録音する

シャッター音、AF音（オートフォーカスでピントが合ったときの確認音）をご自分で録音することができます。シャッター音/AF音 それぞれ別の音を録音することができます。

1. 127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [応用1] → [音3録音] から [シャッター音] または [AF音] を選び、実行ボタンを押します。

基本 | 応用1 | 応用2
操作音
シャッター音
└音3録音　AF音
音量　シャッター音
オートパワーオフ

● 録音開始画面が現れます。

2. シャッターボタンを押して録音を開始します。

● マイクに向かって話す、音を出すなどしてください。

3. 再度シャッターボタンを押して録音を終了します。

● 5秒経過すると、録音は自動的に終了します。
● 録音した音を再生するかどうか選ぶ、右の画面が表示されます。

次ページへ続く

4. 録音した音を再生する場合は、［はい］を選んで上下レバー中央の実行ボタンを押します。

録音した音を再生しますか？
はい　次へ

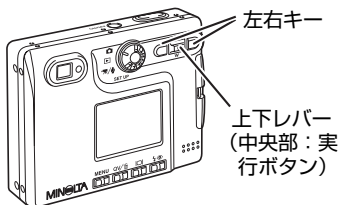
- 再生しない場合は、［次へ］を選んで実行ボタンを押します。
- 再生中は上下レバーで音量の調整ができます。
- 再生後は再び音を再生するかどうか選ぶ、右上の画面にもどります。［次へ］を選んで実行ボタンを押すと、音を登録するかどうか確認画面が現れます。

5. 登録する場合は、［はい］を選んで上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 再度音を録音・登録すると、古い音は新しい音に上書きされます。

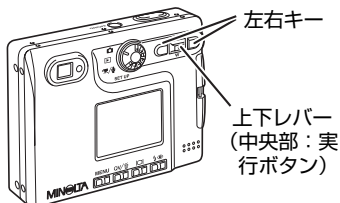
- 録音・登録したAF音に切り替えるときは、シャッター音で「音3」を選んでください。
- シャッター音で音3以外を選ぶと、AF音はオリジナルの音になります。
- 設定値リセット（→ P.140）を行うと、音3のシャッター音は音1と同じ音に、AF音はオリジナルの音に、それぞれもどります。

オートパワーオフ

初期設定では、約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に電源が切れ、液晶モニターの表示が消灯します（オートパワーオフ）。このオートパワーオフまでの時間を、1分、3分、5分、10分、30分のいずれかに変更することができます。

127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [応用1] → [オートパワーオフ] から希望の時間を選び、実行ボタンを押します。

● オートパワーオフ後に操作を再開したいときは、メインスイッチを押してカメラの電源を入れてください。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定にもどすことができます。

1. 127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [応用2] → [設定値リセット] から [実行する] を選び、実行ボタンを押します。

2. [はい] を選んで上下レバー中央の実行ボタンを押します。

● リセットされる内容は以下の通りです。

ボタンで設定するもの		
項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
フラッシュモード	自動発光	41
フォーカスエリア	ワイドフォーカスエリア	44

撮影モードメニュー		
項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
ドライブモード	1コマ撮影	48
画像サイズ	2048×1536	52
画質	スタンダード	54
ホワイトバランス	AUTO	57
左右キーカスタマイズ	露出補正	59
撮像感度	AUTO	61
測光モード	多分割	63
露出補正	±0	64
ノイズリダクション	あり	67
オートリセット	あり	69

撮影モードメニュー（続き）

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
カラーモード	カラー	71
ボイスメモ	なし	72
日付写し込み	なし	75
デジタルズーム	なし	77
アフタービュー	なし	79

再生モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
(ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ)間隔	5秒	108
(ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ)繰り返し	なし	109
インデックスプリント	なし	114
メール画像サイズ	640×480	120

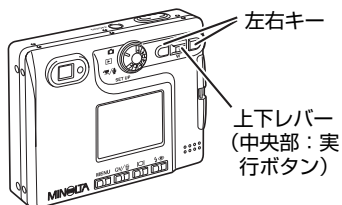
動画設定時のメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画像サイズ	320×240	84
ホワイトバランス	AUTO	57
カラーモード	カラー	71

セットアップモードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	128
ファイルNo.メモリー	なし	134
フォルダ形式	標準形式	131
操作音	あり	136
シャッター音	音1	136
音量	2	136
オートパワーオフ	3分	139
USB接続	カードリーダー	144

日付並び

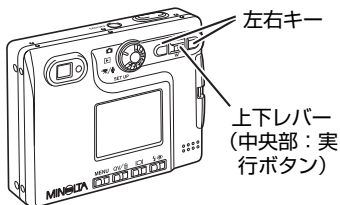
「年月日」の並び順を、「月日年」または「日月年」に変えることができます。

127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [応用2] → [日付並び] から [年/月/日] [月/日/年] [日/月/年] のいずれかを選び、実行ボタンを押します。

● ここでの設定は、再生画面/クイックビュー画面に表示される撮影日や、日付写し込み「あり」で写し込まれる日付の並び順にも反映されます。

撮影日の並び順が月日年になっています
（上図の設定の場合）

※日付・時刻の設定（修正）のしかたは → P.28

ビデオ出力

AV出力端子からのビデオ信号を、「NTSC」と「PAL」とで切り替えることができます。

127ページの要領で、セットアップモードメニュー →[応用2] →[ビデオ出力] から [NTSC] [PAL] のいずれかを選び、実行ボタンを押します。

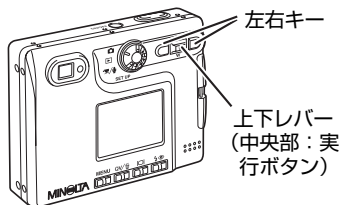
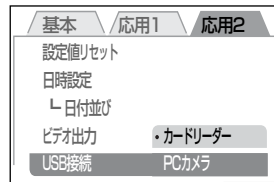
● 詳細は → P.96

日付並び
ビデオ出力

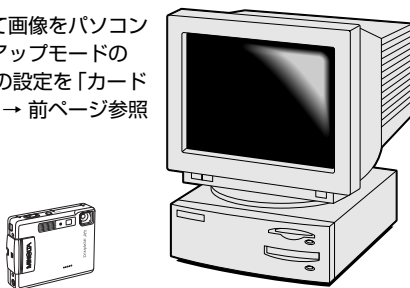
USB接続

USB接続時のカメラの動作モードを設定します。

カードリーダー　：　カメラはカードリーダーとして動作します。カメラとパソコンを接続してカード内の画像をパソコンに取り込む場合や、カメラとプリンターを接続してカード内の画像をプリントするとき（USBダイレクトプリント）は「カードリーダー」にします。

PCカメラ　：　カメラは画像入力用のカメラとして動作します。Windows Messenger, Windows NetMeeting と連動して、その画面に映像を表示させる場合には「PCカメラ」を選びます。→ P.162～

127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [応用2] → [USB接続] から [カードリーダー] または [PCカメラ] のいずれかを選び、実行ボタンを押します。

パソコンで画像を見る

パソコンをお持ちの場合、撮影した画像をパソコンに取り込み、保存や整理を行なうことができます。

● カメラとパソコンを接続して画像をパソコンに取り込む場合は、セットアップモードの［応用2］タブの［USB接続］の設定を「カードリーダー」にしてください。→ 前ページ参照

動作環境

以下のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です（USBマスストレージ対応）。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機 （NEC PC98-NXシリーズを含む）	Apple Macintosh
OS	Windows®XP、Windows®Me、 Windows®2000 Professional、 Windows®98/98 Second Editionが インストール済み	Mac OS 9.0～9.2.2、 Mac OS X 10.1.3～10.1.5、 10.2.1～10.2.3 がインストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- ハブ接続した場合は、正常に動作しない場合があります。その場合はパソコン本体のUSBポートに直接接続してください。
- 自作機、ショップブランドなどの各種ボード類を含めて組み立てられた機種は除きます。

最新の動作環境情報(互換性情報)については、弊社ホームページをご覧いただくが、裏面記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。ホームページの場合は、以下のサイトから互換性情報をご覧ください。
http://www.photo.minolta.co.jp

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows®XP、Me、2000 Professional の場合

付属のUSBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→ P.148
静止画は、一般的な画像表示ソフトで開けることができます。お持ちでない場合は、付属のCD-ROMより画像表示ソフトDiMAGE ビューアーをインストールしてお使いください。
動画の再生にはQuickTimeが必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMよりインストールしてください。→ P.160

Windows®98/98 Second Edition の場合

付属のCD-ROMから、パソコンにUSBドライバをインストールする必要があります。→ P.153
その後付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→ P.148
静止画は、一般的な画像表示ソフトで開けることができます。お持ちでない場合は、付属のCD-ROMより画像表示ソフトDiMAGEビューアーをインストールしてお使いください。
動画の再生にはQuickTimeが必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMよりインストールしてください。→ P.160

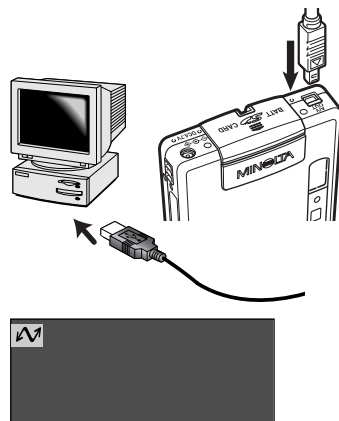
Macintoshの場合

付属のUSBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→ P.148
静止画は、一般的な画像表示ソフトで開けることができます。お持ちでない場合は、付属のCD-ROMより画像表示ソフトDiMAGEビューアーをインストールしてお使いください。※
動画再生用のQuickTimeは通常はインストール済みですので、そのまま動画を再生することができます。

パソコンで画像を開ける

1.パソコンの電源を入れます。

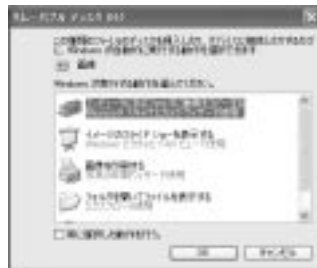
2.付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをカメラのUSB端子に、大きいほうのコネクタをパソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。
- USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際には151ページの指示にしたがってください。

3.カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

- 液晶モニター左上に が表示されます。

4.カードとフォルダを開けます。

Windows®では、カードがマイ コンピュータ上に「リムーバブル ディスク」として現れます。ダブルクリックすると開けることができます。

- Windows®XPでは右の画面が現れるので、目的に応じて選択してください。

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に「名称未設定」として現れます。ダブルクリックすると開けることができます。

Mac OS Xでは、カードがデスクトップに「NO_NAME」として現れます。同時に初期設定では、Image Capture アプリケーションが起動します。

どちらかをクリックしてダウンロードを行います。

● ダウンロード先を左図の通りに設定した場合、静止画像はPicturesフォルダ、動画はMoviesフォルダ、音声データはMusicフォルダに自動的にコピーされます。

5. ファイルを開けます。

見たい画像をダブルクリックして開けます。

静止画の場合（JPEG、TIFF）

一般的な画像表示ソフト等で開くことができます。お持ちでない場合は付属のDiMAGEビューアーCD-ROMのDiMAGEビューアーをインストールしてお使いください。

音声ファイルの場合（WAVE）

OSに付属の音声再生ソフト（Windows Media Player、QuickTime Player 等）で再生することができます。（画像と同時に再生することはできません。）

動画の場合

再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windows®で、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のDiMAGEビューアーCD-ROMのQuickTimeをインストールしてお使いください。→ P.160

● Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

パソコンで画像を開ける

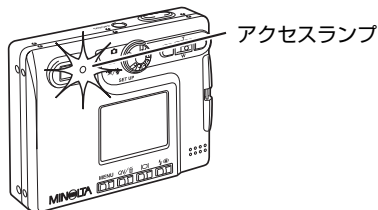
画像をパソコンに保存するときは、ドラッグアンドドロップ操作で画像ファイルを任意の場所にコピーしてください。

必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、P.151の要領で接続を解除することをおすすめします。

- パソコン接続中は、オートパワーオフ（→ P.23）までの時間は自動的に10分になります。10分間カメラを操作しないでいると、自動的にカメラがOFFの状態になってUSB接続が切断され、パソコンによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが出ることがあります。カメラのメインスイッチをOFFにしても同様です。

- Windows®98/98 Second Edition使用時に、接続後「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ ドライバをインストールしていない場合はP.153へ、すでにインストールしている場合はP.157へ。
- カードに該当するアイコンが表示されない（カードが認識されない）場合は、パソコンを再起動してください。それでも認識されない場合は → P.157
- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプター AC-4 の使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（オレンジ色のアクセスランプが点滅中）には、以下の操作はしないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
  - ・カメラのメインスイッチを押して電源を切る。
  - ・USBケーブルを取り外す。
  - ・カードまたは電池を取り出す。
- カードのフォーマットはカメラ側で行なってください（→ P.129）。**パソコンでカードのフォーマットをすると、カメラ側でカードを認識しないことがあります。**
- **パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。**カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

USBケーブルの取り外し・接続中のカードの交換

USBケーブルを取り外す場合は、まず以下の操作を行なってください。カメラ内のカードを交換する場合も、まずUSBケーブルを取り外してからカードを交換してください。

Windows®XP/Me/2000 Professional の場合

お使いのWindows® OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのオレンジ色のアクセスランプが点滅していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］または［ハードウェアの安全な取り外し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USBディスクの停止］［USB大容量記憶装置デバイスを停止します（または安全に取り外します）］を左クリックします。
4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れます。［OK］または☒をクリックします。
5. カメラのメインスイッチを押して電源を切ります。
6. USBケーブルを取り外します。

USBケーブルの取り外し・接続中のカードの交換

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの **2.**で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。
  1. ハードウェアの取り外し画面が現れたら、USBを選択して [停止] をクリックする。
  2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して [OK] をクリックする。
  3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、[OK] または☒をクリックする。
  4. メインスイッチを押してカメラの電源を切る。
  5. USBケーブルを取り外す。

Windows®98 または 98 Second Editionの場合

1. カメラのオレンジ色のアクセスランプが点滅していないことを確認します。
2. カメラのメインスイッチを押して電源を切ります。
3. USBケーブルを取り外します。

Macintoshの場合

Mac OS 9.xの場合

Mac OS Xの場合

1. カメラのオレンジ色のアクセスランプが点滅していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へドラッグ＆ドロップして移します。
3. カメラのメインスイッチを押して電源を切ります。
4. USBケーブルを取り外します。

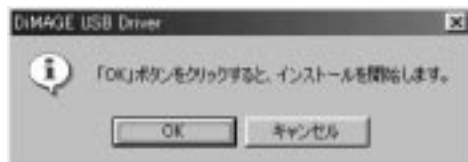
ドライバのインストール(Windows®98/98SEのみ)

Windows®98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のDiMAGEビューアーCD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。

1. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [USBデバイスドライバ インストーラの起動]をクリックします。

3. 以下のインストール確認画面が出たら、[OK]をクリックします。

4. パソコンを再起動します。

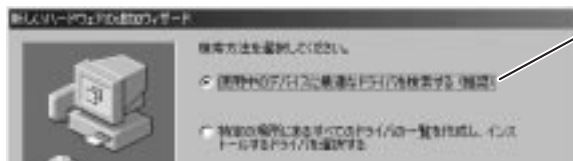
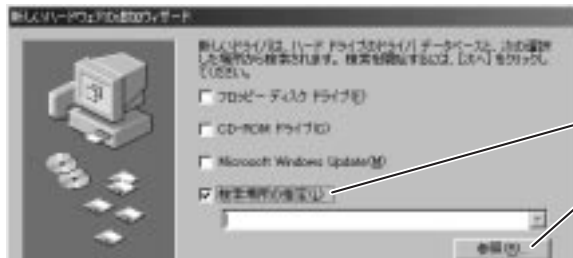
ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）

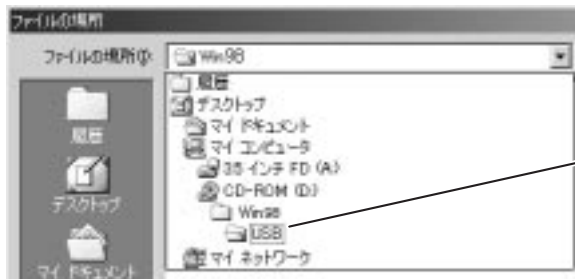
- このカメラ（DiMAGE Xt）のWindows®98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows®98/98SE用ドライバをインストールすると、USB接続が認識されなくなることがあります（逆は問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE Xtのドライバをインストールするだけで、それ以前のカメラのUSB接続もできるようになります。
- お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindows®システムCD-ROMをセットするようメッセージが表示されることがあります。この場合は、DiMAGEビューアーCD-ROMをWindows®システムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

- インストール後、接続時に右の画面が現れた場合は、もう一度ドライバをインストールする必要があります。→次ページ

接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、P.153の要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。以下の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

5. 検索場所を、[CD-ROM] − [Win98] − [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindows®システムCD-ROMをセットするようメッセージが表示されることがあります。この場合は、DiMAGEビューアーCD-ROM をWindows®システムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windows®をお使いの場合でカメラをパソコンに接続しても認識されなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社ホームページもご覧ください。　　http://www.dimage.minolta.co.jp/

Windows®XP/2000 Professionalの場合

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→ P.148
 ● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。
2. パソコンのデスクトップ上にある「マイコンピュータ」のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選びます。
 ● Windows®XPでデスクトップ上に「マイコンピュータ」がない場合は、[スタート] − [コントロールパネル] −（[パフォーマンスとメンテナンス]）− [システム] と選択してください。
3. 「システムのプロパティ」が表示されるので、「ハードウェア」のタブをクリックし、続いてその中の「デバイスマネージャ」をクリックします。
4. 「その他のデバイス」または「USBコントローラ」にカメラ名称を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。
 ● 項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
 ● カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」マークで表示されている項目を選んでください。
5. デバイスマネージャ画面の上部にある「操作」から「削除」を選んでクリックします。
6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。
7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動させます。

Windows®Me/98/98SEの場合

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→ P.148
 ● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。
2. パソコンのデスクトップ上にある「マイコンピュータ」のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選びます。
3. 「システムのプロパティ」が表示されるので、「デバイスマネージャ」のタブをクリックします。
4. 「その他のデバイス」または「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」にカメラ名称を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。
 ● 項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
 ● カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「?」または「!」マークで表示されている項目を選んでください。

5. デバイスマネージャ画面の下部にある「削除」をクリックします。
6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。
7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動させます。Windows® 98/98SEの場合は、この後P.153の要領で再度ドライバをインストールします。

オンラインラボ工房

付属のDiMAGEビューアーCD-ROMをWindows®パソコンに入れると、オンラインラボ工房をインストールすることができます。[オンラインラボ工房 インストーラの起動]をクリックし、画面指示に従ってインストールしてください。

オンラインラボ工房を起動させてインターネットに接続することにより、以下のサービスが可能です。
・撮影した画像のプリント注文ができます。
・年賀状などのポストカードの作成や注文ができます。
・オンラインアルバムに画像を保管してインターネット上にアルバムが作れます。アルバム上で画像を整理したり、友人に見てもらったり、そこからプリント注文したりすることができます。

ミノルタホームページ http://www.photo.minolta.co.jp のクラブ・フォトナビゲーションでも、上記と同様のサービスを行っています。こちらのサービスは、Windows®でもMacintoshでもご利用になれます。

QuickTimeのインストール（Windows®のみ）

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windows®で、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからインストールしてください。

- Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 5 動作環境

- Pentiumプロセッサを搭載したPC互換コンピュータ
- 32MB以上のメモリ（RAM）
- Windows®XP / 2000 Professional / Me / NT / 98 / 95オペレーティングシステム
- Sound Blasterまたは互換サウンドカード、スピーカーを推奨
- DirectXバージョン3.0以降を推奨

インストール方法

1. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2. [QuickTime インストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の [スタート] から [プログラム (P)] → [QuickTime] → [QuickTime Player] を選択します。

2. [ファイル (F)] から [新規 Playerでムービーを開く...(O)] を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、[開く] をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

PCカメラ(Windows®のみ)

カメラがパソコンへの画像入力装置(PCカメラ)になります。Windows NetMeeting, Windows Messengerと連動して、カメラで撮っている映像(動画)を、これらソフトウェアに取り込むことができます。

- ここでは、「Windows NetMeeting」を使用した場合について説明しています。

【Windows NetMeetingの画面】

PCカメラ 動作環境

- Pentium Ⅱ プロセッサ/300MHz以上を搭載した、IBM PC/AT互換機、または、NEC PC-98NXシリーズ
- Windows®XP / 2000 Professional /Me / 98 Second Edition オペレーティングシステム
- 128MB以上(Windows®XPでは256MB以上)の実装メモリ
- 200MB以上のハードディスク空き容量
- 800×600ドット以上、High Color(16bit)以上(Windows®XPでは 中(16bit)以上)を表示可能なディスプレイ
- CD-ROMドライブ(ドライバインストール時に必要)
- 動作確認済みアプリケーション
  Windows NetMeeting
  Microsoft Windows Messenger

このカメラで撮っている映像(動画)が表示されます。

ネットワークで接続されている相手もPCカメラ機能を持つ同様のカメラを接続して使用している場合は、相手のカメラの映像(動画)が表示されます。

これにより、相手の顔を見ながら話すなどパソコンをテレビ電話代わりにしたり、簡易なテレビ打ち合わせシステムとして利用することができます。

このカメラをPCカメラとしてパソコンへの画像入力装置に使用する際は、別売りのACアダプターAC-4のご使用をおすすめします。

PCカメラドライバのインストール

1. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

●左の画面が現れます。

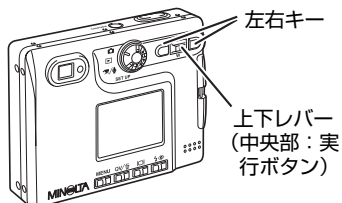
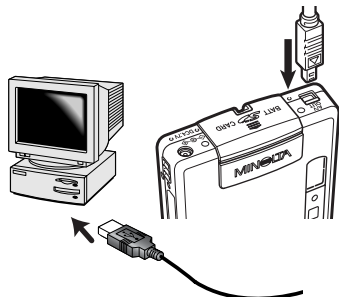
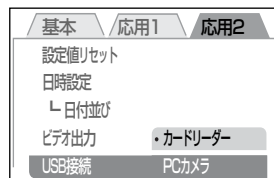
2. [DiMAGE PC cameraドライバインストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

Windows NetMeetingでカメラを使う

1. パソコンの電源を入れます。

2. メインスイッチを押してカメラの電源を入れます。

次ページへ続く →

3. 127ページの要領で、セットアップモードメニュー → [応用2] → [USB接続] から [PCカメラ] を選び、実行ボタンを押します。

4. 付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをカメラのUSB端子に、大きいほうのコネクタをパソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- USBケーブルは奥まで確実に差し込んでください。
- カードは入れなくても構いません。
- 液晶モニター左上に が、上部に PCカメラ が表示され、カメラがPCカメラモードになったことをお知らせします。
- アプリケーション（Windows NetMeeting, Windows Messenger）を起動する前に、カメラをPCカメラモードにしてください。
- 再生モード（▶）、または、セットアップモード（**SETUP**）でカメラの電源を入れたときは、カメラをPCカメラモードでパソコンに接続すると自動的にレンズ部のカバーが開きます。

5. Windows NetMeeting を起動します。

- 以下、通話の相手先も Windows NetMeeting を使用・すでに起動しており、PCカメラ機能を持つ同様のカメラを接続していることを前提に説明します。

6.NetMeeting の [ツール(T)] メニューから [ビデオ(V)] → [送信(S)] を選びます。または、ビデオの開始ボタン をクリックします。

- NetMeetingの画面に、このカメラで撮っている映像（動画）が表示されます（左下図）。
- カメラ本体の上下レバーでレンズのズーミングができます。シャッターボタンの半押しでオートフォーカスのピント合わせが行われます。
  NetMeeting の画面からズームとピント合わせの操作をするには → 167ページ

7.通話したい相手のパソコンのIPアドレスを入力して Enter キーを押します。

8.相手に「○○○○ からの通話を受信中」というメッセージが届きますので、[応答する(A)] をクリックしてもらいます。

- 相手のカメラの映像が表示されます。
- NetMeeting の使い方の詳細については、NetMeeting の「ヘルプ」をクリックしてください。
- PCカメラの操作を終了するには、アプリケーション（Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger）を終了させ、カメラの電源を切ってからUSBケーブルを取り外してください。

PCカメラ（Windows®のみ）

※カメラをパソコンにつないでPCカメラモードにしてからアプリケーション（Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger）を起動してください。アプリケーション（Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger）を起動してからカメラを接続しても、カメラの映像は表示されません。

※カメラのマイクは使用できません。音声をやり取りしたい場合は、各パソコンに対応したヘッドセット等を別途お買い求めください。

※PCカメラとしてご使用の際は、別売りのACアダプターAC-4のご使用をおすすめします。なお、新品電池をフル充電して使用した場合の使用可能時間は、約85分です（液晶モニターON、ズームとピントは固定）。

- 通話する両者が同じアプリケーションを使用する必要があります。一方が Windows Messengerで、もう一方が Windows NetMeetingでは、通話がつながりません。
- Windows Messenger は Windows®XP上でのみ動作します。Windows NetMeeting は、Windows®98/Me/2000/XP上で動作します。
- インターネットプロバイダから割り当てられている IPアドレスがプライベートアドレスの場合、プロバイダ側の制限でPCカメラの機能を使えないことがあります。詳細はご契約しているプロバイダにお問い合わせください。
- ブロードバンドルーターを利用して家庭内等でネットワークを構築している場合、プライベートIPアドレスで、かつ、ルーターを使って2台以上のパソコンを使用していると、PCカメラの機能を使えません。
- ブロードバンドルーターを通して Windows Messenger や Windows NetMeeting を使うには、そのルーターがユニバーサル・プラグアンドプレイ（UPnP）に対応している必要があります。詳しくはルーターのメーカーにお問い合わせください。
- ブロードバンドルーターにファイアウォール機能が備わっている場合は、新たにポートの設定が必要になることがあります。詳細はルーターの取扱説明書等をご覧ください。
- PCカメラの機能を十分に活用いただくには、ADSL、CATVインターネット、FTTH（光ファイバー）などの高速回線でお使いいただくことをおすすめします。

NetMeeting の画面から、レンズのズーミング（光学/デジタル）とピント合わせが行えます。

1. NetMeetingの画面で［ツール(T)］ー［オプション(O)...］を選び、オプション画面を表示させます(画面が表示されるまで時間がかかることがあります)。

2. ［ビデオ］タブをクリックします。

3. ［ビデオカメラのプロパティ］の［使用するビデオキャプチャカード(C): ］の箇所に、Minolta DiMAGE PC camera driverと表示されていることを確認し、その下の［ソース(U)...］をクリックします。

4. 表示されるカメラドライバの画面で［カメラ制御］タブをクリックします。

● ［拡大］スライダーを右側にドラッグすると望遠側に、左側にドラッグすると広角側にレンズがズームします（スライダーを操作してから実際にレンズがズームされるまで多少時間がかかります）。

● ［フォーカス］の自動□にチェックを入れると、1回だけピント合わせが行われます。再度ピント合わせを行うには、いったん自動□のチェックを外してもう一度チェックを入れ直します。
レンズをズームさせた直後にも1回だけピント合わせが行われます。そこでピントが合わなかった場合は、自動□にチェックを入れると、もう1回だけピント合わせが行われます。再度ピント合わせを行うには、いったん自動□のチェックを外してもう一度チェックを入れ直します。

メッセージ表示一覧

メッセージ	原因	対策	ページ
カードが入っていません	カードを入れてください。（カードなしでの撮影については → P.172）		26
カードがロックされています	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	書き込む場合は、カードのライトプロテクトスイッチを上げてください。	26
カードは使えません	カードをフォーマット（初期化）してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。		129
日付・時刻を設定して下さい	長時間電池を抜いたままにしておいたので、日時の設定が失われた	日時を再設定してください。（お買い上げ時にもこのメッセージが現れます。）	28
画像がありません	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした	画像が入っているカードを入れるか、先に撮影を行なってください。	—
表示できない画像です	他のデジタルカメラで撮影した画像などは表示できない場合があります。		—
音声を上書きしますか？	すでにボイスメモまたはアフレコが録音されている画像に、新たにアフレコを録音しようとしている	ボイスメモまたはアフレコは一回分しか録音できません。新しい音声を上書きする場合、古い音声は削除されます。	103
プロテクトされています	プロテクト（誤消去防止）をかけた画像を消去しようとしている	消去する場合は、先にプロテクトを解除してから消去してください。	101 104
カードに空きがありません	カードの容量がいっぱいになっている	画質を変えるか、画像サイズを変えるか、画像を消去してください。	30
コマ指定してください	消去、プロテクト、スライドショーの再生画像、DPOF（プリント）指定、メール画像作成で「コマを指定」を選んでコマを指定しなかった	どの画像を処理するかで「コマを指定」を選んだ場合は、上下レバーで対象となるコマを選んでください。	101 105 108 113 122

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
撮影ができない	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、ライトプロテクトスイッチを解除してください。	26
撮影・再生ができない	電池が消耗している	電池を充電してください。	20
	オートパワーオフが作動した	（初期設定では）約3分間以上何も操作をしないでいると、自動的にカメラの電源がOFFになります。	23
	カメラがパソコンに接続されている	パソコンに接続されている間は、撮影や再生はできません。	—
赤い0000が表示され、「カードに空きがありません」のメッセージが表れシャッターが切れない	カードがいっぱいである	画像サイズまたは画質を変更する、画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。	51 53 39 99 100
液晶モニターが点灯しない	液晶モニターがOFFになっている	液晶モニターボタンを押してONにしてください。	37
緑ランプが点灯せず、すばやく点滅している	オートフォーカスの苦手な被写体（P.34）を撮ろうとしている	被写体と同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを合わせて、フォーカスロック撮影を行なってください。	35
	被写体に近づき過ぎている	カメラより約15㎝以上離れたものにしかピントが合いません。	34
	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
緑ランプが点灯せず、ゆっくり点滅している	フラッシュ発光禁止や夜景ポートレート撮影のため、シャッター速度が遅くなっている	三脚を使って、カメラがぶれないようにして撮影してください。	—
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	36
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	—
写真の左側に画面外のものが写っている	ファインダーを使って近くのものを撮影した	近距離撮影の場合、ファインダーで見る画面と撮影される画面にはずれが生じます。液晶モニターを使って撮影してください。	36
画面の一部に黒っぽいものが写っている	レンズ部分に指や髪の毛がかかっていた	ファインダーを使って撮影すると、レンズに物がかかっていても見えないことがあります。物をかけないようにして撮影してください。	31
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—
パソコンがカードを認識しない	USBドライバのインストールに失敗した	一度アンインストールを行なった後、再接続（または再インストール）を行なってください。	157
	USB接続時のカメラ動作が「PCカメラ」になっている	セットアップモードメニューの［応用2］→［USB接続］で［カードリーダー］を選んでください。	144

次ページへ続く

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
アプリケーション（Windows NetMeeting, Windows Messenger）でカメラが機能しない	PCカメラドライバがインストールされていない	PCカメラドライバをインストールしてください。	163
	USB接続時のカメラ動作が「カードリーダー」になっている	セットアップモードメニューの［応用2］→［USB接続］で［PCカメラ］を選んでください。	144 164
	アプリケーションを先に起動してからカメラを接続した	カメラを先にPCカメラモードで接続してからアプリケーションを起動してください。	164 166
カメラが正常に作動しない	カメラの電源を切って電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。		—

カードなしでの撮影について

このカメラは、カードが入っていなくても静止画の撮影、および、クイックビューができます。
この場合、画像はカメラ内部のメモリに一時的に保存されますが、1コマ分の容量しかないので、撮影のたびに新しい画像に書き換えられます。したがって、クイックビューで表示できるのは、一番最後に撮影された画像（連続撮影の場合は最後の画像）のみです。クイックビュー画面からの消去はできません。
また、メモリに一時保存されているので、カメラの電源を切るとこの画像は消去されます。

カメラの電源を切らないでカードを入れると、「この画像をカードに保存しますか？」というメッセージが表示されます。左右キーで「はい」を選んで実行ボタンを押すと、最後に撮影された画像がカードに保存されます。

取り扱い上の注意

電池について

- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、完全に充電したばかりの電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
- いったん容量切れになった電池は必ず完全に充電してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は0〜40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

DPOF（プリント）指定について

- 他のデジタルカメラでDPOF（プリント）設定したカードをこのカメラに入れ、このカメラでDPOF（プリント）設定し直すと、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

SDメモリーカード・マルチメディアカードについて

- 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
  1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
  2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  3. カードへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
  4. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
- カードをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
- カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
- 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
- 強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられています。しかし、極めてわずかながら画素欠けや常時点灯するものがあります。これは故障や異常ではありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。また湿度の高いところに長時間放置しないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、カメラを作動させてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- 製品の修理に関しては、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせいただくか、修理依頼品を「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口にお持ち込みください。

アクセサリー（別売り）

マリンケース（防水・防塵）MC-DG200

水深30メートルの防水性を備えたマリンケースです。携帯性に優れているので、ダイビングを始めとするマリンスポーツはもちろん、陸上、アウトドアの一般のアウトドアスポーツでも気軽にお使いいただけます。

ACアダプター　AC-4

屋内などAC電源が使える場合は、ACアダプター AC-4を使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。

チャージスタンド BC-300用　ACコード

チャージスタンド BC-300 に付属のACコードはAC100-120V仕様で、日本、アメリカ、カナダ、台湾での使用が可能です。他の国または地域で使われる場合は、その国や地域に応じたACコードを弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは、ホームページ http://www.photo.minolta.co.jp のFAQ をご覧ください。

地域	ACコード
日本向け（100-120V仕様） ※そのまま アメリカ、カナダ、台湾でお使いいただけます	ACコード APC-140（付属の同梱品）
ヨーロッパ（イギリスを除く）・中国・韓国・シンガポール向け（220-240V仕様）	ACコード APC-110（別売り）
イギリス・香港向け（220-240V仕様）	ACコード APC-120（別売り）

その他

下記のようなケースやストラップ、予備用のリチウムイオン電池もご用意しております。

- カメラケース CS-DG400
- カメラケース＆ストラップ CS-DG410
- メタルチェーンネックストラップ NG-DG100
- リチウムイオン電池 NP-200
- 本革ケース CS-DG420
- 本革ネックストラップ NS-DG400/NS-DG200

この使用説明書裏面に記載のホームページで、詳しい情報についてご覧いただけます。

主な性能

カメラ本体

有効画素数	約320万画素
撮像素子	1/2.7型総画素数330万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
撮像感度	自動（ISO 50～160相当）、ISO50、100、200、400相当
レンズ構成	8群9枚
焦点距離	5.7～17.1㎜（35㎜フィルム換算：37～111㎜相当）
開放絞り値	F2.8～F3.6
撮影距離	0.15m～∞（カメラ前面から）
最大撮影倍率	0.10（35㎜フィルム換算で0.58倍相当）
ズーム方式	電動インナーズーム
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスフレーム	ワイド（5点マルチ）/スポットフォーカスフレーム切り替え可能
ホワイトバランス	オート、昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯
測光方式	256分割測光、スポット測光
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用 シャッター速度：4～1/1000秒
露出制御方式	プログラムAE
露出補正	±2EV（1/3EVステップ）
フラッシュ制御方式	プリ発光による発光量制御
フラッシュモード	自動発光/赤目軽減自動発光/強制発光/発光禁止/夜景ポートレート(赤目軽減)
フラッシュ連動距離	広角：約0.15～3.2m、望遠：約0.15～2.5m（カメラ前面から） (撮像感度Auto時)
充電時間	約6秒
ファインダー形式	実像式光学ズームファインダー
アイポイント	15.3㎜（接眼レンズより）、14㎜（接眼枠より）
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、TIFF、Motion JPEG（MOV） DCF 1.0準拠 DPOF（Ver. 1.1）のプリント機能に対応、Exif 2.2
記録フォルダー形式	標準形式、日付形式

PIM (PRINT Image Matching)Ⅱ	対応
Exif Print	対応
記録画素数	静止画：2048×1536、1600×1200、1280×960、640×480 動画：320×240、160×120
画質モード	エコノミー、スタンダード、ファイン、TIFF
カラーモード	カラー、モノクロ、セピア
ノイズリダクション	あり/なし（選択可能）
Exif. Tag情報	撮影年月日時分、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離、光源、デジタルズーム倍率、彩度、35mm換算焦点距離、コントラスト、シャープネス等）、色空間情報、Exifバージョン etc.
消去機能	あり（1コマ/全コマ/コマを指定） 独立1枚消去ボタン（クイックビュー/消去ボタン）
誤消去防止機能	あり（1コマ/全コマ/コマを指定）
フォーマット機能	あり
日付写し込み機能	年月日/月日時刻/なし（選択可能）
液晶モニター	3.8㎝（1.5インチ）低温ポリシリコンTFTカラー　モニター画素数：11万画素　視野率：約100％
表示内容	撮影時：ライブビュー、各種状態表示 再生時：再生画像（1コマ/インデックス6コマ/動画/音声）、各種状態表示 拡大再生可能：0.2倍刻みで 1.2倍〜6.0倍
連続撮影	約1.3コマ/秒（撮影条件に依る）
セルフタイマー	約10秒
動画	ファイル形式：Motion JPEG（MOV）　画素数：320×240、160×120　フレームレート：15フレーム/秒　録画時間：無制限（カードの容量に依る）　音声付き（モノラル）
音声	ボイスレコード（最大180分）、アフレコ（最大15秒）、ボイスメモ（最大15秒）　ファイル形式：WAVE（モノラル）

主な性能

デジタルズーム	0.1倍刻みで 1.1倍～4.0倍、なし選択可能
操作音	あり/なし（選択可能)、音量調節可能（3段階）
シャッター音	3種類から選択可能、内1種類はお客様が録音して設定可能
メール画像作成機能	あり（640×480、160×120）
使用電池	専用リチウムイオン電池
外部電源	DC 4.7V (ACアダプター使用時)
連続動作時間	連続再生：約120分　当社試験条件による
撮影可能コマ数	約130コマ　当社試験条件による（専用リチウムイオン電池使用、液晶モニターON、画像サイズ2048×1536、画質スタンダード、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ50%） 約200コマ　当社試験条件による（専用リチウムイオン電池使用、液晶モニターOFF、画像サイズ2048×1536、画質スタンダード、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ50%）
PCインターフェース	USB (Ver1.1)
PCカメラ	対応（カメラからの音声出力対応なし）
対応OS（マスストレージ）	Windows®XP/Me/2000 Professional/98 Second Edition/98 Mac OS 9～9.2.2、Mac OS X 10.1.3～10.1.5/10.2.1～10.2.3
対応OS（PCカメラ）	Windows®XP/Me/2000 Professional/98 Second Edition
USB DIRECT-PRINT	対応
A/V出力	NTSC/PAL切り替え可能
大きさ	85.5（幅）× 67（高さ）× 20（奥行き）㎜
質量（重さ）	約120㌘（電池、記録メディア別）

リチウムイオン電池 NP-200

電圧	3.7V
容量	750mAh
使用温度範囲	0～40℃
保管温度範囲	−20～30℃
使用/保管湿度範囲	45～85%（結露しないこと）
大きさ	31.5（幅）×52.0（高さ）×6.5（奥行き）㎜
質量（重さ）	約20㌘

チャージスタンド BC-300

入力電圧	AC100～240V※
入力周波数	50/60Hz
入力容量	10～13VA
充電出力	DC4.2V 650mA
充電時間	NP-200単体で充電時：約80分 NP-200をDiMAGE Xtに入れて充電時：約120分
使用温度範囲	0～40℃
使用湿度範囲	45～85%（結露しないこと）
大きさ	92（幅）×23.5（高さ）×67（奥行き）㎜
質量（重さ）	約85㌘（ACコードを除く）

※チャージスタンド BC-300に付属のACコードはAC100-120V仕様で、日本・アメリカ・カナダ・台湾でそのままお使いいただけます。その他の国や地域で使われる場合は、その国・地域に応じたACコードを弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは、177ページ、または、ホームページ http://www.photo.minolta.co.jp の FAQをご覧ください。

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

次ページへ続く

ミノルタ株式会社

ホームページ

個々の製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問(FAQ)とその回答などのサポート情報については、以下フォトイメージングのホームページをご覧ください。
http://www.photo.minolta.co.jp/

弊社デジタル製品の商品情報については、以下のホームページをご覧ください。
http://www.dimage.minolta.co.jp/

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 03-5351-9410
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 03-3356-6303

受付時間 10:00～18:00(日・祝日定休)

0-43325-53143-9

1AG6P1P1575--
9223-2786-61 SY-A302